

建築設計製図優秀作品集 2015

「日本食文化の振興を目的としたインターナショナルコンベンションセンターの提案」
重田秀之・斉藤賢司・高橋政頼・浅見 花

「時間の世界」 渡邊裕太

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」 勝部秋高・服部 立・Lunenkova Anastasia

「傘の内部から」 Lunenkova Anastasia

「微炭酸に溺れて」 吉本麗音

「点・線・面から空間へ」 佐藤絳里・篠原 健・吉澤果南・西河内亮・大野拓己・野尻連太郎

「Funabashi Organic Project—農園のあるちょっといい暮らしを船橋で—」
大野真由美・森田達也・渡邊 亮

「City in the HAND」 勝部秋高

「驛上都市 人口減少社会に突入した郊外における立体都市の提案」 重田秀之

「郷里の遺産 秩父セメント第二工場の空き建築の利用」 中西宏直

「訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案」 浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設的设计」 川崎 将

「豊海 海の駅計画」 佐々木秀人・濱嶋杜人

「水族館」 佐々木秀人・濱嶋杜人

「伝統工芸品の国際拠点とするまちづくり」 高橋 翔・千葉雄介・中西宏直・今村夏波

「新宿群中街 新宿ゴールデン街更新計画」 高橋 翔

「プレゼンテーション」

永富 快・宮嶋悠輔・門口雅奈／福富大真・江田拓海・谷 醒龍／
蒲生良輔・飯塚智哉・野崎健人

「まちなかホスピスのあり方 地域の特性を活かしたホスピスの提案」 浅見 花

「街の美術館」 黄 起範・中村圭佑

「光の空間」
新井義友・大野拓巳・Lunarkova Anastasia・勝部秋高・山本壮一郎・西島航太・高橋遼太郎・矢部春恵

「送られる卵たち」足立一真

「台風の日」藤田優美

「水と緑と花と愛」加藤千尋・小海 諄・笹川泰佑・田島実季

「首都圏における橋の防災拠点化計画の提案

—東京都品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとして— 山川大喜

「公園沿いの住宅」黄 起範・金井亮祐

「北十間川の集合住宅」加賀山陽平・新井侑子

「渓谷ヘトポフィリア 温泉街再生を目的とした宿泊施設の提案」森 浩平

「Grow up Funabashi!」吉本昂立・佐野亜莉花・高木祐輔・野口 翔

日本大学理工学部 海洋建築工学科

建築設計製図優秀作品集 2015

CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習)	2
2年生 (デザイン演習 I、デザイン演習 II)	9
3年生 (デザイン演習 III、建築メディアデザイン)	16
4年生 (総合演習 I、総合演習 II)	27
卒業設計	33
修士設計	42
コンペ受賞歴一覧	46

1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

ベーシックデザイン演習（後期）

第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」
（出題：佐藤信治）

【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることのできる小さなものが、まるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。小さくなった皆さんは、普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことの無い空間に入って周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。そうした内部空間に立ち、最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。さらにあなたが見つけ出したこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

【提出物】

- ① ケント紙に描いた作品。裏面に、
① 担当講師氏名、② 学生番号・氏名、
③ 描いた対象物とタイトルを記入
- ② 作品タイトルと空間の説明文を記したA4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

【採点基準】

- ① 描く対象物への着重点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてもそのようには見えないという視点を選んでください）
- ② 表現の密度
- ③ 説明の適切さ
- ④ 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

第2課題

「光の空間」
（出題：水野吉樹）

【課題趣旨】

空間をつくる上で「光」は最も大切な要素のひとつです。かたちや空間を認識することに他なりません。つまり光と影を操作することは、空間をつくる行為そのもののなのです。『Structure gives light makes space 構造は 光を与え 光は 空間をつくる』これは20世紀の巨匠建築家ルイス・カーンの言葉です。構築物が重力を支えるだけではなく、光の受け手であり、光を可視化できるものであるということを示しています。彫刻家は石を削り、画家はキャンバスに絵の具をのせていきます。では建築家はいかにして「空間」をつくるのか？ それはそこに導く「光」によってだ……という視点なのです。

【提出物】

- ① 模型：外形5m×5m×5mの内部空間をもつ立方体の模型（内部に1体の人物を入れ込む。縮尺1/20、6面のうち1面はない状態で作成）
- ② 図面：以下をA2判2枚にまとめる
・平面図：1/20（2面、切断位置GL+1,000、GL+3,000）
・断面図：1/20（1面）
・模型写真：2L判
・タイトル+設計趣旨：300字程度

【評価基準】

- ① 光の現象や表情の面白さが、空間に活かされているか。
- ② 採光方法に工夫や独自性があるか。
- ③ 使用材料をうまく加工した模型か。
- ④ 空間表現にどんな意味を与えたか。
- ⑤ 光と影の操作に関係のない平面的な装飾は求めません。

第3課題

「点・線・面から空間へ」
（出題：玉上貴人、神野郁也）

【担当】 佐藤 信治
内海 智行
佐藤 浩平
神野 郁也
玉上 貴人
鶴田 伸介
廣部 剛司
水野 吉樹

【課題趣旨】

建築の空間は線や面といった基本的な部材の構成によって成立しています。課題では、装飾的なものを用いず、シンプルな線や面を組み合わせることで、三次元空間を創造してください。

【課題条件】

- ① 部材の高さは3m、6m、9mの3種類を基本とし、幅、厚さは自由。
- ② 部材の穴あけや矩形を逸脱するカット、折曲げや曲面加工は禁止。
- ③ 線材、面材の集合による曲面的表現は可。
- ④ 敷地に水面を設定することも可。ただし、透明素材などによる。
- ⑤ 人間が介在する場所として空間をしています。彫刻家は石を削り、画家はキャンバスに絵の具をのせていきます。では建築家はいかにして「空間」をつくるのか？ それはそこに導く「光」によってだ……という視点なのです。

【提出物】

- ① 空間構成の模型 スケール1/50
・20m×25m（実寸400mm×500mm）の敷地に高さ10m（実寸200mm）以下
- ② デザイン趣旨
・A4レポート用紙（縦使い横書き）
・作品タイトル
・趣旨を300～400字程度で簡潔に表現。（イメージスケッチ等付加表現も可）
・模型写真（サイズ2L程度）
・学生番号、氏名、指導担当講師名

【評価基準】

- ① 表現したいコンセプトやイメージが実現されているか。
- ② スケール感を把握しているか。
- ③ 光の魅力を空間に生かしているか。水面を設けた人は、水の魅力を生かしているか。
- ④ 模型やコンセプトシートをきちんとつくっているか。

第4課題

「水辺に佇むマイ・スペース + others」
（出題：廣部剛司、佐藤浩平）

【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、課題ではさらに「+others」の要素が求められます。それは建物を周辺環境とつなぎながら、自分以外の複数の誰かとの接点を想定し、その場所における共同作業を含んで計画することです。つまり課題では「専有」と「共有」を多角的に考えることが求められます。皆さんの閃きとアイデアを生かし、敷地および周辺の環境が新しい建築を含めた魅力ある場所となり自分や親しい仲間、その場所に訪れる人々に「素敵何か」を与える提案を期待しています。

【設計条件】

計画地：千葉県船橋市坪井町1371
敷地面積：300㎡（60坪）
延べ面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
構造：形式自由、階数：自由
・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。
・電気・ガス・上下水道は供給済み。
・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

【提出物】

- A2判ケント紙横使い4枚。以下のうち①に1枚、②～⑤に3枚を割り当て。
- ① 表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
 - ② 配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
 - ③ 平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
 - ④ 断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表示する）
 - ⑤ 立面図：1/50（各面4面以上）
 - ⑥ 模型：1/50（プレゼンテーション用。現物提出、採点後返却。写真は①に添付）
- 図面は原則鉛筆描き、インキングも可。

ベーシックデザイン演習 第1課題 ミクロの世界に立ってみよう

■講評

ミクロの世界に立ってみようの主旨は、毎年のことながら空間の中に自分を置いてみることであり、さらにその中で見える空間の状況をわかりやすくスケッチやタイトルで伝達することにあります。ですから、どんなにすばらしい空間を想像しても、それを上空からのぞき込んでいる状態でスケッチしては、この課題の目指すところではありません。

空間に立つということを表現すると

きに最も大切なことは、自分の立ち位置の床からその廻りの空間がつながっているように表現することです。そうすることで、極めて小さい空間でありながらその場に立っているように見えることとなります。ぜひ、そうしたことを意識して考えて描いてほしいと思います。

●足立一真「送られる卵たち」：丸い錠剤のような物体が大きな穴に向かって行くような状況を描いた作品です。陰影の付け方など丸い様子が丁寧に描かれていますが、作者の立ち位置が明確ではない点が残念でした。

●渡邊裕太「時間の世界」：定番となっている構図ではありますが、時計の文字盤に立ち、上空を横切るギロチン

のような針がダイナミックな空間を演出しています。

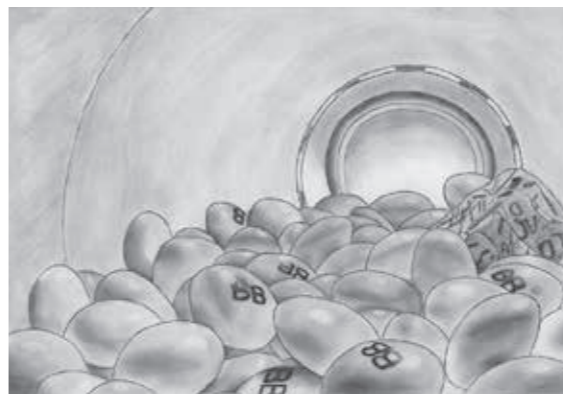
●藤田優美「台風の日」：SF映画の宇宙船のように見えなくてもいいですが、扇風機をクローズアップしたとすぐわかるようになってしまっています。全体的には、細かいところまで丁寧に描かれている点は好感が持てますが、羽の一枚に立っているように描かれていれば、もっとダイナミックな構図になったと思われることが残念でした。

●勝部秋高「City in the HAND」：未来の都市を思わせるようなダイナミックな空間が描かれています。よく見ると、集積回路の上になっていることが段々わかってきます。自分が電子になって、その未来都市を駆け回っ

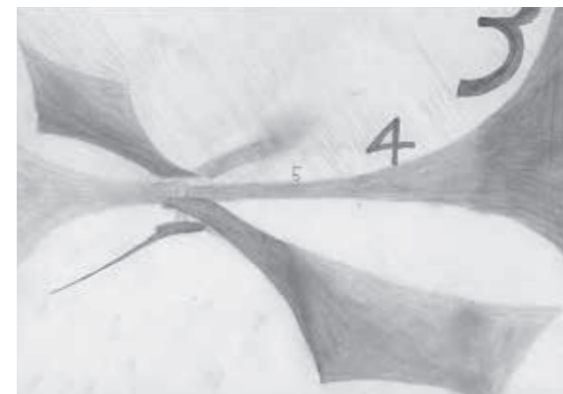
ている情景が想像できます。

●Lunenкова Anastasia「傘の内側から」：これは一瞬宇宙空間に浮かぶ宇宙ステーションのようにも見えますが、実は今まさに広げようとしているビニール傘の柄の部分に立っていることがわかります。ビニールと絵の部分の質感も良く表現されており、自分の立ち位置も明確となっている佳作といえるでしょう。

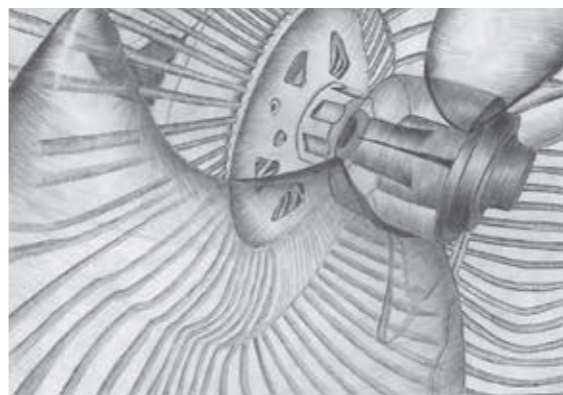
●吉本麗音「微炭酸に溺れて」：これは、ペットボトルの容器の中から飲み口方向を見た光景です。こうした日常の何気ない素材を選んだところが評価されました。この作品も立ち位置が明確に描かれていないという点では残念です。（佐藤信治）



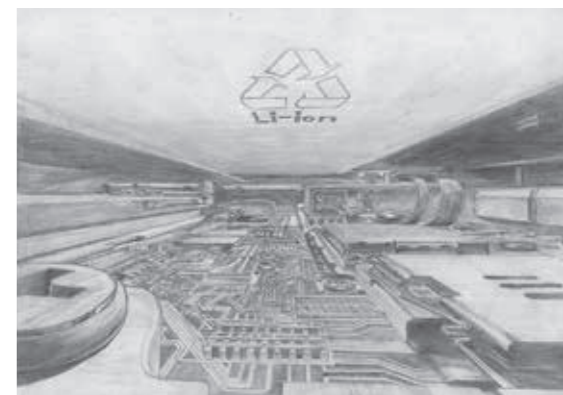
足立一真「送られる卵たち」



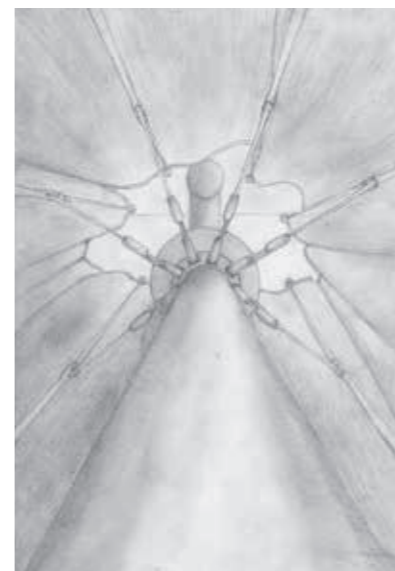
渡邊裕太「時間の世界」



藤田優美「台風の日」



勝部秋高「City in the HAND」



Lunenкова Anastasia「傘の内側から」



吉本麗音「微炭酸に溺れて」

ベーシックデザイン演習 第2課題
光の空間

■講評

かたちや空間を認識するということは、光そのものを知覚することに他ならない。光と影の操作とは、空間をつくる行為そのものである。建築の「光」について考え、デザインの大切な構成要素として扱うこと、その初めの一歩として、外形5m×5m×5mの内部空間をもつ立方体の中の「光の空間」を、1/20のスケールで表現するという課題に対し、バリエーション豊かな秀作が揃った。

●**新井義友**：それぞれ半径の異なる1/4の円柱の、表面のストライプ模様を0°・45°・90°と角度をずらしながら3層に重ねている。柔らかく制御された光が、スリットから漏れる光よりむしろ影の重なりを強調して、美しいシルエットのハーモニーをつくることができた。●**大野拓巳**：何枚もの羽根が螺旋を描くようにして、手前に迫り奥に伸びる。反射する光と、影をつくる光とが巧みに組み合わせられ焦点を結ぶ。その焦点の中心からのズレが空間の動きを演出し、光の向こうからは風が吹いてくるようだ。●**Lunenkova Anastasia**：水上から差し込む光、水中で渦を巻く影。詩的な構成ながら、簡潔にして饒舌な舞台装置のよう

で、限られた空間の中のコンセプトチュアルな表現が海底の拡がりを感じさせてくれる。●**勝部秋高**：光のグラデーションがつくる奥行きは時間を、幾何学模様の微かな変化は未来への自身の成長を表現しているという。光を受けるのも遮るのでもなく、「透過する光」に着目して素材の厚みをさまざまに変えているところが、コンセプトとともに独創性に溢れている。●**山本壮一郎**：線として面としての存在を曖昧にして、3次元空間を自由に駆け巡り、光を受ける角度を自在に変化させる受光体の力強い造形には、空間のX・Y・Z軸のヒエラルキーをも曖昧にしてしまう魅力がある。●**西島航太**：光の境界線が、空間の歪みの中に閉じ込

められた空気のかたちを強く意識させる。何の変哲もない立方体が、極めてシンプルな操作によって、プリミティブでユニークな空間に仕立て上げられた。●**高橋遼太郎**：等間隔のスリットから漏れる光、ランダムなスリットから照射される光、それらに照らされる造形とその影を対比的に見せて、「明」と「暗」という光のイメージから、空間の表と裏を同時に表現しようとしているところがユニークだ。●**矢部春恵**：明るく照らされた壁を背景に、光の密度を変えながら重なりあう幾何学模様の線と面、奥行の生まれた中央に差し込む光の筋。天空から降り注ぐ光の性質を組み合わせた演出が多彩で、楽しい空間となっている。(水野吉樹)

ベーシックデザイン演習 第3課題
点・線・面から空間へ

■講評

本学科では同じタイトルで毎年出題されてきた課題であり、もともとはバウハウスにおけるカンディンスキーの

基礎造形理論に倣ったものである。限られた部材のみを用いることで抽象的空間表現を学ぶことが趣旨であるが、本年度の学生の提出物からは近年の建築表現の多様化の影響が感じられた。本年度は出題の際、建築の基本的構成要素を「線・面・ボリューム」に分類した実例と、それらの要素を用いて形態操作された建築の実例をスライドで紹介した。とくに形態操作の手法として「重ねる」「折る」「振る」など動詞化を心掛けるよう指導した。その影響からか例年以上にバラエティに富んだ作品が生まれ、教室保存作品として以下の6作品が選ばれた。

●**矩形の輪を積層させることで、モダ**

ニズム建築らしい垂直水平を強調した**佐藤絆里**さんの作品
●**単純形態をあえて崩す表現をしたデコンストラクショニズム的な篠原健君**の作品
●**等幅で高さの違う線材の集合を二次元的に蛇行させた吉澤果南**さんの作品
●**さまざまな大きさの短冊状の部材を回転させながら三次元的につなげた西河内亮**君の作品
●**矩形部材を重ね徐々に傾けていくことで三次元曲面を表現した大野拓己**君の作品
●**規則的に林立させた線材にランダムな線材をちりばめた樹林のような趣きの野尻連太郎**君の作品

いずれも良案だが、空間化されていない印象を受ける作品がいくつかあったのは反省点といえる。これらの作品に共通していることは要素や操作を単純化していることである。そのうえで建築表現の遍歴を辿るようなさまざまな表現が生まれたことは興味深い。後者の3作品、とくに野尻君の線材の集合によるファジーな表現は構造的な合理性を感じさせず、もはやバウハウスの文脈とは結び付け難い新鮮さをもっている。こうしたオリジナルの課題趣旨を超える作品が学生の力によって生まれたことは大変喜ばしく、今後も期待していきたいと思う。(玉上貴人)



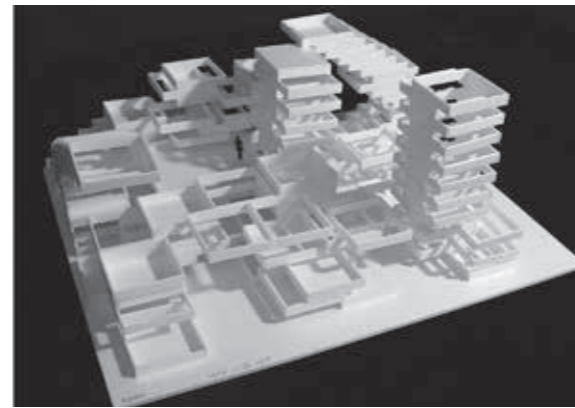
新井義友



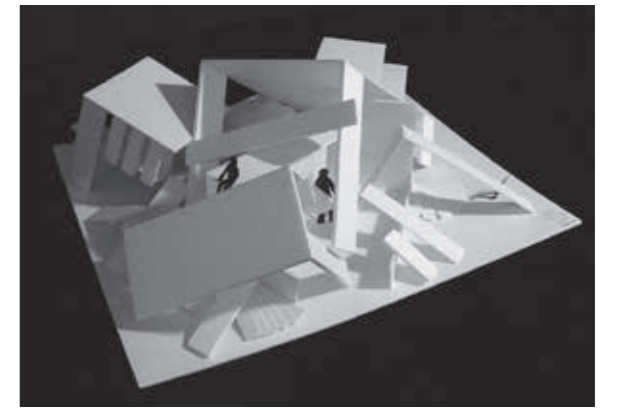
大野拓巳



Lunenkova Anastasia



佐藤絆里



篠原 健



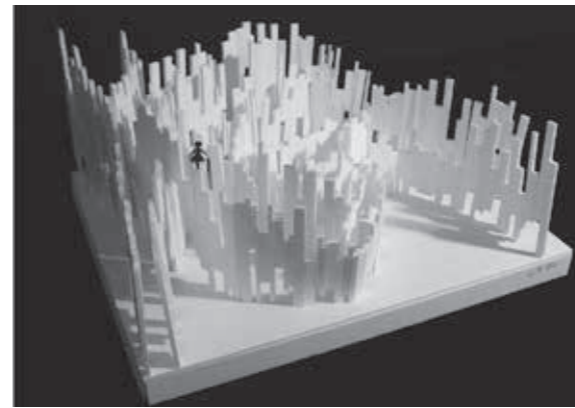
勝部秋高



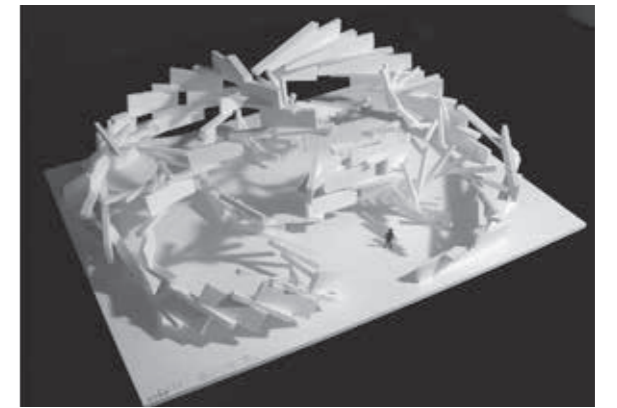
山本壮一郎



西島航太



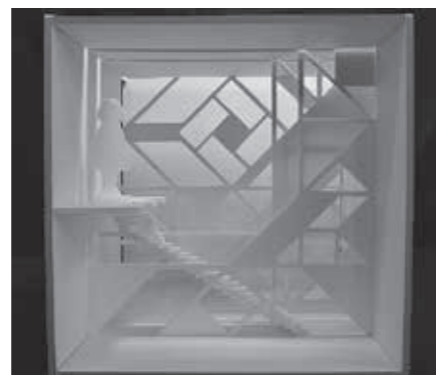
吉澤果南



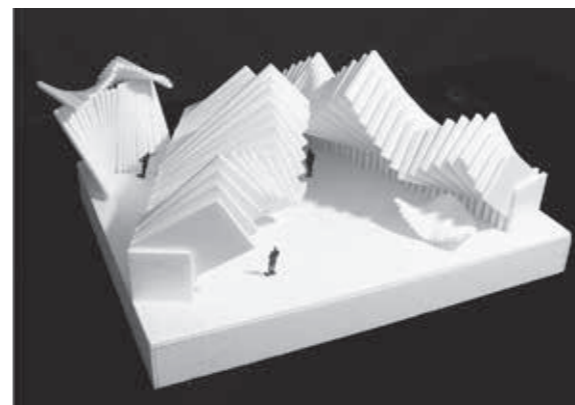
西河内亮



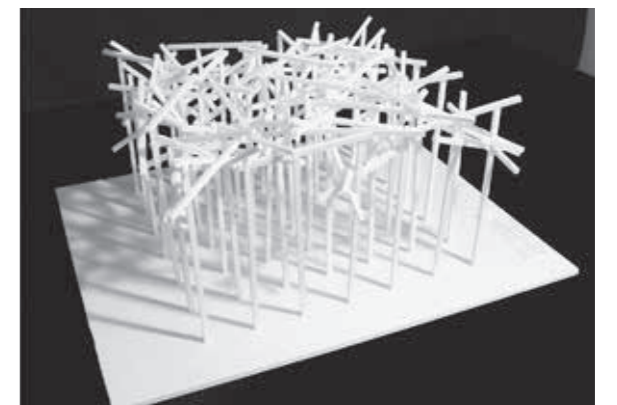
高橋遼太郎



矢部春恵



大野拓己



野尻連太郎

ベーシックデザイン演習 第4課題
水辺に佇むマイ・スペース
+ others

勝部秋高

■コンセプト 「選択可能な共同空間」

正直、課題名である「水辺に佇むマイ・スペース+ others」に矛盾を感じていた。しかし、この課題名が意味するのは公園の水辺空間に建物を作り出せば公共性を免れない建築物となり、従来の住宅の私的な感情以上に社会的な要素が大きくなるとともに、個別的な感情のみならずパブリックな関係を考慮した空間形成が必要であることを示す。湾曲する壁が椅子の代わり

になる一筆書きのデザインはこの前提から生まれた。もし、社会構成の最小単位が「私」であれば、その周りに形成される共同体に公共空間と個別空間をつなぐセミパブリックな空間利用者が存在する。こうした物語を展開すべく、階段を登り人々が好みの「他者との共有空間」を探し、その階に行けるように設計した。陸上と水辺をつなげるべく、公共性を重視した1階や湾曲した壁を持つ内部空間とパブリックな屋上緑化の2階など、ソシオファーマルな個人・ソシオベタルな集団が相互に共存するための空間を階ごとに選択できるのだ。

■講評

これは長年設定している課題であるが、実はその課題自体に最初から矛盾点をはらんでいる。「マイスペース」という個人のテリトリーを示唆するようなキーワードから空間を導いていくわけだが、敷地設定は毎回パブリックでロケーションの良い場所を設定している。だから、必ずその空間を何らかの方法で「共有」する必要が生じる。ではどんなスタンスで「マイ」を考えていくのかということが、計画上の重要な論点になるわけだ。なお、敷地は課題に取り組んでいる間、敷地に何度でも訪れられるようにという配慮から大学近くにある公園内の水辺が設定されている。

勝部君の案は、徹底して公園に対し

て開いている。それは、〈場〉を提供することで訪れる人それぞれが、自分で心地よいと感じる居場所を探し、自由に過ごしてくれるだろう……という種の信頼感に委ねたプログラムだといえる。その意図を表すための建築的な手法として、地面から湾曲しながら一筆書きに上昇するスラブ（床であり、天井である）が採用されている。そのような場のつくり方に個人的なプライバシーを担保しない代わりに、つくり方そのものの背後に作者のデザイン意図（マイ）が強く表れている。それ故に、できあがった建築デザインにはシンプルな強さが生まれ、迷いの感じられない計画案の明快さに結びつくこととなった。

(廣部剛司)

ベーシックデザイン演習 第4課題
水辺に佇むマイ・スペース
+ others

服部 立

■コンセプト

まず、自分が行きたい場所をつくることを前提としました。そのため水辺がテーマと知った段階で趣味である釣りを取り入れようと決めました。実際に敷地を訪れ、この心地よい水辺で釣りができたらと想像を膨らませました。これら池の曲線になじむ軽やかな外観にまとめ上げ、「水辺のフィッシ

ました。一部のマニア向け施設に仕なかつたからです。寒い冬、暑い夏でも女性や子どもが快適に釣りを楽しめるよう、池に張り出した室内釣り場を設けました。ガラス張りの空間がまるで屋外かのような解放感を与えます。さらに、屋上をオープンカフェとしたため、釣りをしない人も水辺の風景を楽しみながらお茶や読書を嗜むことができます。

池側にウッドデッキを設けることで、池の畔に沿った散歩やランニングの妨げになるのを防ぐだけでなく、ガラス越しに見える利用者がこの施設への興味をそそります。

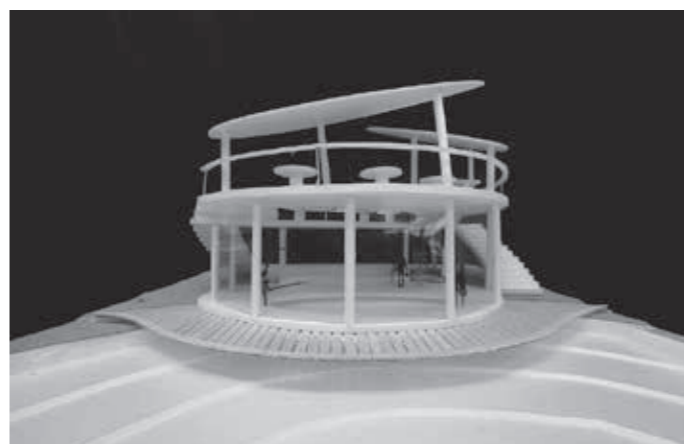
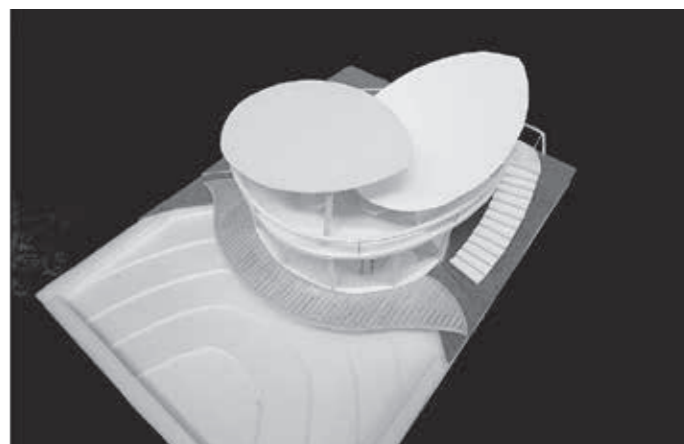
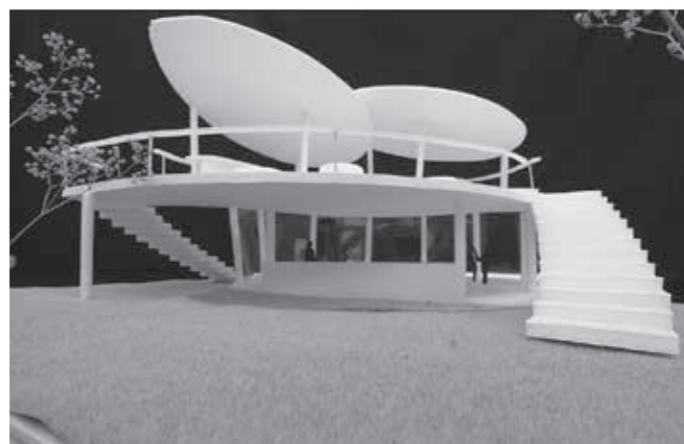
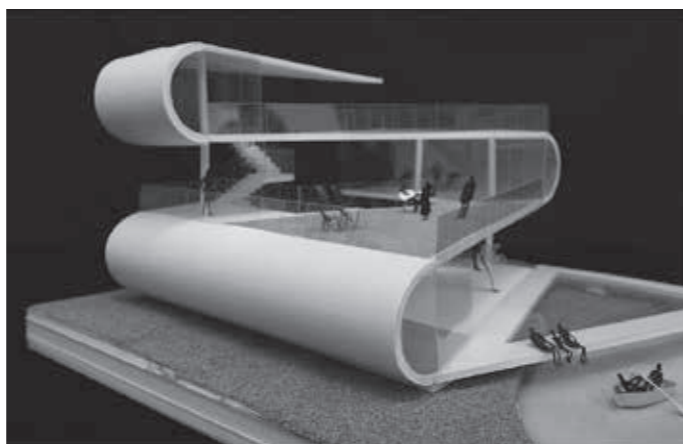
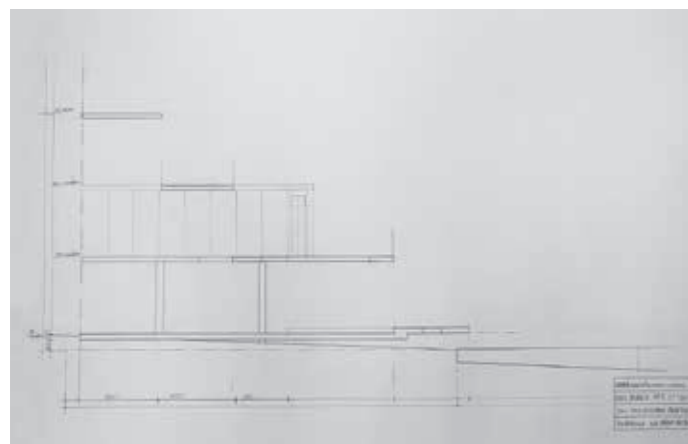
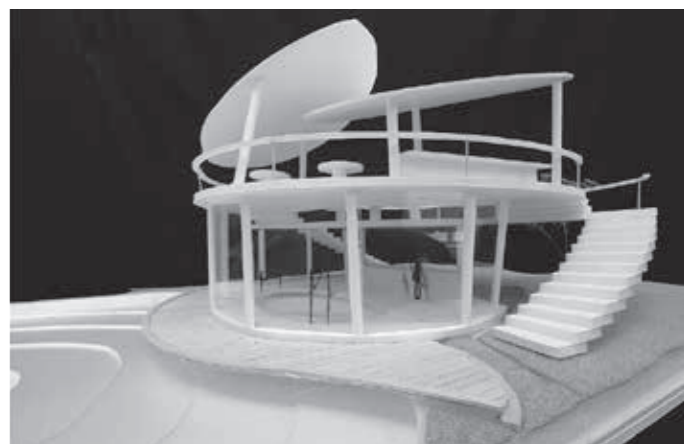
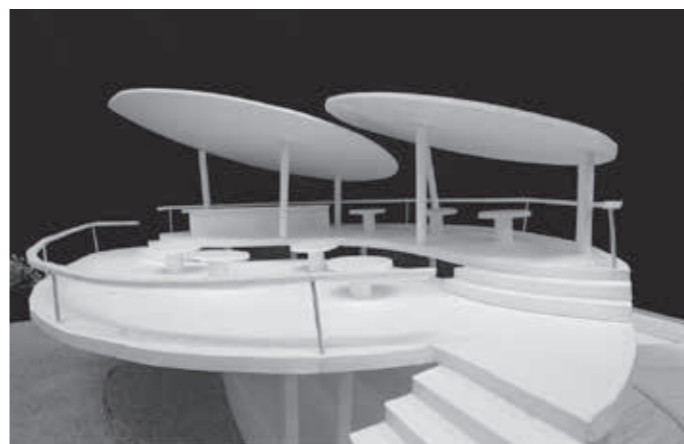
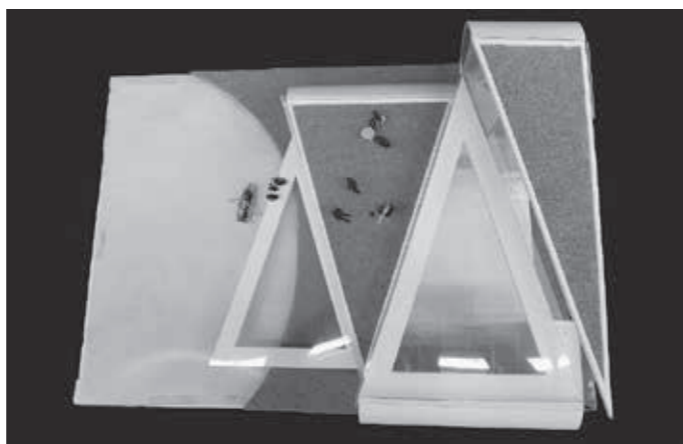
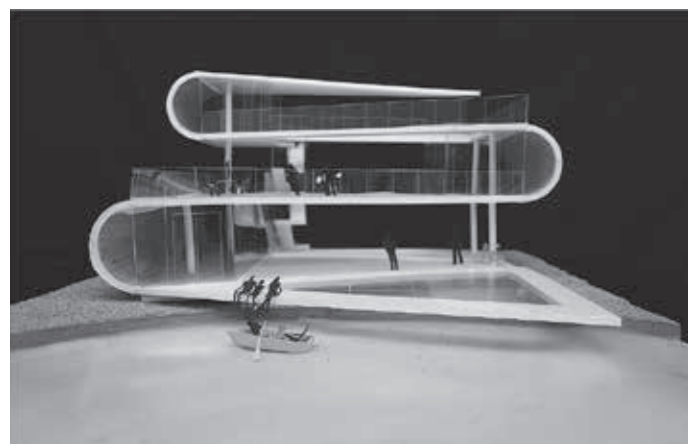
これらを池の曲線になじむ軽やかな外観にまとめ上げ、「水辺のフィッシ

ングカフェ」が誕生しました。

■講評

ただただ、景色を眺めながら過ごすカフェという作品が多いが、それは大きなリビングでしかない場合がほとんどであって、もっと積極的に社会的な関係を生み出しているかという意識を持ってほしい。この作品は作者の趣味である釣をするためのものである。やはり趣味を前面に出す案は強い。それでいいのである。とにかくのめりこんで考えられるテーマを選ぶことが大事である。さて、この計画は「一部のマニア向けの施設でなく、だれもが利用できるもの」としたことで魅力的なものになったと言える。さらに天候や

季節等に配慮している点も評価できる。中の様子が外部から容易に把握することができ、安心して利用できるようなになっている。「池の曲線になじむ軽やかな外観……」とのことであるが、正円ではないにしろ円が完結してしまうことによって「なじんだ」関係を損ねているようにも見える。そう。丸は難しいのである！ 屋上の2つの楕円もどきのようにも見えるが、まずはナイストライ！ というべきであろう。形なんてははっきり言って1年生でもいいためである。それよりもおおらかに水辺に人を引き寄せる魅力を持たせるべくスタディを繰り返した成果が表れていることがとても重要であると思う。がんばれ服部！ (佐藤浩平)



Lunenkova Anastasia

■コンセプト 「リラックスできる空間」

この課題では公園に公共施設を造るということで、家族みんなが揃って楽しんだり、自然の景色を眺めながらくつろいだり、リラックスできる空間をテーマにした。実際にこの公園を見学してみて、広い公園なのに座れる場所が少ないと思ったので、自然の中でゆったりとリラックスできる場所を造りたいと思った。

下のフロアは湾曲した壁の取入れで

両サイドを使えるようにし、パブリックの空間とプライバシーがある空間に分けた。この壁は影がある場所を作るので、一日中リラックスできるようなスペースになっている。

上のフロアには周囲の景色を眺めながら、コーヒーなどを飲んでのんびり、リラックスできるカフェを造った。

この建物全体の丸い感じは、目の前にある池の形をイメージし、横の池から上のフロアにつながっている丸みを帯びた部分は建物を構造的に支える役割のほかに、池から出てきたような、建物と池を一体化させる役割も持っている。

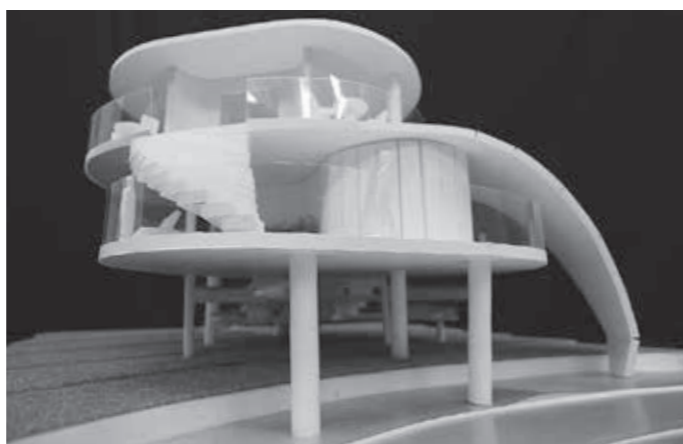
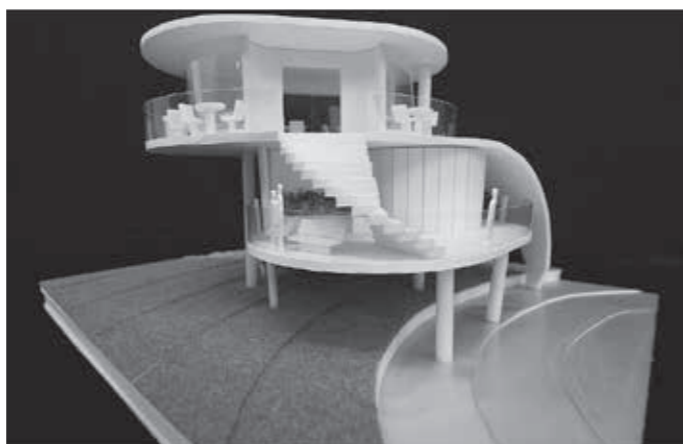
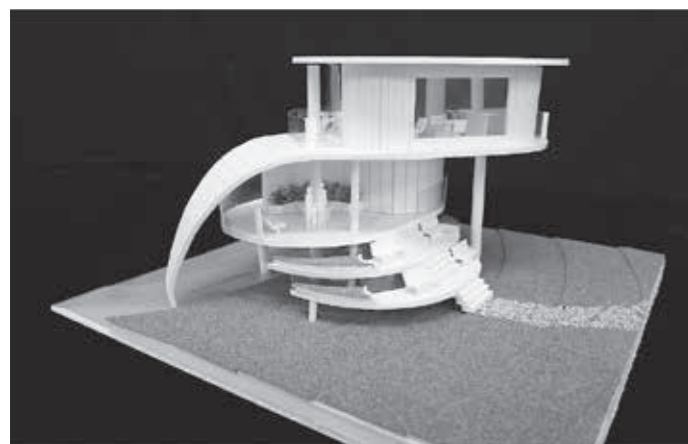
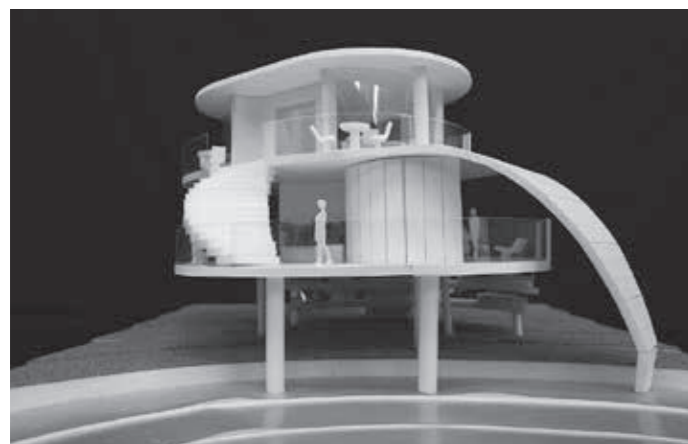
■講評

この課題は、水辺の環境でプライベートと共有空間を構成するものだが、それは「イエ」という形式でも「住宅」というビルディングタイプでもない。計画地の設定は周辺の街並みからも自律しているので、豊かな空間を創造する力は自由かつ内発的な要素に依るところが大きい。そんな中で個性的なフォルムに到達したアナスタシアさんの作品は、必ずしも合理性の追及によるものではない、彼女自身の柔軟かつ豊かな内発性が生み出した個性が際立つ。しかしよく観察すると、ピロティやフラットスラブなどの近代建築の原則を踏襲しつつ、平面的なすれをお互いの場所に活かし合いながら、立

体的に重なる空間に水際での全方位的な配慮を見せている。特徴的な曲面は平面性だけではなく、立面的な構成にも延長され、大地との関連性を強めている。この独特の感性が、ダイナミズムを失わないまま、巧みなバランス感覚で機能性とフォルムを整えている。一方、建築のフォルムに対する知性を評価する側としては、抽象美術が誕生した後の、強烈な芸術活動に彩られた時代に対するノスタルジーもあるのかと自問したくなる。たんに形式上の刷新ではなく、造形表現が概念だった時代に対し、次の世代はどのような意味を与えられるのだろうか。アナスタシアさんの構想力に今後も期待したい。(内海智行)

2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 畔柳 昭雄
石川 雅英
井上 武司
榎本 弘之
川久保智康
木内 厚子
佐藤 浩平
鶴田 伸介
長井 義紀
松井 正澄



デザイン演習Ⅰ（前期）

第2課題
「公園沿いの住宅
～生活と住空間を考える～」
(出題：川久保智康)

【課題趣旨】

本課題では、社会的な背景をもとに現代の家族像や生活スタイルを考慮しつつ、周辺環境や景観を配慮した住宅の設計を行ないます。それは、住まい手の個性を最大限に活かす住空間であり、これからの「住まい方」の提案となることが求められます。

敷地は船橋日大前駅から徒歩5分程の新しい住宅街の一角にあります。閑静な環境にあり、北側と西側は道路、南は公園に、東側は緑道に面しています。道路と敷地は3mのレベル差があり、敷地と公園は1mのレベル差があって、公園に向かって緩やかにのぼる遊歩道や緑地があります。

【設計条件】

- 敷地と建築条件
 - 用途地域 第1種低層住居専用地域
 - 建ぺい率60%、容積率100%
 - 最高高さ制限10m以下
 - 防火地域等の指定なし
 - 構造は自由。地盤は良好
- 設計条件
 - 生活スタイルは各自自由に設定
 - 家族構成は夫婦+子の3人以上
 - 駐車スペースは1台以上
 - 家族それぞれの寝室（個室）、および居間、食堂、台所の他、収納等生活に必要な諸室を計画
 - 各室への動線をよく考えて計画。とくに家事動線に配慮
 - 各屋の大きさは適宜設定
 - 家族の距離感や関係を配慮。例えば、気配が感じられる空間構成など
 - 内部と外部の関係や、公園や緑道との関係を十分考慮
 - 各敷地にはそれぞれ特徴があり、

その敷地を活かした計画を行なう
(10) 延床面積120㎡～150㎡程度。階数制限なし、最高高さの制限を守る

デザイン演習Ⅱ（後期）

第1課題
「北十間川の集合住宅
～美術館と水辺に隣接するDINKSのための集住体～」
(出題：松井正澄、石川雅英)

【課題趣旨】

北十間川沿いの敷地にDINKSのための集合住宅を、隣接する水辺の空間および美術館との関係を配慮して計画するものである。敷地東側の東京スカイツリー前面の北十間川は、すでにアクティブな親水空間がデザインされているが、本敷地においても下町的な都市部において、そこに暮らす人々が快適に過ごせる「魅力的な水辺の集住体」の提案を求める。

計画にあたっては、とくに以下のことが求められる。

①第2課題敷地Bに「街の美術館」を計画するが、北十間川の水辺を挟んで2つの敷地が一体的な環境を形成することをイメージして計画を行う。②各住戸は、DINKS住戸とする。

- 計画敷地および周辺条件
 - 敷地形状・接道・周辺状況等は、資料参照。敷地面積は770㎡
 - 商業地域（建ぺい率80%、容積率500%）。防火地域
 - 電気・ガス・上下水道は整備済。地盤は良好
- 建築物
 - 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨可）、地上4～7階程度の中高層集合住宅、必要応じ地階を設けても良い
 - 総戸数は20戸以上、1戸の床面積は70㎡以下
 - フラットタイプのほか、メゾネッ

- トタイプ、トリプレットタイプ等、立体的な住戸形式としても良い
- 水辺の空間と一体化もしくは、関係を意識されたカフェを設ける
- 設備は空調と設備を設ける。また、エレベーターを必ず設置する
- 共用エントランスには、メールコーナーを設ける
- 管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける
- 屋外施設
 - 駐車場は平面駐車とし、来客用兼搬入用1台分を必ず設ける。その他台数は適宜とする
 - 自転車置場をまた、外構計画と北十間川、プロムナードとの関係性を考慮する
 - 広場、遊歩道、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園などは、適宜自由

第2課題
「街の美術館」
(出題：井上武司)

【課題趣旨】

課題は「街の美術館」の設計である。「街の」とあえてつけた意味は、仕事や、例えばあなたが勉強から解放された平日、あるいは週末のプライベートな時間、余暇に、思わず足を運びたくなる美術館とはどのような建築であろうか、イメージを膨らませ、本課題に取り組んでいただきたい。

計画地周辺は浅草、隅田川の対岸東方約1km、伝統や粋な文化が息づく下町エリアであった。2012年に東京スカイツリーが開業し、東京ソラマチをはじめとする周辺施設が足元に広がり前面の北十間川も整備され、新たな都市的環境を形成している。

- 計画敷地および周辺条件
 - 計画敷地面積：1,800㎡。敷地形状・接道・周辺状況等は別途図面参照。
 - 平坦な更地。敷地内の切土、盛土可。道路・河川との高低差考慮。

- 商業地域（建ぺい率80%、容積率500%）、防火地域。
- 電気・ガス・上下水道は完備し、地盤も良好。
- 設計条件
 - 延床面積の目安：約1,000㎡。
 - 構造形式自由、地上2階建て程度、必要に応じて地階も可。
- 施設プログラム
(各室面積は参考、合計1,000㎡)
 - 公開部分：エントランスホール160㎡、カフェ120㎡、展示室360㎡
 - 非公開部分：調査研究・収蔵庫120㎡、事務・バック諸室80㎡、搬入荷捌き・機械室80㎡
 - その他：廊下・階段80㎡
 - 展示室の天井高は3.5m以上とする。
 - 客用トイレは男子（手洗2、大1、小2）、女子（手洗2、大2）、および誰でもトイレを配置する。
- バリアフリー、UD（ユニバーサルデザイン）に配慮する。
- 車いす来客用兼作品搬入用1台分駐車場を必ず設けること。一般来客駐車場は建物規模から附置義務台数は発生せず、設ける必要はない。
- 10台分以上の駐輪場を設けること。
- 外構計画
 - 周辺環境に配慮し、とくに北側の親水空間を活かす外構計画とする。

【提出図面および模型】

- 提出図面仕様：A2判横使い左綴じ
- 表紙：設計趣旨全文をコンセプト、ダイアグラム、モデル写真などでコンパクトに表現。建築面積、各階床面積、延床面積を表にまとめる。
- CAD図面
 - 配置図：縮尺1/200
 - 各階平面図：縮尺1/100
 - 立面図（2面以上）：縮尺1/100
 - 断面図（2面以上）：縮尺1/100
- スタディモデルおよび提出モデル
 - スタディモデル：縮尺1/200
 - 提出モデル：縮尺1/100。完成後に写真を撮影し、表紙に貼りこむこと。

デザイン演習 I 第2課題
公園沿いの住宅

黄 起範

■コンセプト

本計画敷地は南側に公園、北側に3mの段差があり、東側には日照の期待できない緩やかな造成地とその向こうに遊歩道がある。この敷地を周囲から眺めると東側の遊歩道、北側からは見上げる形になり、南の公園側にはまっすぐな生活道路が1本伸びていて本敷地が視線を受け止める形になる。そこで本計画では敷地東側にシンボルツリーを回る緩やかなアプローチを設定、

途中から立ち上がってきた壁がそのまま弧を描き北へと抜け、内側の曲線も立ち上がり2つの曲面が住宅の構造体となる。そこに空間の仕切りとしての薄い1枚の曲面が加わり、南北に向かって高くなる膜のような屋根が全体をまとめることで一体となる。これにより遊歩道、北側からは見上げて美しい曲面の壁が立ち上がり、南側の道路からは開放的な大きなガラス面とこちら側に向かって上がる膜のような屋根が見えるシンボリックな住宅となる。

■講評

黄君は住宅の課題を、曲線の複合というかなり高度な構成でまとめ上げた。まずアプローチは、一枚目の曲面壁がダイナミックな空間を作るが、シンボルツリーをめぐるながら無理なくス

ムーズに人を導き上げる。そして次の曲面壁が室内へといざなう。キッチン

の曲面壁であえて狭く絞った通路を抜けると、一気に明るく開放的なリビングに至る。ここでいったん落ち着いた後に、もう一つの曲面壁が2階のプライベートゾーンへと人を吸い上げてゆく。
複数の曲面壁がそれぞれ異なった役割を担いながら、バランス良く全体にまとめ上げられている点は素晴らしい。そしてさらにその空間の中に、このような移動につれて展開するストーリーを埋め込んでいる点も魅力的である。屋根をどうかけるかは悩ましかったが、それもなんとか自然な形に落ち着いた。(榎本弘之)

デザイン演習 I 第2課題
公園沿いの住宅

金井亮祐

■コンセプト

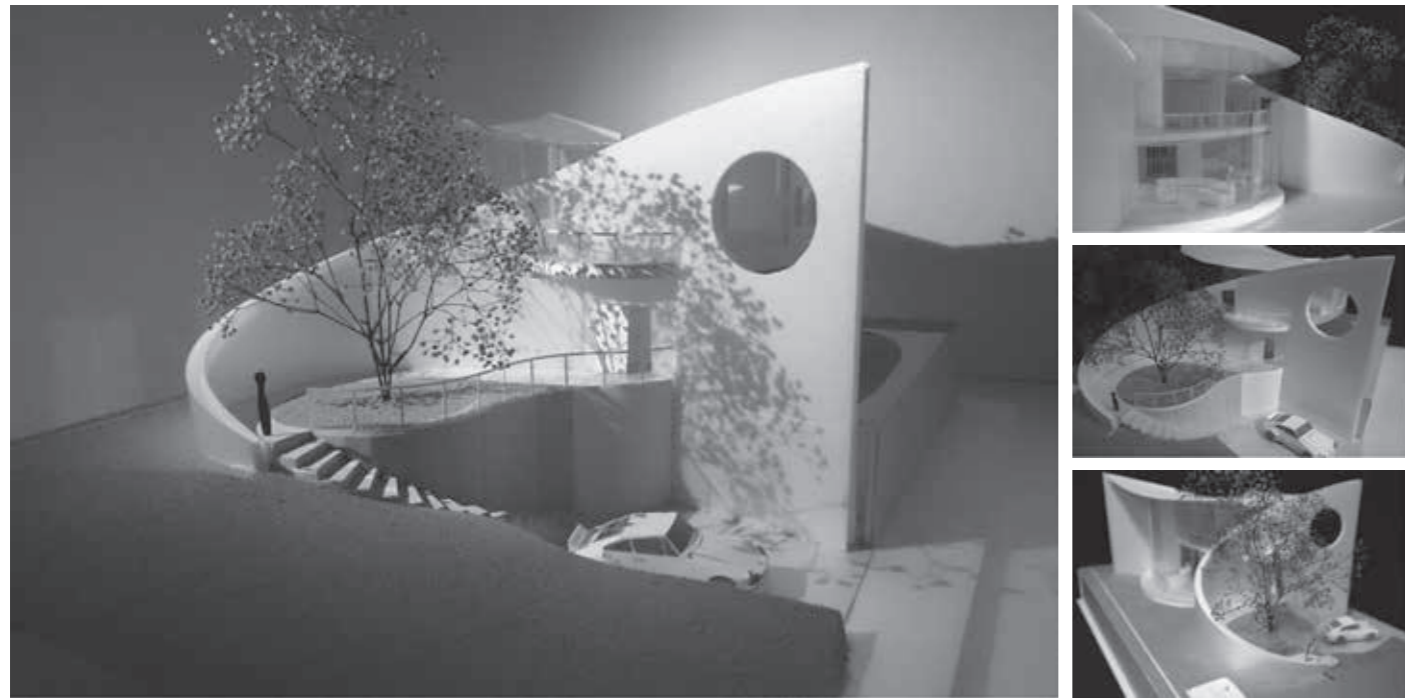
本課題の敷地は、南側に公園が隣接しており、周辺の住宅に比べ開けた視界を持つ。
まず公園の空間に大きく開けた部屋を作り、そこをキッチンダイニング一体のリビングとし、家族の生活の中心となるような場所にした。公園に開くと、公園の利用者から部屋が丸見えになってしまうので、床を公園の地面より3mほど高く設定しリビングにい

る人が座った時に、公園から完全に見えなくなるようにした。逆にリビングからせり出したバルコニーは公園からよく見え家族と近隣住人の交流のきっかけとなる。そのリビングとバルコニーの空間に沿うように個人の部屋を設けた。また、公園の広葉樹が一年中きれいに見えるように明るいクリーム色の木目の壁を選び、家族全員の頭に残るようなきれいな景色を演出した。一人て過ごす空間と家族の共用の空間をしっかりと仕切り、個人の空間を大切にしながらも、家族全員の記憶に残る場所と景色を作ることで、家族をつないでいる。

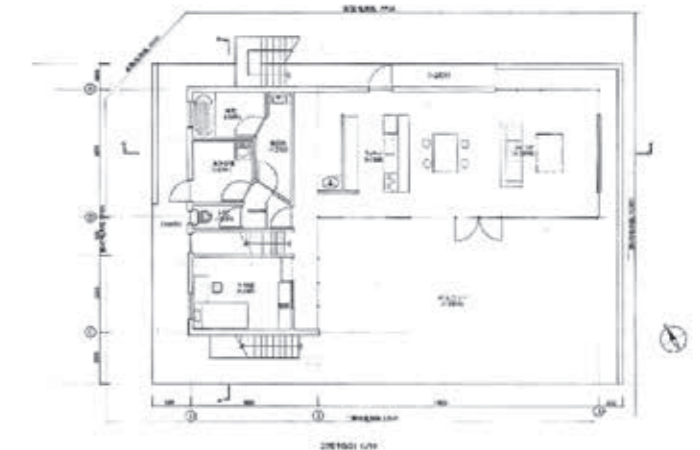
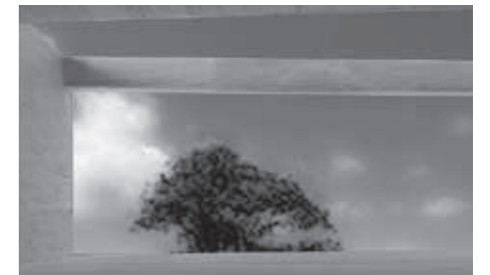
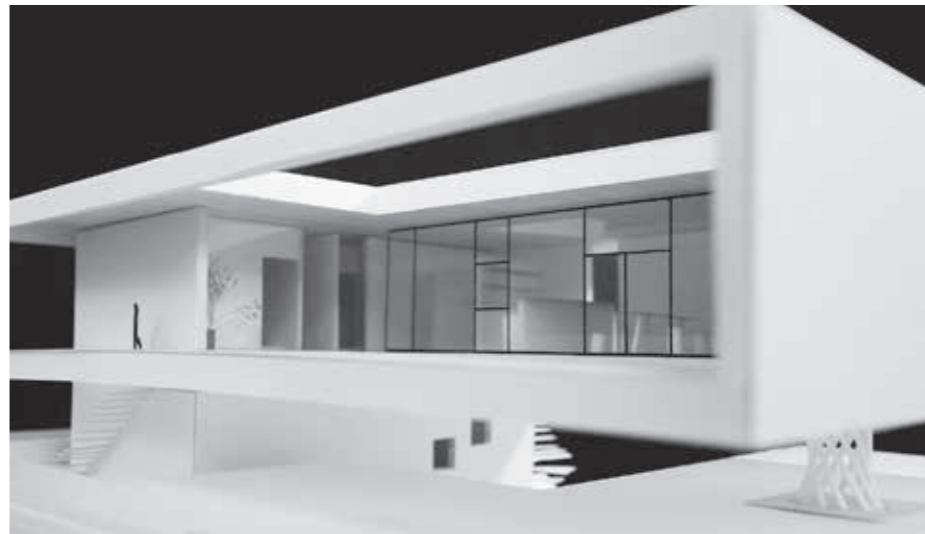
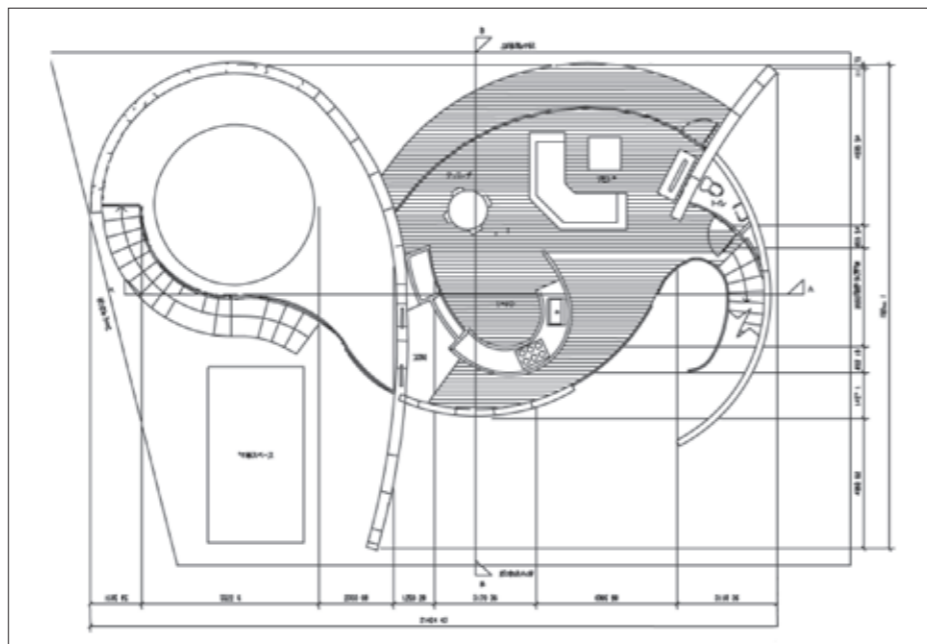
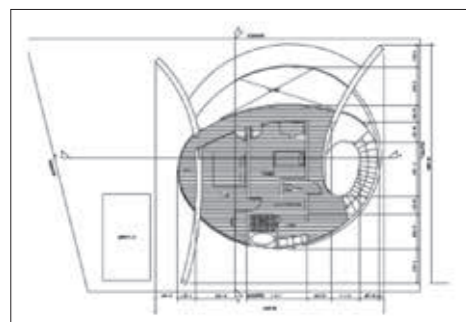
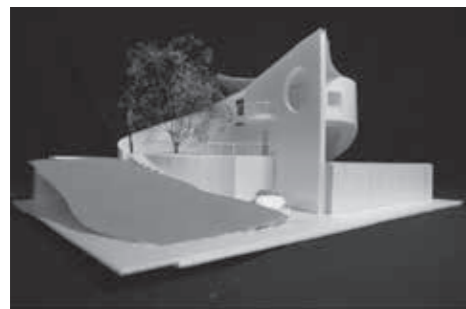
■講評

大学のキャンパスから程近い新興住宅地の一角に計画地はある。南側を公園と接し、北側の前面道路は3m下がっていて高低差がある。ほぼ初めての設計課題という意味では少し難しい設定かも知れないが、視線のコントロールや高低差のある計画地について考

察を行う機会を課している。金井案は、この住宅のメインの空間となるリビングルームを公園の地盤レベルから少し上昇させるとともに、奥行き深いテラスを張り出して、公園側からの視線をカットすることで開放的で独立した住空間を実現している。一方、北側の接道部分にレベルを合わせた切土状のアプローチスペースからは、外部と内部の2つの階段によって上下動線を分離している。来客に対応する仕事場や寝室等の各室はそれらでつなげられた回遊性の高いプランになっている。見た目にも浮遊感のある軽快な案で、とても知的に納まっていた。また、模型の表現など、なにより彼のセンスを感じる作品であった。(川久保智康)



曲面の三重奏



デザイン演習Ⅱ 第1課題
北十間川の集合住宅

加賀山陽平

■コンセプト

この集合住宅は、北十間川に面しているという特性を生かして、メゾネットタイプの住宅に水が通り抜けるようにしたもの。東京スカイツリーや駅から訪れると、建物1階部分を通り抜けて北十間川へとつながる1直線の池が現れる。敷地とプロムナードの高低差は2mある。人は川へとつながる水の風景に誘われ階段を下り、カフェへたどり着く。カフェでは川の音で

けでなく、高低差を利用した滝の音も、人々を楽しませる。この池の存在は、住人のためのエントランスとカフェを隔てる役割も持つ。また、各部屋をメゾネットの集合住宅にすることで、1階は南に面するバルコニーを持つリビングと光を取り入れ、食事やくつろぐ空間、2階には寝室と浴室を設け、それぞれの階で役割を分けている。中間層の部屋を互い違いに設けることでバルコニーの隣との壁を無くし、広い範囲、風景や北十間川を存分に楽しむことができる。

■講評

集合住宅の課題は、A：住戸自体、B：その集合のシステム、C：その結果生まれる全体形、D：共用部と、4種類もの魅力を考えねばならず、それ

までの課題からはぐっと難易度が上がる。かといってきちんと考えていけば、さほど難しいことではない。加賀山君も決して無理することなく、スムーズに作品をまとめ上げた。Aに対してはメゾネットの提案を、Bにはそれを交互に配置して隣接するバルコニーがつかないようにし、その結果C全体形も、シンプルな板状ではあるが千鳥のバルコニーが特徴ある外観を構成する。そして特徴的なのはDである。水路が人を道路から南の川へと誘い込む魅力あるアプローチを作り、エントランスとカフェを軽く仕切る。小さな滝からの音もこの空間を快く演出する。ここを歩いたらきっと爽やかな気分になれることだろう。(榎本弘之)

デザイン演習Ⅱ 第1課題
北十間川の集合住宅

新井侑子

■コンセプト

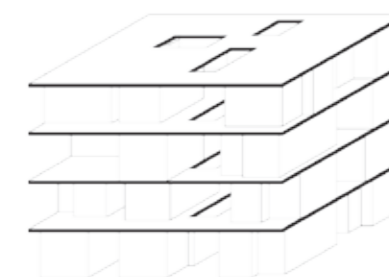
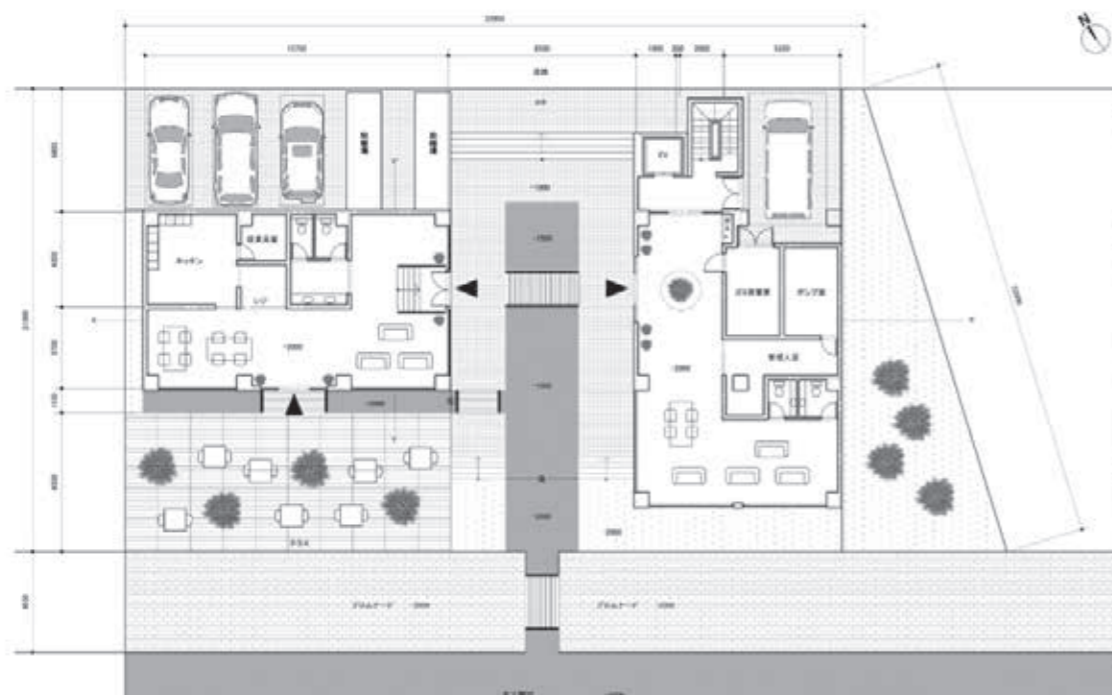
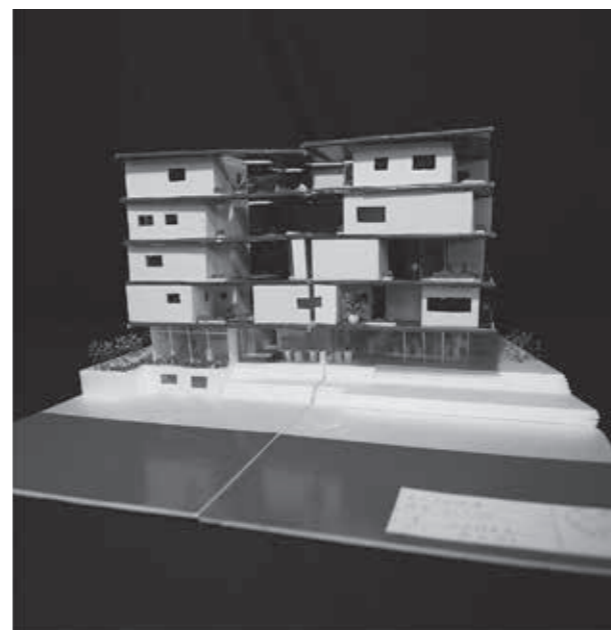
この建物のコンセプトは、『人が自由に芸術に触られる』である。本計画地は、芸術家や職人が多く集まり、街並みにはまだ多くの長屋が残る下町にある。以前から居る職人に加え近年は若い職人が多く移住してきているが、その一方で工房などの場所が少ないという問題がある。そこで本計画では職人が住みやすい工房のある部屋があり、近隣住民も気軽に芸術に触られるよ

うな場所として計画を行った。住居に併設された工房には、大きな窓があるため製品の販売・展示や作業過程の見学、交流の場として使うことができる。また職人だけでなく一般住宅のすべての玄関の横はガラス張りできているため、ショーウィンドーとして使用することができる。植物を置いたり、インテリアで飾ったり、季節の置物を置いたりなど、その活用方法はさまざま個人表現の場としての役割がある。

■講評

計画地は北十間川と大横川親水公園の交点にあたる一角。スカイツリーの開業に伴って多くの人々が訪れ、その観光資源として伝統的なものづくりが見直されている。若い作り手も多く現れており、その活動の場が少なからず求められている地域である。新井案は、

小さな作業所や長屋など大横川沿いの街並みの名残や人の関係性を多層の集住体として再構成している。それはものづくりを媒体とした立体的な街のようであり、ダイナミックな構成が興味深い。各住戸には工房が設置されていて、居住スペースから拡張されたこの部分が個性的なインターフェイスとなり、庭先から街へとコミュニケーションを拡大させる。その意図を素直に計画に表したことも評価すべき点である。アイデアを裏付けるリサーチを積極的にを行い、緻密に組み上げた案となった。図面や模型の表現はまだ研鑽が必要であるが、講評会での工夫を凝らしたプレゼンテーションはすべてを挽回した。(川久保留康)



デザイン演習Ⅱ 第2課題
街の美術館

黄 起範

■コンセプト

本計画地は、錦糸町駅よりおよそ1.5km以上にわたって続く大横川親水公園と水上バス等の整備が予定されている北十間川との交点に位置する。敷地北東側には東京スカイツリーなどの観光資源が存在し、敷地北側には前回課題の集合住宅が位置する。本計画は現状敷地手前で途切れている錦糸町駅からの動線を北十間川の向こう側の集合住宅まで通すことに主軸を置いてい

る。そのため地上部分はガラス張り、屋上緑化により見た目のボリュームを抑え、公園から橋をくぐって抜けてきた視線が両側をガラスに囲まれた芝生広場（本美術館）を抜け、集合住宅の巨大な吹き抜けとその先に向かうようになっている。地上部分は完全に一般に開放して公園の延長とし、展示空間は地下に位置し、緩やかなスロープを下るアプローチを採用している。展示空間には、天井の水盤を通して落ちてくる水の揺らぎをまとった光が踊る通路や広場が配置されていて、美術館自体も展示物となっている。

■講評

大横川親水公園に建つ小さな美術館。北十間川を挟んで向かいに計画した共同住宅に続いて出題された課題で、初めて本格的に公共施設の建築計画を行うとともに、先に提出された共同住宅と合わせて、都市的な視点を持った解答が求められる。黄君の提案は、親水

公園の北端の共同住宅をこの公園のアイストップと捉え、駅からの人の流れや公園内での活動を妨げないように展示機能を地下に設置するというものだ。北十間川と周辺のレベル差を地形を操作することで解消しながら、公園内の人の流れに呼応して、美術館への導入部となる細長いガラスボックスや地下へ自然光を送るためのスリットを点在させている。公園としての機能はそのままに、その一帯をまったく新しい景色に変えようという大胆な発想と、それを無理なくやりきったことは高い評価を受けた理由だろう。ドローイング等で提示した空間は、計画としてのリアリティを表現できていて、とても説得力のある作品となった。(川久保智康)

デザイン演習Ⅱ 第2課題
街の美術館

中村圭佑

■コンセプト

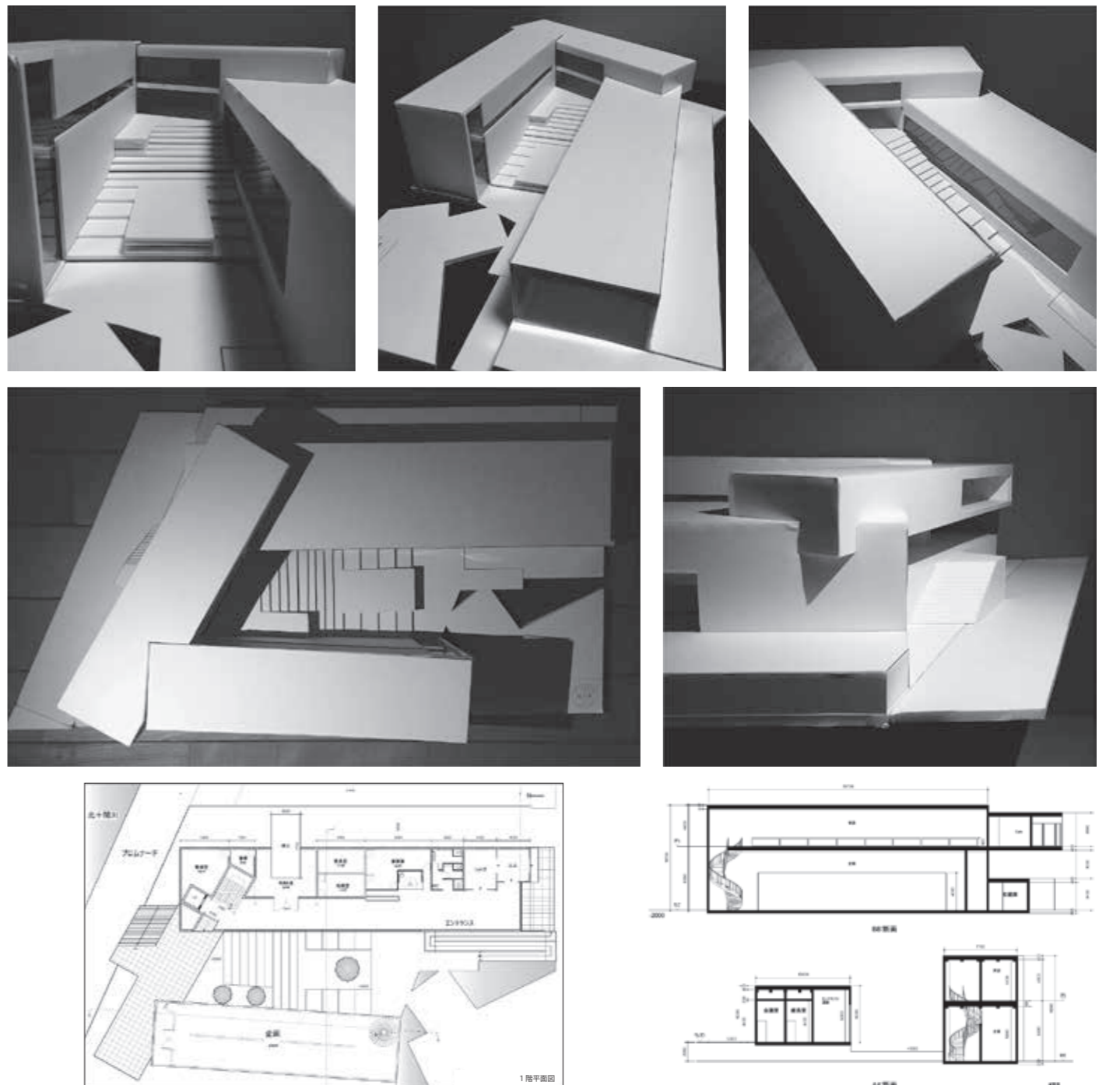
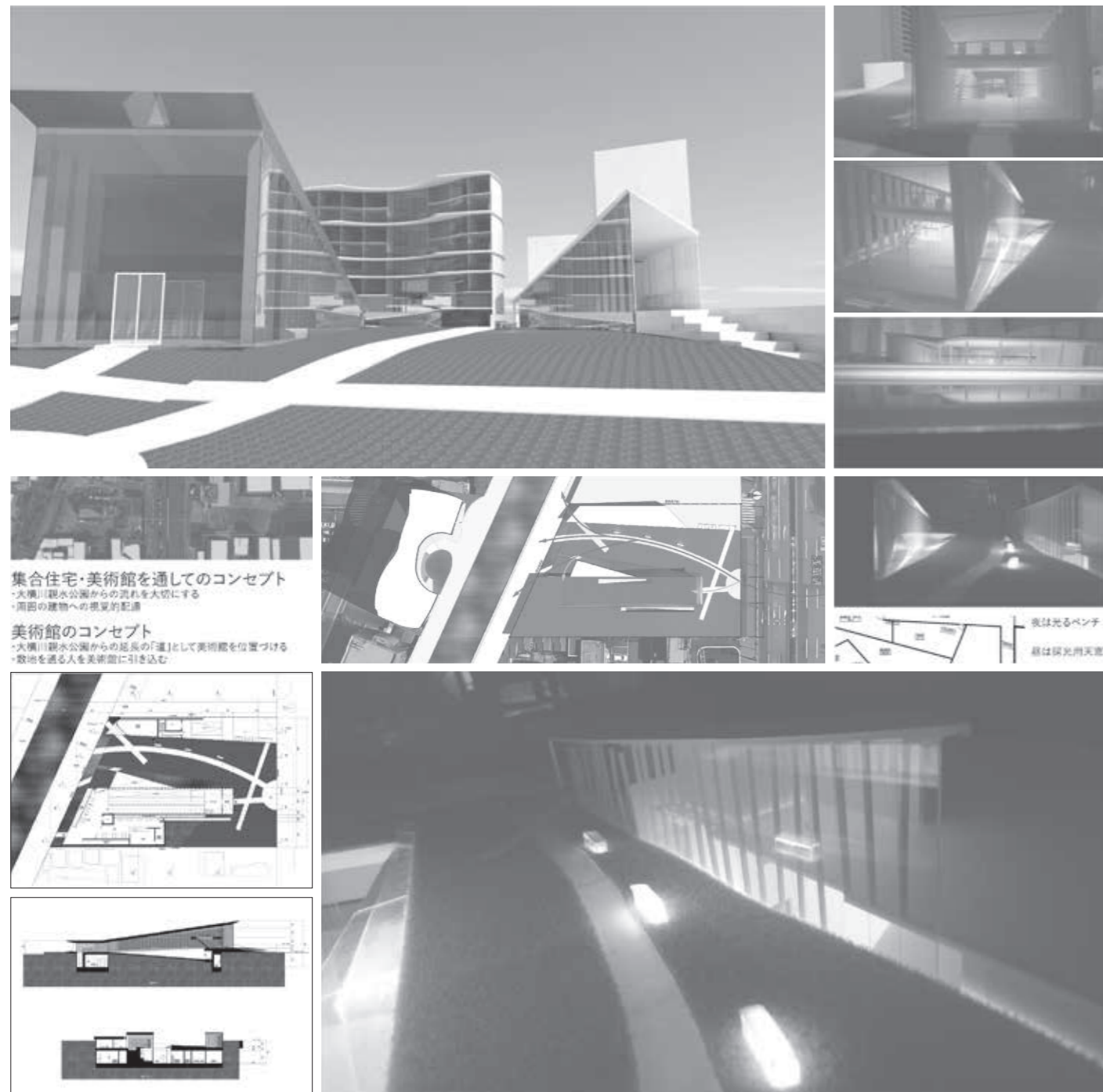
親水公園と川沿いのプロムナードの結節点にあたる計画地に、人の行き交う開かれた美術館を計画する。敷地の中心を囲うようにボリュームを配置。中心のスペースは閉館時も公園として利用でき、プロムナードに通り抜ける導線の役目もする。美術館は、美術館としてだけでなく、導線や公園としても街に貢献し、川沿いに新たな観光ルートをつくる。館内は一筆書き

導線で巡ることができるが、エントランスからカフェ、展示室、おのこの目的の場所に直接行けるようになっている。プロムナードに面する2Fカフェからはスカイツリーを望む。

■講評

美術館は、文化が介在する市民交流施設、都市・地域再生の切り札として期待され全国に誕生している。美術館の歴史は18世紀末に王侯貴族の私的コレクションの公開目的で始まり、いわゆる「宮殿スタイル」、無機質展示空間の「ホワイト・キューブ」時代を経て、今日ではアートカテゴリーの拡大

と相俟って美術館自体が文化的、芸術的個性を主張するようになった。もはや美術館設計に典型的とか、一般解はないと考えた方が良さそうだ。それだけに設計者には明確な視点の提示が不可欠だ。課題は「街の美術館」、建築デザインの質とともに、都市環境の地域的ポテンシャルを活かすことが求められる。敷地は東京スカイツリーの足元につながる北十間川と南側の大横川親水公園の結節点にある。本作品はそこに歩行者ルートを確保、回遊性を誘発している。エッジの効いた同時代的デザインの建築フォルム、そのコンポジションなどが美しい。シャープな陰影の模型写真が魅力を伝えている。(井上武司)



3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築メディアデザイン）

【担当】 佐藤 信治
内海 智行
小林 直明
神野 郁也
玉上 貴人
廣部 剛司
水野 吉樹
光井 純

デザイン演習Ⅲ（前期）

第1課題

「豊海 海の駅計画」
（出題：内海智行、佐藤信治）

【課題意図】

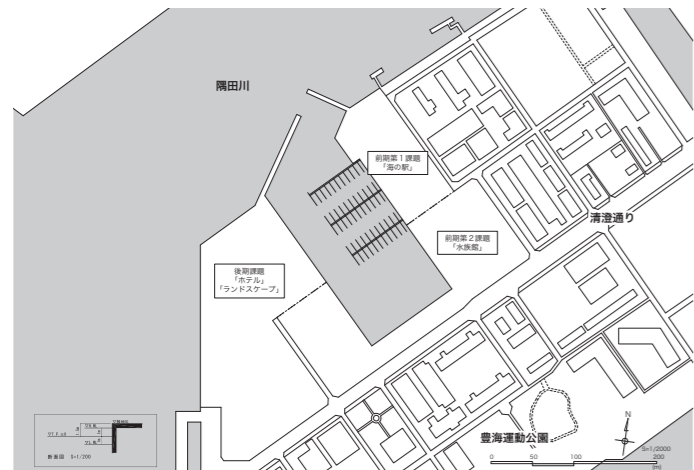
海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。当初は大型のヨット、モーターボート等の利用環境整備や情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰でも利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆便所の設置の3点が必要最低登録要件となっている。このような行政的解釈から、「海の駅」とは、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加えて海の駅ネットワークの構築が図られるものと考えられる。加えて、以下の3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能：海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能：来館者に対してその地域の文化・名所・特産物など

を活用したサービスの提供
(3) 地域連携機能：各地域の核となり、海路を介した地域連携の促進
計画地は、都心中央区の勝どきの南端に位置する豊海地区にある。課題は、この豊海先端にある内水面の地形と眺望を生かしながら、将来の周辺開発を見据えた海上からの交通拠点としての機能を拡充する。設定敷地エリアは陸上で約12000㎡。内水面を挟んだ両岸を再開発し、新たな都市の結節点として、賑わいを演出することのできる施設計画を求めるものである。

【設計条件】

- (1) 敷地条件：敷地形状、接道条件、周辺状況は、別添図面を参照。電気・ガス・上下水道は整備済。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導によること。
- (2) 建築条件：構造形式は自由。建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。
- (3) 計画諸元
①建築諸室：延べ面積 約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）



課題トレース

・客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）
・管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）、機械室〈電気・空調・受水槽〉（100㎡）
②屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽等を、建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は若洲キャンプ場既存駐車場を利用するが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用5台、サービス用10台程度の駐車スペースを確保。

【提出物】

- (1) 表紙：作品にタイトルを付け、設計趣旨をテキスト、ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現
- (5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2面以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西それぞれ）
- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

第2課題

「水族館」
（課題担当：水野吉樹、玉上貴人）

【課題趣旨】

海の駅に引き続き、同じ水域を取り囲んだ隣接敷地に水族館を計画します。水族館の定義には娯楽・教育・研究・環境保護が考えられますが、基本は、魚類を代表とする水生動物を生きたまの状態で展示することで、その展示方法は時代とともに変化しています。近年は、アミューズメント性の高い海中空間を疑似体験できる大型水槽や3次元水槽の導入など、技術を駆使する傾向も見られます。しかしながら水族館はその空間性や機能、社会的な役割にまだ多くの可能性を持っています。

この課題を契機に社会の中での「水族館」という施設の在り方を考察するとともに、来客機能、飼育・研究機能、設備機能、管理機能のソフトとハードの関係性を把握してください。そして、この水辺の敷地環境を生かした陸と海をつなぐ空間の複合体として、第1課題：海の駅と後期の課題で予定している宿泊施設との連続性に配慮し、一体的な地域再開発イメージを描いた上で、ランドスケープを含めた魅力ある新しい水族館を設計してください。

【設計のポイント】

- ・水族館機能の把握：観客スペースと管理スペースの関係性
- ・水族館施設の配置：教育、研究、展示、アミューズメント機能の関係性
- ・コンセプトの創出：説得力のあるコンセプトに基づく新しい海と陸を結ぶ水族館の創出
- ・コンセプトの表現：コンセプトを具体化する水際空間の設計、屋外展示を含む造形性とそのプレゼン表現
- ・地域再開発的配慮：敷地東側に隣接する第1課題の海の駅と後期課題の宿泊施設との連動性、景観的な配慮、周辺環境との関係性

【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約25,000㎡
- (2) 延べ床面積：合計 約6,000㎡
- ①パブリック部門：約3,500㎡

（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー、休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、来館者用化粧室）
②管理部門：約2,500㎡（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）
③屋外施設（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

【提出物】

- (1) 図面
①配置図：縮尺1/500
②各階平面図：縮尺1/200
③立面図：縮尺1/200（2面以上）
④断面図：縮尺1/200（2面以上）
(2) 計画概要（表紙とする）
①タイトル
②設計趣旨：計画意図を的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて、簡潔かつビジュアルに表現。
③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
(3) 模型および写真
①模型は縮尺1/200で施設の周囲を含めて仕上げる。
②写真はキャビネ判4点程度。
(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。CAD等の使用は自由とする。

建築メディアデザイン（後期）

第1課題

「マスタープランとランドスケープ」
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

海の駅と水族館、そしてアーバンリゾートホテルの計画を想定した計画地全体のマスタープランとランドスケープデザインを課題とします。計画地は中央区勝どき5丁目から中央区豊海町にまたがる内水面を囲む地区である。北西には、築地市場や浜離宮恩賜公園があり、その後には超高層ビルを臨める都市的な景観である。ここに、海の駅、水族館、ホテルとそれらを結びつけるランドスケープを含んだ複合再開発を計画してください。

【課題のポイント】

- ①隅田川の両側から連続する歩行者用プロムナード動線をつくる②アクセスを想定した車両動線をつくる③三施設共有の公共駐車場を設ける④車両進入エリアと歩行者のみの利用エリアとの明確なゾーニングを行う⑤屋外空間づくりにおいて樹木の粗密感に配慮する⑥水際への人のアクセスを可能にするため、歩行者動線や親水空間をつくる⑦マスタープランの骨格をつくるにあたり、軸、ノード、シークエンス、ビューコリドールなどの基本的なデザイン手法を意識しながら組み立てる⑧東京湾の環境資源や景観要素を取り込んだランドスケープデザインに取り組む

【提出物】

- (1) 図面
・マスタープラン平面図：縮尺1/1000
・部分断面図（2面以上）：縮尺1/200または1/100
・全体模型：縮尺1/1000
(2) 計画概要（表紙）
・計画コンセプトに合致したタイトル。
・設計趣旨を分かり易く的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて簡潔かつビジュアルに表現する。
・計画の全体像がわかる大型の模型写真を一点入れる。
(3) 模型は縮尺1/1000、敷地内外を含めて仕上げる。写真は2L判4点以上とする。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。左側2個所のファスナー止めとする。CAD等の使用は自由とする。

第2課題

「アーバンリゾートホテル」
（出題：小林直明）

【課題趣旨】

前期第1課題に引き続き、同じ計画地内の隣接敷地に「アーバンリゾートホテル」の提案を求めるものです。敷地は、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック選手村に近接、同時に丸の内・大手町地区のビジネスサテライトとしてビジネス利用のポテンシャルの高い敷地でもあります。観光の旅行者やビジネスマンに留まらず、利用する人へのサービスにも多様性が求められると思います。周辺環境に呼応し、かつ海の駅や水族館との相乗効果を図った魅力的なホテルの設計提案を求めます。

【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：24,000㎡
・敷地の形状や設道条件、周辺状況などは別紙図面参照および現地調査による。
- (2) 計画内容 延床面積：21,000㎡程度
・建物の高さは31m内とするが、更なる高層、一部客室コテージタイプ可。
・構造形式は自由とする。
- (3) 計画諸元
①宿泊エリア（約18,000㎡）：ツイン・ダブルルーム100室程度（4,500㎡）
・スイートルーム10室（1,500㎡）、通路・階段等（2,500㎡）
②パブリックエリア（約10,500㎡）：ロビー・共用スペース（2,000㎡）、レストラン（2,000㎡）、ショップ（800㎡）、宴会場・会議場（1,500㎡）、ジム・スパ（2,000㎡）

③管理エリア（約6,500㎡）：裏方サービス諸室（2,000㎡）、機械室（1,500㎡）、廊下・その他（700㎡）

【提出物】

- (1) 図面
・配置図：縮尺1/400
・各階平面図：縮尺1/200
・客室平面図 パース：縮尺1/50
・立面図（2面以上）：縮尺1/200
・断面図（2面以上）：縮尺1/200
(2) 計画概要（表紙）
・計画コンセプトに合致したタイトルを考える。
・設計趣旨は、簡潔に分かり易く、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現する。
・各階の床面積（部門別）および延べ床面積を表としてまとめる。
(3) 模型は全体：縮尺1/400、部分：縮尺1/100程度、A1判サイズに仕上げる。写真はキャビネ判4点程度。
(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。左側2個所のファスナー止めとする。CAD等の使用は自由とする。

第3課題

「プレゼンテーション」
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

年度を通じて学んだことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を一つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこの豊海の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

佐々木秀人

■コンセプト

「都市の中の継ぎ目」
「海の駅」では、海と陸、海からの動員と陸からの動員、観光客と地元民、都市と自然、など相反する事柄同士の「接点」が数多く存在する。本計画では、その「接点」をデザインし、前述の対になる事柄同士をシームレスにつなぐことで、新しい出会いや発見ができる「海の駅」を目指す。
まず、敷地周辺からの動線をもとに

海と陸両方からの動線を決定する。できた2つのグリッドはお互いがかぶるように設定され、そのグリッドに沿って建築を配置する。海と陸両方からの動線が交わるように建築を配置することで、より開かれた、より双方が作用しあう建築となる。

さらに、700mm ずつの段差を用いて設計する。この700mmの段差は、「椅子」「テーブル」「開口」など人のさまざまなアクティビティを生み出す。平面操作、断面操作などの複数の仕組みが重なることでより複雑な空間構成が生まれ、それが「接点」として作用する。

■講評

計画地は、豊海の先端に位置する内水面を取り囲むコの字方の敷地である。海域の先には浜離宮や汐留の高層ビル群を一望する一方で、陸域である周辺は水産基地や冷蔵団地等によって無機質な風景に囲われており、対比的な景観に挟まれている。

この案は対比的な2つの領域で形成される景観に対し、建築的なフォームとして異なるグリッドを用意している。敷地全体に重ねられた2つのグリッドは空間の規範を意味し、グリッドのズ

レは空間の多様性を誘発するために作用しているとする。

2つのグリッドによって再構成された敷地には、機能空間がグリッド上に配置され、海の駅としての機能的な関係性を構築している。一方で、ズレから生ずる狭間にはさまざまな場が生成されており、層状にルール化された断面操作により、多様な風景に囲まれた場所を作り出すことに成功している。

佐々木君はコンテキストが海域と陸域の結節点であることに注目し、海の駅を「出会いの場」として位置付けている。この案が用意したフォームは、「風景から居場所が生まれる」-その可能性を示唆している、と思わせるものである。(神野郁也)

濱嶋杜人

■コンセプト

新たな都市計画とともに期待される水上交通の拠点となると同時に、東京と海をつなぐような海の駅を計画する。船の係留施設としての港の機能に、美術館やレストラン、親水公園などさまざまなアクティビティを付加してゆき、遊びに行きたくなるような海の駅を目指した。また陸と海とを遮るのではなく、中間地点として機能するように、建築の形態もカーテンウォールを多用

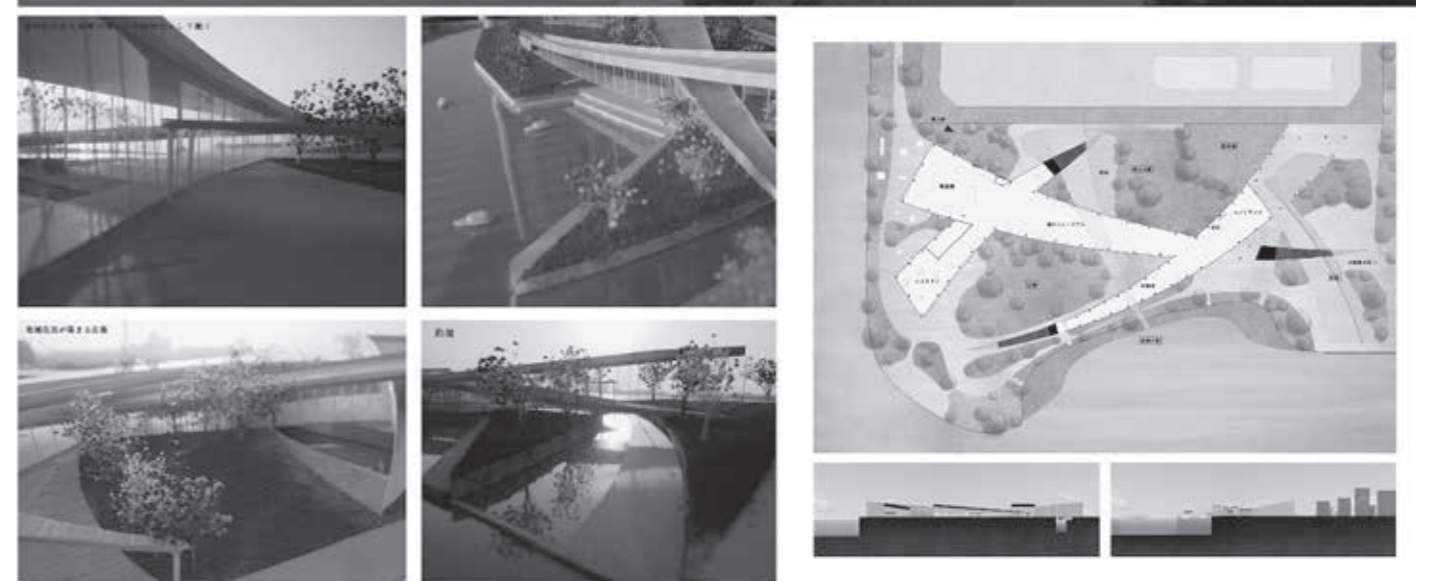
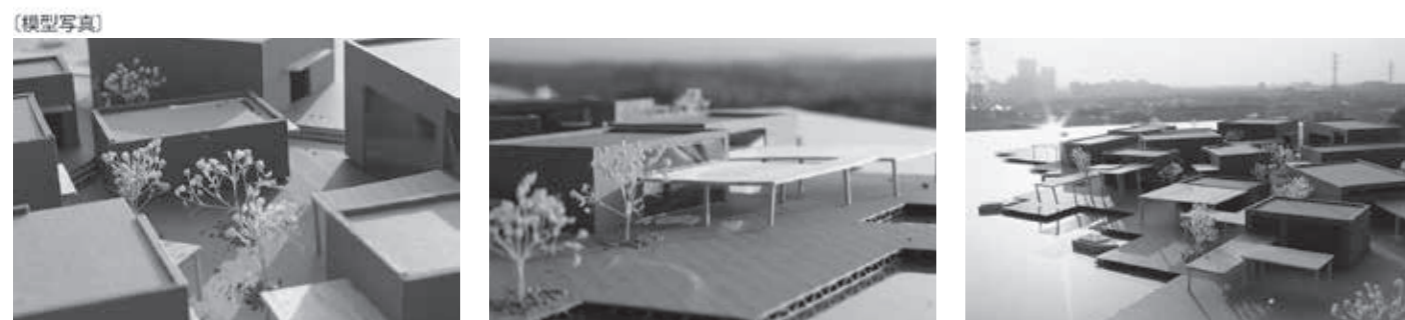
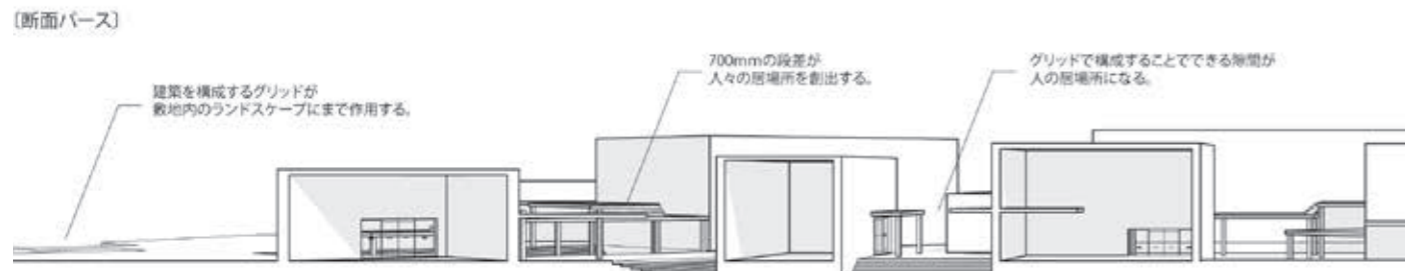
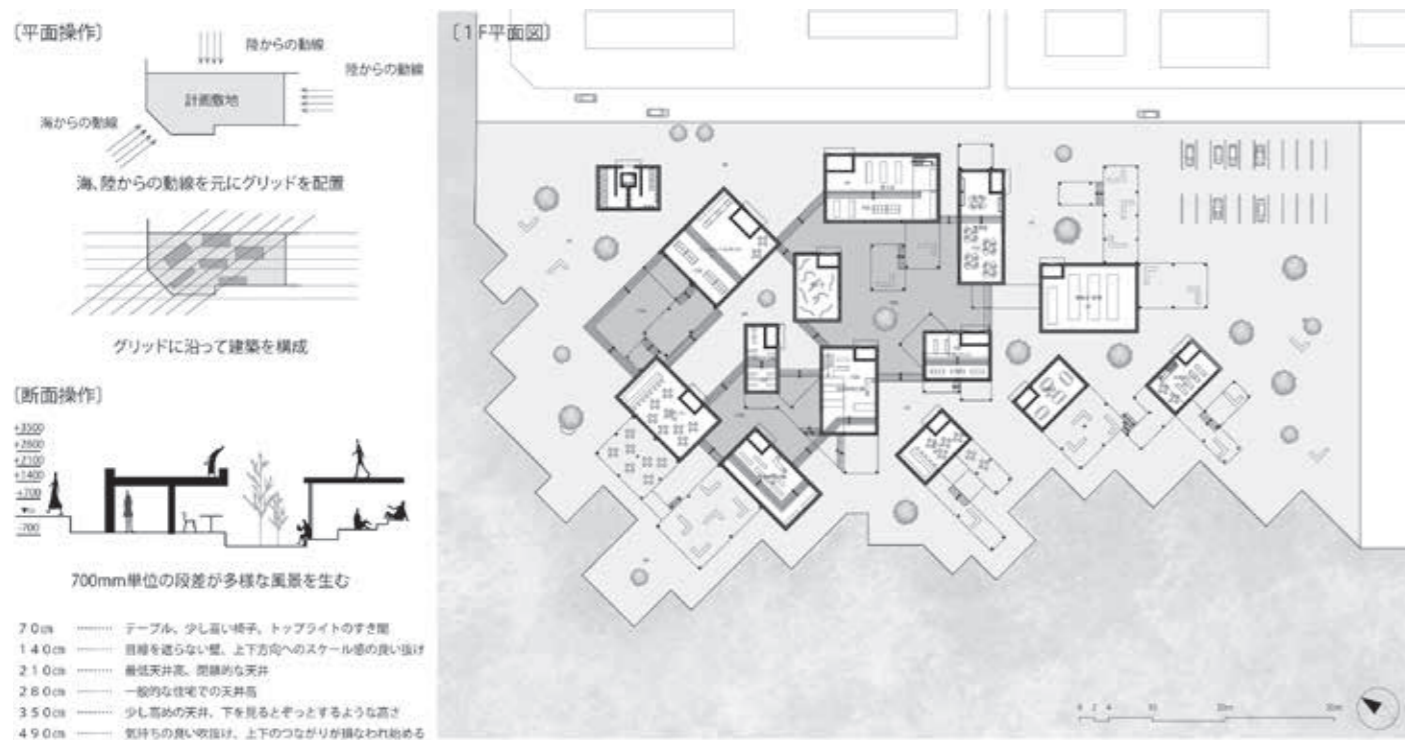
した透明性のある建築にした。内部空間を歩く中で感じるさまざまな空間の変化が、海への視線を劇的なものにしてゆく。

■講評

このプロジェクトは海の駅である。海側と陸側から多くの人々が訪れ、食事やショッピングをしていくつかの展示を楽しむための施設である。この案は

さまざまな機能条件を満たしながらも、敷地全体を使ったダイナミックなデザインを実現した野心作となっている。高さを変化させながら交差する屋根兼歩行者デッキは、敷地を回遊する歩行者にいろいろなビューポイントを与えている。歩くにつれて周囲の都市景観の見え方が刻々と変化していくことが、建築デザインと都市の景観とが密接に連携していることを体感させてくれる。しかも敷地内へと引き込んだ運河とランドスケープも歩行者デッキと立体的に絡み合っており、多様な都市空間を作り上げている。歩き回ることが楽しみとなり、いくつかのオープンスペースで開催されるイベントを、歩行者デッキの上から、あるいはランドスケ

ープの丘の上から楽しむことのできる豊かな構成となっている。今回のデザインスタジオのゴールである、水辺空間・建築・ランドスケープの統合による街づくりの趣旨を非常によく体現した作品である。あえて言うならば、歩行者デッキの交差部分の納まりの不明な箇所や、歩行者デッキの相互接続がないために、外部空間全体の回遊性が失われていることなど、十分に検討が終わっていない箇所も散見される。またランドスケープのデザイン密度を高めて行くことも必要と思われる。しかしながら、大胆な空間構成のアイデアと敷地全体を使って、魅力ある建築空間として都市空間を作り出した能力は秀逸である。(光井 純)



デザイン演習Ⅲ 第2課題
水族館

■コンセプト
「都市との対話」
ビルが乱立していく東京の街。かつて水の都と呼ばれた東京の姿は見る影もない。今まで見えていた景色が、効率化を図ることで見られなくなり、そして忘れられてしまう。そんな、「都市」の置かれている現状を見つめ直すための新しい水族館の提案である。本計画地の対岸には、新橋、浜松町などの高層ビル群の立ち並び風景が望める。

この「都市」と「水生生物」とを対比させて見せることで、都市の現状を見つめ直す機会を与える。建築の構成として、ボックス型のユニットを複数配置する。そのボックスを出入りし、「美しい水生生物」と「都市の風景」を交互に見せることでそれぞれを対比して見せる。このボックス内に入るという行為は外界から切り離れた環境へと身を置くことであり、これは現代における都市の中で生活することと同じことを意味するのである。このような構成が、都市に住むことを再考するきっかけを与えるであろう。

■講評
佐々木君は、前課題の海の駅では「人との出会い」、この水族館では「都市との対話」をテーマとしており、共に強い社会意識から課題に取り組んでいることが分かる。当該敷地は内水面奥に位置しているが、この計画では、水族館を海域と陸域との境界線上に配置し2つの風景を対峙させることによってつなく建築となっているところが特徴的である。
水族館には水槽としての「ボックス」が線状に並べられるが、千鳥に配置することで間としての「隙間」が生まれている。鑑賞者が「ボックス」から「ボックス」へと移動するたびに、その「隙間」から都市的風景を眺める

ように計画されている。内側に開かれる水槽という「ボックス」、外側に開かれる都市的風景としての「隙間」、この相対する内と外への開かれ方を繰り返すことを通じて、鑑賞者の意識がサブリミナルに都市と関係をつないでいくことで、作者の意図は実現されるであろう。
しかしながら、この「ボックス」に映し出される眺めは、まるで対岸の都市的風景をパッケージ化したものなのではないだろうか。もしかすると、われわれは都市の中に仕込まれた金魚鉢の中に生息しているのかもしれない、と思えてくる。その意味では、この作品は「都市生活者観察センター」と言えるかもしれない。(神野郁也)

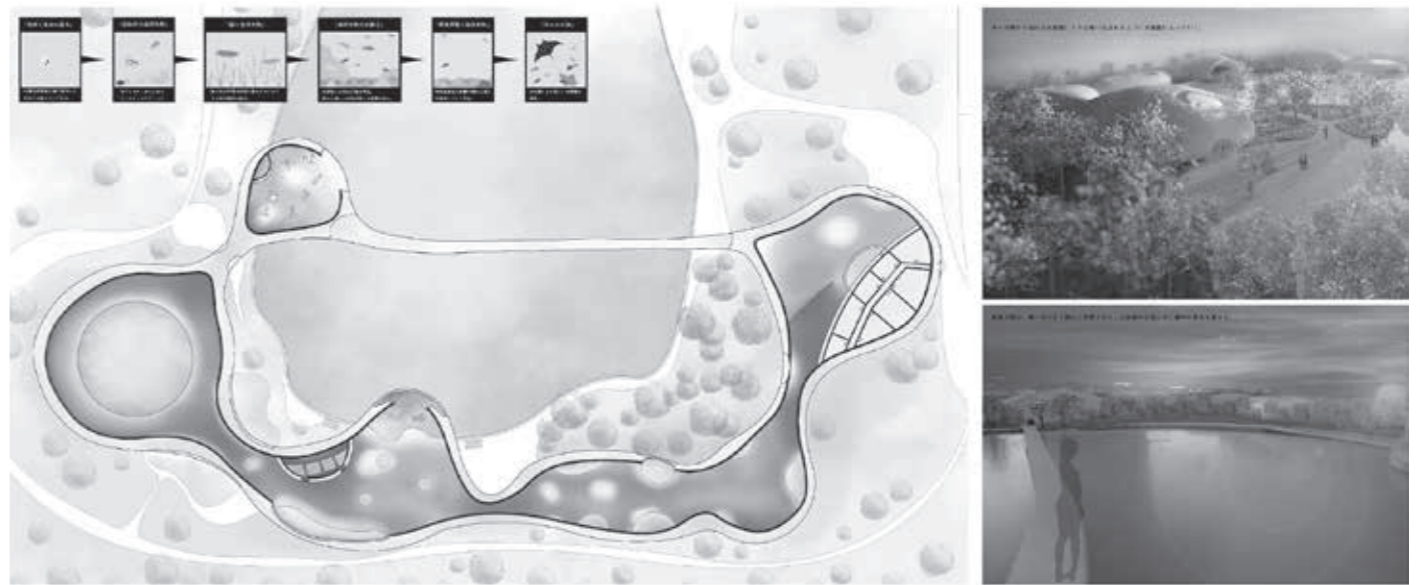
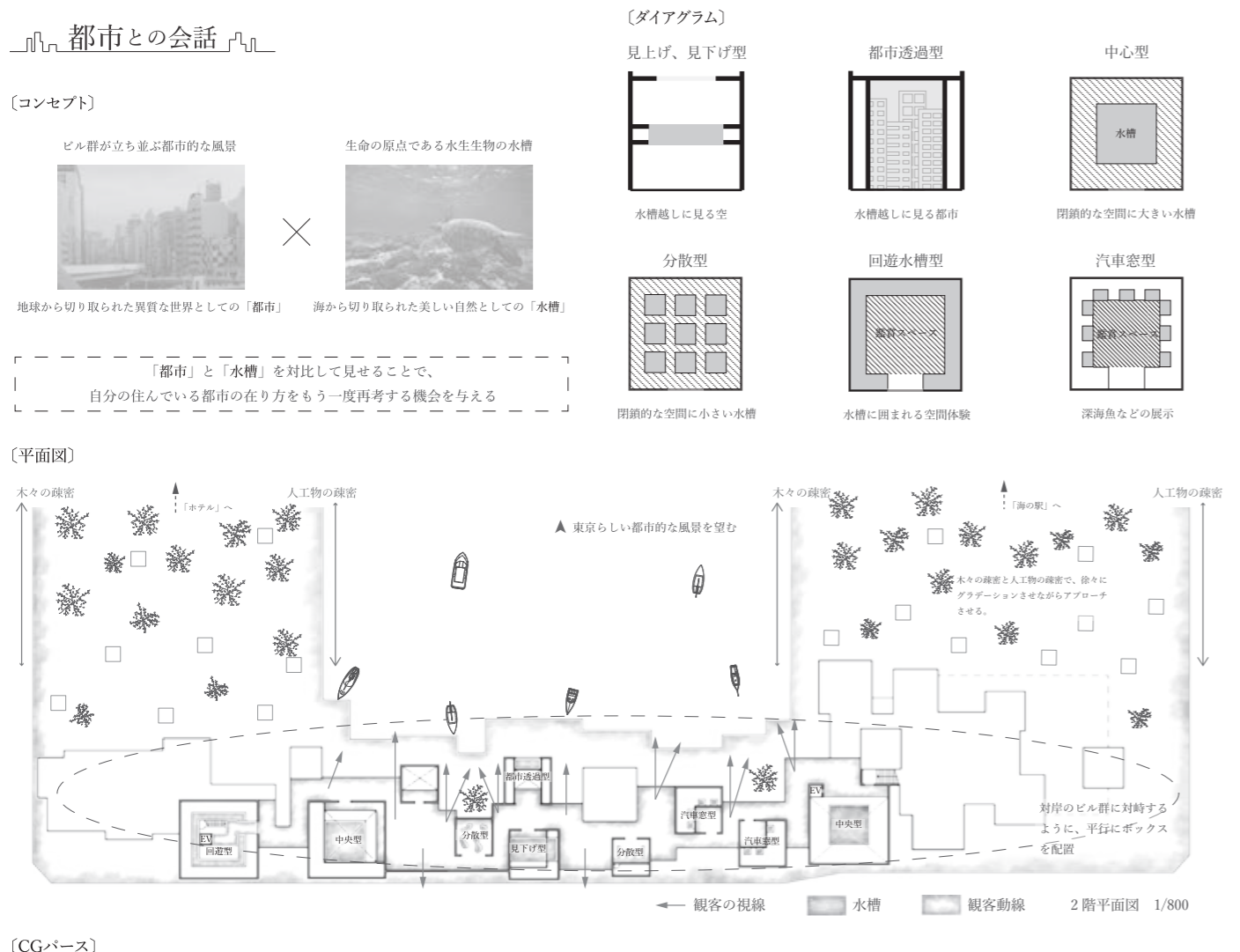
デザイン演習Ⅲ 第2課題
水族館

■コンセプト
「地球と海の物語」を建築内部を歩いていく中で感じ、学ぶことのできる、そんな水族館を目指した。森の中に溶け込みながらも、圧倒的な存在感を放つそれは、テーマの一つである「生命」の宿ったまるで生き物のような建築である。内部空間では流動的に変化していく建築空間を楽しみながら、展示空間を歩いていく。また外部への大きな開口を適所に作り出していき、展

示空間をランドスケープによって演出するようにした。この水族館は、東京オリンピックを見据えた新たなアミューズメント施設であると同時に、さまざまな空間の変化と展示空間を通じて、海の神秘やその歴史を世界中の人へと発信していく。
■講評
この作品の外観は、生命生成のイメージと大地のうねりのイメージを併せ持った非常に詩的な形態となっている。同時に水族館の展示内容についてもし

っかりと理解した上で、外観の形態によって生まれてくる内部のダイナミックな空間を展示空間の流れに巧みに組み合わせた秀作となっている。まずはこのような3次元形態を発想し、実際に模型製作のためさまざまな研究を行って最終的に目に見える形に創り上げたことは賞賛に値する。
この作品の展示テーマは、生命の進化をたどることと設定されている。したがって原初的な生命体から始まって、より進化した形態へと理解が進むように展示の流れが作られている。そして展示の切れ目と平面図のくびれた形とがうまく噛み合っている。生命の進化は基本的には連続的であるので、この作品の内部空間で実現されている有機的で動的なうねりの形態は、この水族館のテーマと非常にうまくフィットしている。一方でこのような包み込む形態は、街に対してどうしても閉鎖的になりやすいのであるが、展示の分節点を利用して、運河や緑地につながる解放された空間を適所に差し込み、街や運河などの外部空間との連携もしっかりと担保している。閉鎖と解放の空間構成と水族館という建築機能との統合が、非常に個性的な形で実現されている。贅沢を言えば、このユニークな形態が構造的な表現、例えば木のシェルであるとかハニカム構造であるなどがうまく噛み合っている。生命の進化は基本的には連続的であるので、この作品の内部空間で実現されている有

機的で動的なうねりの形態は、この水族館のテーマと非常にうまくフィットしている。一方でこのような包み込む形態は、街に対してどうしても閉鎖的になりやすいのであるが、展示の分節点を利用して、運河や緑地につながる解放された空間を適所に差し込み、街や運河などの外部空間との連携もしっかりと担保している。閉鎖と解放の空間構成と水族館という建築機能との統合が、非常に個性的な形で実現されている。贅沢を言えば、このユニークな形態が構造的な表現、例えば木のシェルであるとかハニカム構造であるなどがうまく噛み合っている。生命の進化は基本的には連続的であるので、この作品の内部空間で実現されている有機的で動的なうねりの形態は、この水族館のテーマと非常にうまくフィットしている。一方でこのような包み込む形態は、街に対してどうしても閉鎖的になりやすいのであるが、展示の分節点を利用して、運河や緑地につながる解放された空間を適所に差し込み、街や運河などの外部空間との連携もしっかりと担保している。閉鎖と解放の空間構成と水族館という建築機能との統合が、非常に個性的な形で実現されている。贅沢を言えば、このユニークな形態が構造的な表現、例えば木のシェルであるとかハニカム構造であるなどがうまく噛み合っている。生命の進化は基本的には連続的であるので、この作品の内部空間で実現されている有



永富 快

■コンセプト

敷地は東京都中央区豊海町。2020年の東京オリンピックに向けて海上交通も含め、交通の便の中心地となることが予想される地域。豊海地区開発計画地の設計敷地内に設けられるこのホテルの用途として、インバウンドの拠点、日本人のビジネス・旅行、宿泊以外を目的とした施設の利用、などが想定される。ホテルは旅行者にとって一番の思い出に残りやすい場所である。一度

ではすべてを楽しみきれない、また訪れたくなるホテルをコンセプトに設計した。ホテルの利用者にはいろいろな背景がある。その背景に合わせた理想を提供する。あり続けるために常に変化を与え進化する。変化の方法として、エントランスから季節による変化によって来るたびに違った美しさを与える。部屋の多様性から顧客のわがままに対応できる柔軟性を持つ。シーンによる空間の分離により宿泊者にとっての専有的な空間を確保している。

■講評

浜離宮庭園に臨む敷地に建つホテル

の計画である。計画の主眼は、集客部門とレストランなどの飲食とスポーツ関係の諸室を別棟にした点である。それぞれは別棟形式を採用しているものの、全体は上から見るとUの字型の配置をなして全体はつながっている。客室棟は大きな吹き抜け空間を挟んで左右に展開しており、それぞれの客室形式に特徴を持たせるなど、それぞれの宿泊客が快適に過ごせるように計画されている。

具体的には、隅田川を挟んで浜離宮庭園を臨む客室はスイート形式となっており、遠くに富士山が望めるような上層階に計画されている。一方、一般客室はその反対側に位置し、緑地公園と一体的に利用できるような形式とな

っている。その両方からのアプローチを考慮してエントランスとその上部にアスレチック、プール、レストラン、バーなどが配され極めて使いやすい計画に仕上がっている。客室内も各所にプレイルームを採用しており、遊び心を刺激するように配慮されている。

しかしながら、外観はリゾートホテルとしては一般的なホテルの域を脱してはならず、極めて平凡な様相である。もう少し埋め立て地特有の平凡な地域にシンボル性を与えるようなインパクトのあるデザインを採用しても良かったのではないだろうかと思われるが、難しいホテルを計画的な破綻のないところまでまとめたことは評価に値するといえよう。(佐藤信治)

上田紗矢華

■コンセプト

「忙しい東京人に自然の安らぎを」

東京は働く人々の忙しい日常の拠点である。一方で東京は回りきれないほどの観光要素で溢れた観光都市ある。サラリーマンは毎日仕事に追われている。観光客も限られた時間の中でより東京を味わおうと朝から晩まで巡り歩いている。

そんな人々の忙しい1日の終わりに、この建築は自然という安らぎを与

える。
まず自然の大きな要素である「水」と「緑」を取り入れる。ピロティの9つの組み方でパターン化した空間は、「ひかり」が差し込まれることで異なる「影」を映し出す。それぞれのメソッドの客室は水と緑の2つのバルコニーを持ち、客室でも穏やかな空間を演習する。

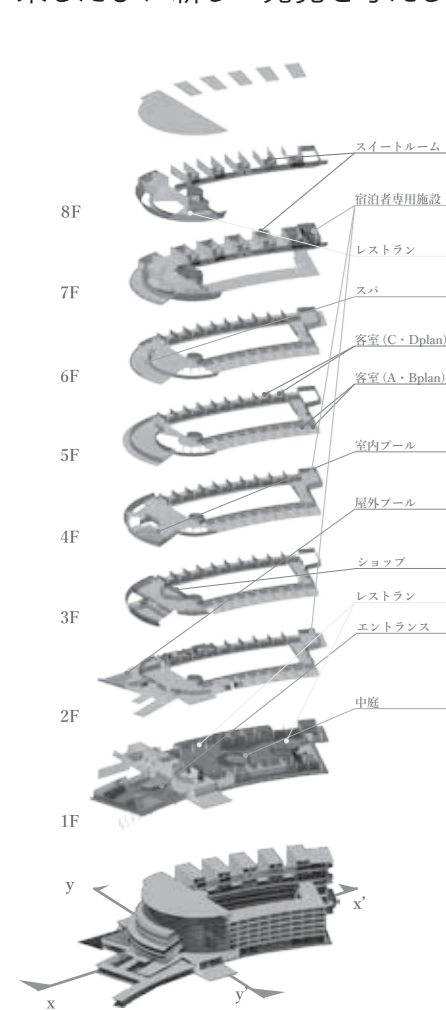
水路と陸路という2つの交通アクセスを持つこの敷地に自然を象徴としたホテルを計画することで、東京は自然から得るものの限りなさを改めて実感していく。日本の変化の中心である東京だからこそ、自然の恵みを取り入れていくべきだ。

■講評

今までの既成の概念にとらわれることなく、まったく新しいコンセプトでホテルの客室を構成しているところを評価します。客室に緑・水・光・影を建築的に合体させることで、ホテルにとって重要なホスピタリティとリラックス感を、建築をとらえて新しい形で

提供する計画です。自然と建築が一体となった9パターンのキューブをシステムマッチングに構成し、それをメゾネット型で積み上げています。その発想が、単調に陥りやすいコテージタイプの問題点を回避しています。またキューブと一体となった自然は、敷地全体のランドスケープと融合させることで、提案全体のホスピタリティとリラックス感の相乗効果が感じられます。各客室のアプローチの1階は、2階の視線配慮と光環境に考慮されたピロティ空間とし、客室プライベートゾーンのプライバシーが考慮されているところも評価できます。客室内のプランに配慮すればさらに良くなる作品だと思えます。(小林直明)

来るたびに新しい発見を与える



東京湾側は建築によって日常から離れた、プライベートな空間となっている。



吹き抜けた中央のイベントスペースにより客室の廊下からは賑わいを感じ取れる。

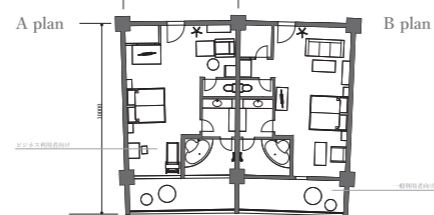


エントランスは常に季節が変化を与え、新しい顔を見せてくれる。

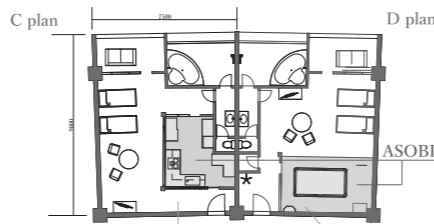
人に合わせる部屋

部屋にそれぞれの理想を与える。ASOBIというアメニティを入れ替えられる余地を部屋に設けることで、季節性を与えたり、趣味に特化した部屋にしたりと利用する人の背景に応じて可変する部屋である。

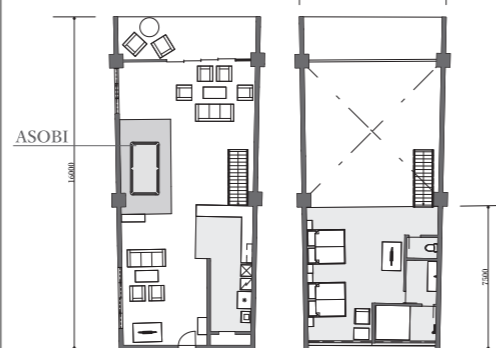
2F-5F シングル S=1/400



2F-5F ツイン ダブル



6F-7F スイート



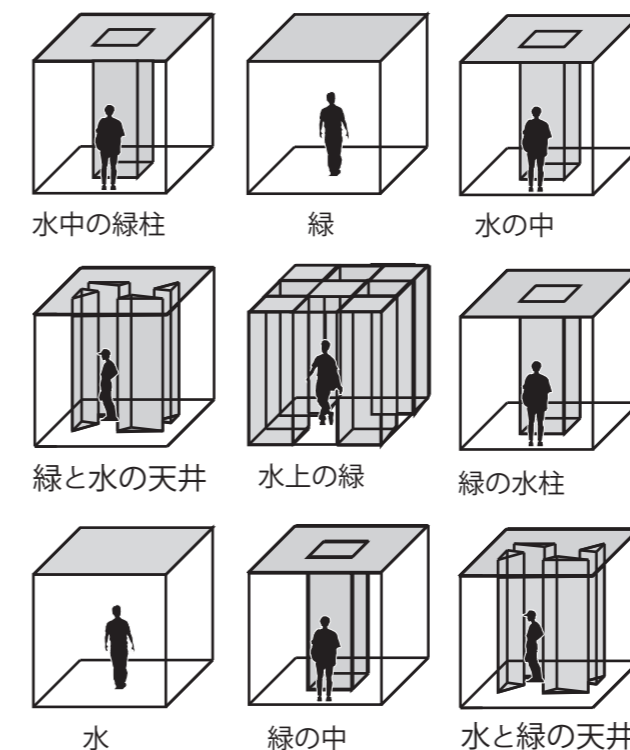
計画地



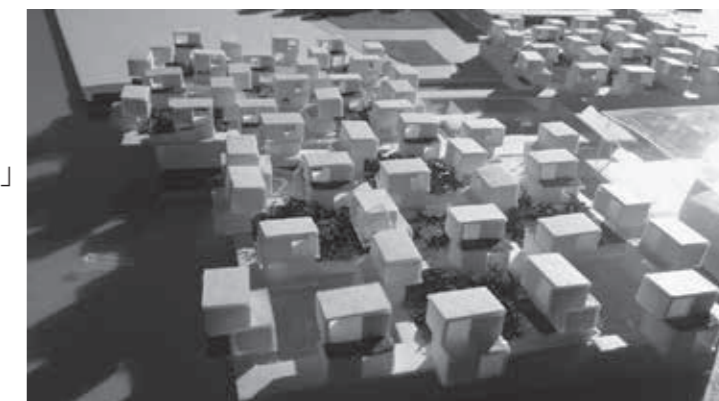
計画地は勝どきの海辺の敷地である。この海風を感じられる敷地に「滞在型の自然体験空間」となる宿泊施設を提案する。

1F 散策のピロティ

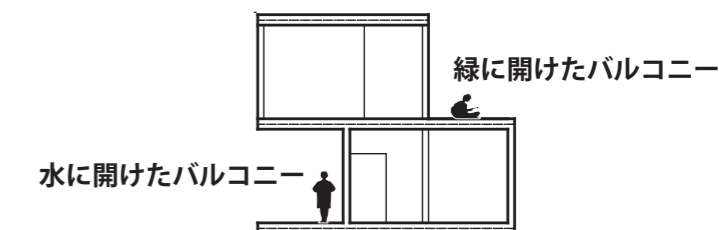
水×緑
みずの中にいる感覚みどりに囲まれている感覚。
9パターンの建築的自然空間を人々は散策する。



+ひかり
天井から光が差し込むことで木々の間の木漏れ日
水の動く影が建築内部にうつる。
人々はうつるものから自然を感じる。

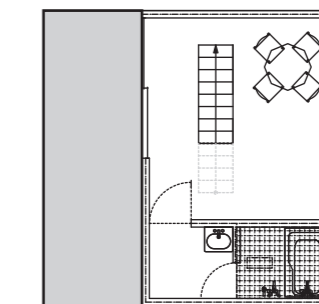


2F メゾネット型の客室

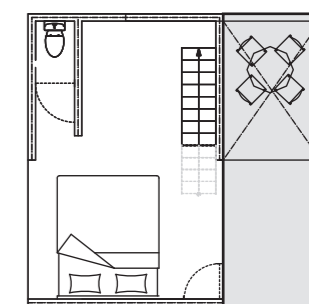


メゾネット1F 上階のボイドを通じて木漏れ日となった光が室内に影の模様となつてうつりこむ。

メゾネット2F 大きな窓から客室に光が差し込む。客室は水と緑の2方向に開けていて2つのまったく違う景色が人々の瞳にうつりこむ。



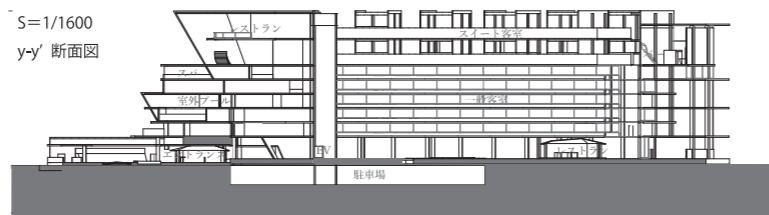
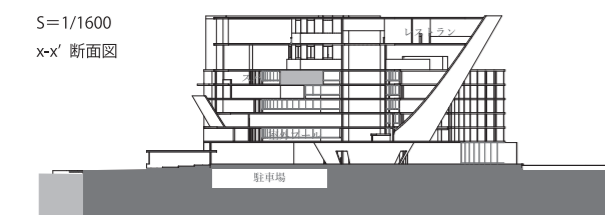
メゾネット1階平面図



メゾネット2階平面図

賑わいの操作

ホテルの娯楽施設のみを利用する人と宿泊者の専有空間が干渉しないように配置し、賑わいは外に発信するようにすることで街全体の憧れのホテルとなる。



永富 快・宮嶋悠輔・門口稚奈
■コンセプト

計画地までは勝どき駅から徒歩15分ほど。

学校も多く見られるが、豊洲や月島まで娯楽施設や飲食店も少ない。

地域のコミュニティ空間の不足が感じられた。2020年には東京五輪の会場の中心地になり、近隣も土地開発が進んで行く。隅田川から東京湾に沿って東京のホットスポットを水上交通網を利用しての移動が増える。その交通網

の中心として豊海地区を「最強のデートスポット」として地域にイメージを植えつけることで豊海という地域をホットスポットとしてブランド化させていく計画。敷地に対しシンボリックに三角形の頂点の位置に点在する三施設にウッドデッキを通して円で結ぶ。海からくる人々を迎え入れ、近隣の街からは緑のスクリーンで建築と海を垣間見せることで陸から徒歩またはバスなどでくる人に高揚感を与える。出会いの海の駅、別世界の水族館、また行きたくないホテル。三施設とランドスケープによりこの地域にあり続ける都会のオアシスとなる。

■講評

プレゼンテーションの手法として、今回の3つの計画を「最強のデートスポット」というキーワードで、人の視線を通してマスタープランと各施設の計画を説明しているのが分かりやすい

と感じました。各施設を、「出会いの海の駅」「別世界の水族館」「また行きたくないホテル」と命名し、その名に沿った施設説明は聞き手を十分に説得できたと思われま。

実際の計画についても、ウォーターフロントと融合された海の駅、別世界と謳うだけはある水槽と建築が逆した水族館、ホテルはバスターミナルとのアプローチも配慮され、さらにスポーツゾーンとマーケットエリアがウォーターフロントと一体化し、各施設間をボードウォークで程よくつないでいます。またボードウォークでの人のアクティビティが内陸部から垣間見られるランドスケープデザインにも優れている全体計画です。(小林直明)

福富大真・江田拓海・谷 醒龍
■コンセプト

敷地が持つ2つの優れた特性、1) 対岸に浜離宮、東京タワー、汐留の夜景、レインボーブリッジが見渡せ、周辺の眺望に優れていること、2) 羽田空港から各観光地へ通する水上バスのルート内に位置し、外国人観光客、国内の観光客の集客が見込めることから、日本文化や和風建築を取り入れたうえで景観を活かす設計を行う。

まず、集客ではバスターミナルや駐

車場、水上バス(①、②)、船の係留所(③)を設置し水陸両端からのアクセスを可能とさせた。さらに、海の駅で港、水族館で街、ホテルで山を表現し、敷地全体で日本の地形を作り出す。そして、この操作が各施設の異なるレベルから周辺の優れた景観を楽しむことを可能とさせた。各施設では和風建築を取り入れ、日本文化や日本人の精神を学べる工夫を凝らし、すべてにおいて日本を感じる空間を作り出す。

建築、空間、文化、精神、日本を五感で感じるこの施設が新たな観光の拠点となるのは間違いないだろう。

■講評

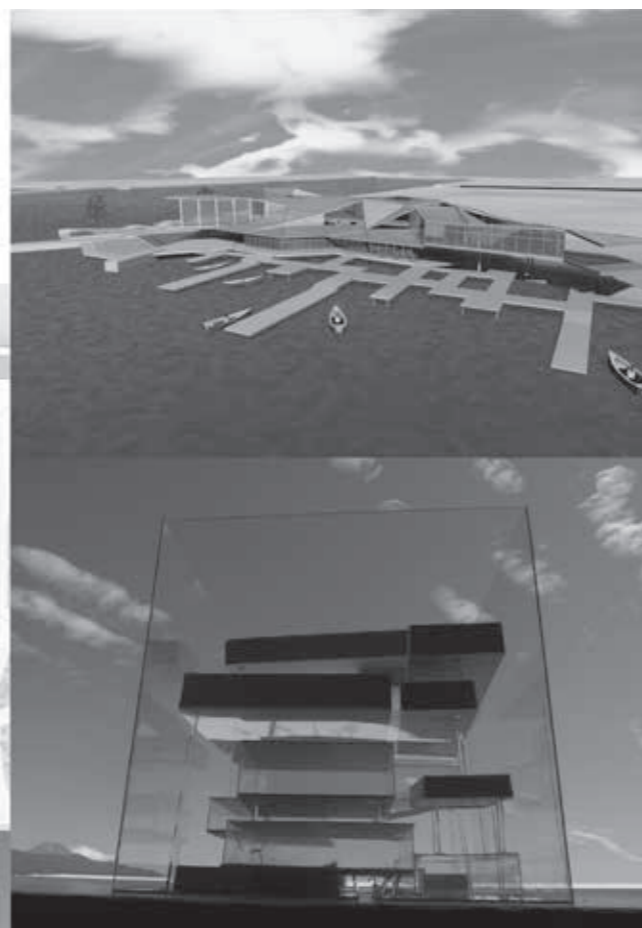
建築メディアデザイン第3課題「プ

レゼンテーション」の目標は、1年間を通して第1課題と第2課題の授業で創り上げてきた、海の駅、水族館、ホテルやマスタープラン、ランドスケープを共同制作という視点で再構築し、魅力的な提案を作り上げ、そしてその提案を学外の開発専門家にインパクトのあるプレゼンテーションとして発表することである。実社会ではさまざまな形で創造的協働が行われるし、プレゼンテーションの良し悪しがプロジェクトの成否につながることも多くある。大学時代に創造的協働の技術やプレゼンテーションの技術を磨くことは大変重要である。

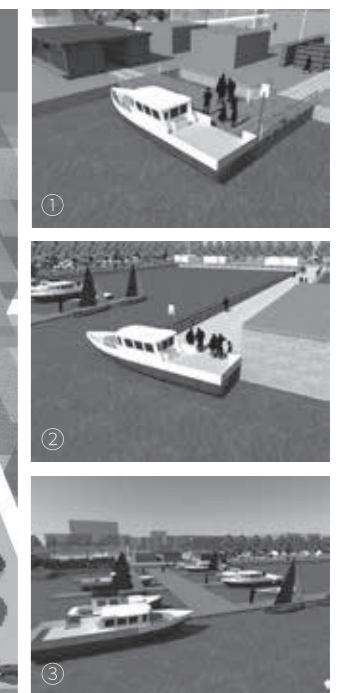
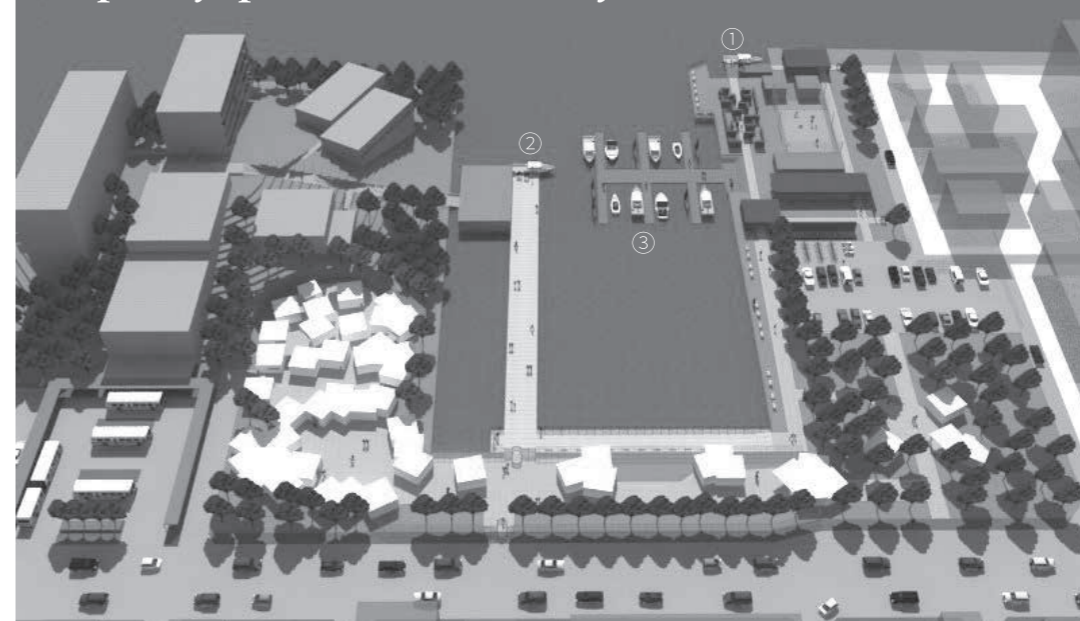
このチームの作品は3人の学生の協働であるが、デザインテイストの異なる

3つの作品を非常によく統合してまとめている。1人の作者が開発デザインを行うよりも、複数が協働することの方が生き生きとした、多様性のある豊かな街が生まれ出される可能性が高くなる。建築のプレゼンテーションでは、CGや動画、模型写真、スケッチ、コピーなどを駆使して自分の伝えたいことを表現し、そしてオーディエンスの反応に合わせて臨機応変に伝えることを要求されるが、今回の3人の学生たちは協働してプレゼンテーションの作戦を練り、見事なチームワークで成功に導いた。臨場感あふれる当日のプレゼンテーションそのものを、この紙面上で伝えることができないのが残念である。(光井 純)

最強のデートスポット



Inspire Japanese Sensitivity



Concept

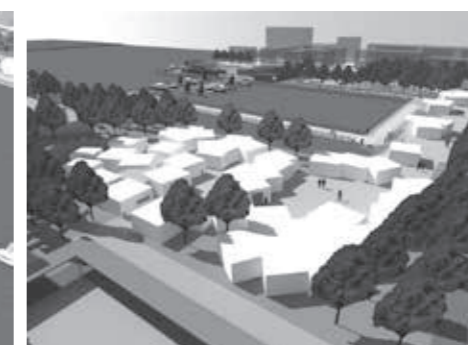


海の駅を港、水族館を街、ホテルを山と見立て、施設全体により日本の地形を表現した。

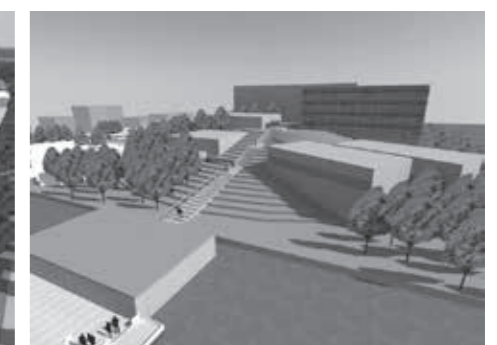
海の駅「おもてなしの駅」



水族館「魚のカタチ」



アーバンリゾートホテル「里山の宿」



蒲生良輔・飯塚智哉・野崎健人

■コンセプト

計画地の豊洲は東京オリンピックを目前にして、急激に地価が高まっている。廃れ始めた工業地帯の計画地は、開発が進むと考えられ、周辺はすでに高層マンションの建設が進んでいる。その中で海沿いを新たに開発していくとなった時、今ある自然を未来へ残していけるのか。もっと言えば、住区となり生活者が増えていくと想像できるこの地域に、豊かな自然を感じられ

る憩いの場所があるべきなのではないか。われわれは開発の進む都市の喧騒の中で、未来の住民たちのための自然の憩いを創ろうと考えた。

その形態は3つの施設によって、海に寄り添う一本のプロムナードとなった。施設はそれぞれ自然を取り込むデザインであり、プロムナードを歩くと海と森を体感することができる。海の駅は海と木々をつなぎ、水族館は水の空間として水盤とシームレスにつながっている。ホテルは海と森の融合した空間である。自然と都市を3つの施設がつなく未来を描いた。

■講評

茫洋とした埋め立て地を彩るように水を敷地の中まで引き込んできた計画である。その中に、海の駅、水族館、ホテルがちりばめられるように配置されている。具体的には隅田川を挟んで対面にある浜離宮庭園と呼応するように水辺、緑地、マウンドを全体的に配置することでランドスケープを形成し、それらをつなぐうねうねとした回廊で敷地内を散策できるようにしている。

各部を詳細に見てみると、それぞれの建築は水辺の取り込み方が一定ではないことに気がつく。海の駅は、水辺を上から覆うように一枚のデッキで囲んでいる。海の駅は階段状になっており、さまざまな視点から海を望むことができる。また、水族館は、大きく水

面に張り出し、まるで浮かんでいるような配置形態を採っている。さらにホテルは、隅田川を望むエリアを水盤として一体的になるように取り込んでいる。そのレベル差は数段階に分けて設定されており、ホテルの客室から水盤を通じて浜離宮庭園、そして夕日に浮かぶ富士山までも臨むことができる。

全体はよく考えられているように見えるが、断面方向で考えるとホテルの南西側のマウンドの起伏はかなり急勾配になっており、さまざまな人が集う場所としては配慮が求められよう。さらに敷地内に引き込んだ水辺のエッジの処理に工夫が見られないこと、水族館と回廊がほとんど絡んでいないことなど残念な点が散見される。(佐藤信治)

4年生（総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ）

【担当】 畔柳 昭雄
坪井望太郎

桜井 慎一
高島 秀訓

近藤 健雄
佐藤 信治
山本 和清
井上 武司
宮崎 渉

東京Scape N

東京、豊洲は2020年の五輪に向けて開発が進む。

そうして東京の人口は増え、生活者が

増加した時、自然を感じられる場所

はあるのだろうか。都会に住む

楽しさは確かにある。しかし、

小さな子供が増えてきた時、

裸足で走れるような所が

無くて良いのだろうか。

計画地 豊洲の海辺に、

3つの施設を中心

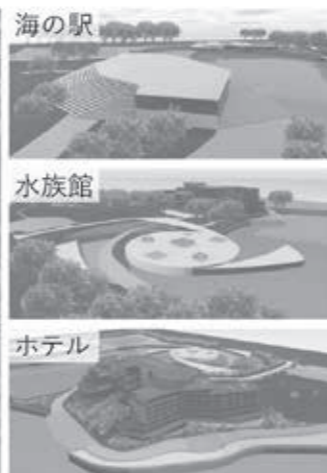
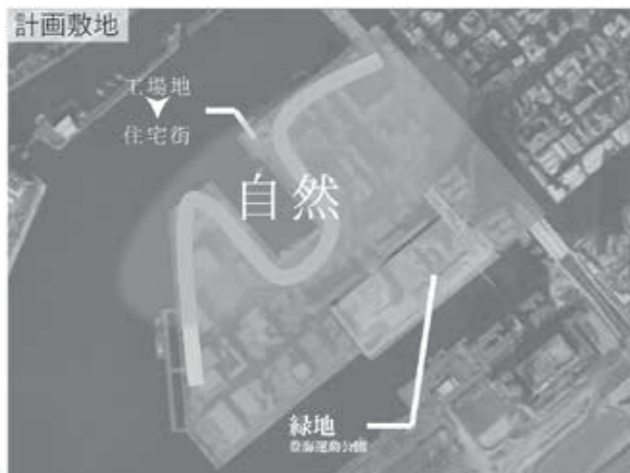
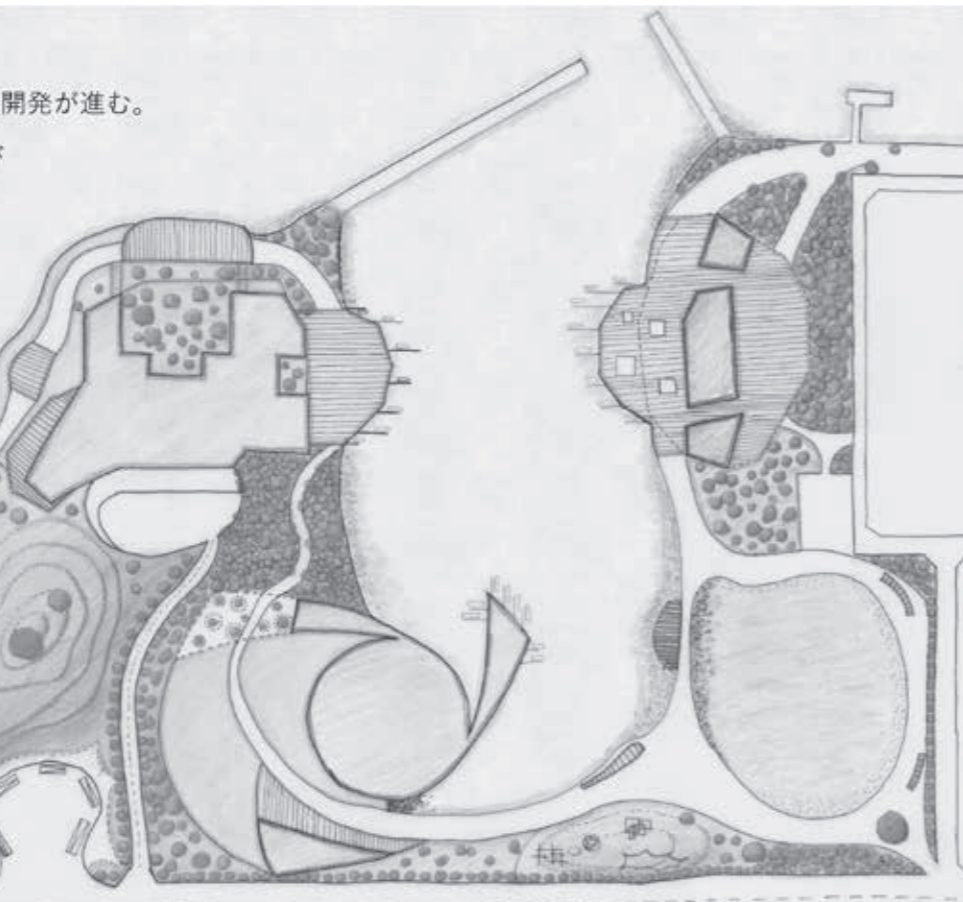
自然を体感できる

プロムナードを

つくる。

計画地の豊洲は東京オリンピックを目前にして、急激に地価が上がっている。廃れ始めた工業地帯の計画地は、開発が進み高層マンションが増加していく。そんな中で、新たな海沿いの開発は自然を守るか。

2016 — 2020



総合演習Ⅰ、Ⅱ

海洋建築設計演習（総合演習Ⅰ）
ウォーターフロント計画演習（総合演習Ⅱ）
「海老川調節池の多目的利用
に関する提案」

【課題趣旨】

(1) 海老川調節池の多目的利用

船橋市街地を南北に貫流している二級河川海老川は、近年の急激な都市化により水量が増加し洪水被害が頻繁に発生した。そのため、千葉県では河川整備事業を行っているが、本事業の進捗により時間雨量30mmに対応する河道整備を行い、さらに上流の調節池と一体化し時間雨量50mmに対応する河道整備を図っている。

なお、調節池の整備は、出水時に河道の流水を一時的に溜め、下流への洪水軽減を図るものであり、平常時には都市部の緑地空間として多目的広場や公園等に利用できる景観に配慮した整備を図る予定である。そこで、本課題では、海老川調節池の上部の利用方法を提案することを求めている。

(2) 水上交通の活用

船橋市の平成26年度の事業において、JR船橋駅南口周辺部と臨海部の回遊性創出に向けた基本構想をとりまとめたが、その成果のひとつとして「海上交通の活用」が挙げられている。

JR船橋駅南口周辺部から臨海部へのアクセス手段のひとつとして、海老川を利用した水上交通の導入を検討している。レクリエーションを目的とした利用に加え、例えば災害時における人や物資の輸送ルートとしても有効であり、海側から物資を運び込み、市場へ一時的に保管する等の活用も視野に入れている。

臨海部には、大型商業施設やふなばし三番瀬海浜公園等の賑わい施設があるが、これらは最寄りの鉄道駅からのバス路線はあるものの、臨海部内の各

施設での移動は困難であるため、水上交通の活用により容易にすることで、臨海部全体での回遊性を高めたいと考えている。

【課題条件】

(1) 計画地は船橋市東町に位置する224,524㎡、計画貯水量は550,000㎡である。

(2) 船橋市における水上交通の活用方法についての提案。

(3) 提出する成果物は、図面、模型、プレゼンテーション用の資料。
なお、本課題の設定にあたっては、船橋市政策企画課のご協力により、学生チームが考案した計画案のアイデアは、船橋市役所ロビーに展示されるとともに、現実の構想案の中にも取り込まれる可能性もある。

総合演習Ⅱ

プロジェクト企画演習

「川崎市の海を活かしたまちづくり
—東扇島「メガヨット特区」を想定した
クルーズ・エンターテインメント・シティの提案—」

【課題趣旨】

現在カリブ海の島々には、毎年数千隻のメガヨット（個人が所有する30m以上の客船）が訪れることで、小さなカリブ海諸国の経済を潤し、雇用を生み出し、地価を上げ、それによりさらに多くの投資が行われるという、好循環が発生しています。

メガヨット所有者は欧米の超富裕層であり、カリブ海に呼び込み直接消費してもらうことは、世界の富裕層から地域の一般庶民への最も早い富・資産の譲渡です。島嶼地域の振興の有効な手法になっています。

現在、わが国でも、アジア各国から近く、素晴らしい海、伝統・文化、ホテル等が整っていることから、多くのメガヨットオーナーが日本へクルーズ

に来たいと望んでいます。それにもかかわらず、日本がカリブ海諸国のようにならない大きな理由は、「規制」とマリナー等の港湾インフラの不備と考えられます。詳細なプランが必要ですが、現時点でわかっている下記2点の規制を「特区」として緩和すること、メガヨットが入港できる港・マリナー整備を行うことで、日本においても世界中から超富裕層を引き付けるメガヨットクルージング拠点の創出が可能になるものと考えられます。

そこで本課題では、2020年に開催される東京オリンピックを念頭に置き、今後ますます増加するであろうクルーズシップ（メガヨット）の寄港に備え、東京湾初の「メガヨット特区」として機能するクルーズ・エンターテインメント・シティを、川崎市の東扇島地区に提案することを課題とします。

【提出図面および模型】

(1) 最終提出要求図面

- ① 1階平面図兼配置図：（計画により平面図と配置図を別けても良い）縮尺 1/300～1/500
 - ② 各階平面図：縮尺 1/300～1/500
 - ③ 立面図：2面、縮尺 1/300～1/500
 - ④ 断面図：2面、縮尺 1/300～1/500
- (2) コンセプト・ゾーニング図・面積表
・コンセプト図およびゾーニング図を分かり易く表現する。

・設計主旨を提出図面の中に記載する。
・各階の床面積および延べ面積を表としてまとめる。

(3) スタディ模型および完成模型

・スタディ模型（縮尺適宜）はスタyroフォームやスチレンペーパーでボリュームやフォルムを検討できる程度のものとし、最終提出時に検討プロセスが分かる写真を提出する。

・完成模型（縮尺適宜）は、敷地・建物・植栽などを制作し提出する。最終提出時には、2Lサイズカラー写真で4枚以上を図面に貼り出し提出する。

(4) 図面提出仕様

- ・A1サイズの用紙（紙質自由・枚数自由）を使用し、ボードなどを用いてパネル化して提出する。
- ・用紙の使い方は縦、横のどちらでも良いが、すべての図面の方向を統一する。
- ・1枚目は表紙とし、コンセプトおよびゾーニング図など課題を検討した図表、面積表、スタディ模型写真、設計主旨などをレイアウトする。
- ・2枚目以降には、1階平面図兼配置図（平面図と配置図を別けても良い）、各階平面図、立面図、断面図、模型写真、パースなどを表現する。
- ・見やすいように図面展示のプレゼンテーションを工夫すること。



総合演習Ⅱ ウォーターフロント計画演習
海老川調節池の
多目的利用に関する提案

ザ・インパクト／大野真由美
・森田達也・渡邊 亮

「Funabashi Organic Project
一農園のあるちょっといい暮らしを船橋でー」

■コンセプト

近年、貸し農園や週末農家、クラインガルテンなどが非常に人気を博している。現在、船橋市でも市内14カ所に貸し農園として「ふるさと農園」を運営している。市民の方に土と親しみながら収穫の喜びを味わい、農園の大切

さと都市農業に対する理解を深めていただくことを目的に土地の有効活用に一役立っている。

今回、私たちはこの農業需要への高まりと船橋市の「ふるさと農園」の取り組みを知り、農業がつかなくコミュニティをテーマに、調整池の一部を550区画の大規模貸し農園として、賑わいある船橋市を目指し提案するものである。また、敷地内にはオートキャンプ場、バーベキュー広場、中央広場、じゃぶじゃぶ池、浮島エリア、レストラン・体験施設などが設置され、農業以外でのコミュニティが形成できる構想となっており、地域の交流の場ともなっている。

さらに、貯水機能では時間雨量

50mmの降水量に対応できるように、計画貯水量は55.0万mと設置されており、自然排水（水位差排水量）として25.0万mを公園内に貯水できる計画となっている。

■講評

都市郊外には、休耕地を活用した家庭菜園が各地に作られ、多くの市民が趣味と実益を兼ねて野菜栽培を楽しんでいる。最近では、郊外の大規模な農地を利用して、宿泊・滞在しながら目の前の自分の畑（借地）で農園生活を楽しむことができるクラインガルテン

と呼ばれる市民農園も整備されるようになってきた。計画敷地は、もともと農地なので、土壌も野菜栽培に適しているし、常時湛水型の調節池があるので、農業に必要な水の供給にも応じられる。自家栽培のメリットは、新鮮で安全な野菜を作れることにあるが、無農薬野菜の栽培は害虫の除去など、素人には難しい場面がある。市街地の小規模な家庭菜園だと、すべて自己流で対処しなくてはならないが、本提案の大規模菜園なら、常時、指導員がいて、野菜作りから料理方法まで相談にのってもらえるので安心だし、BBQ場、オートキャンプ、レストランなども併設されているので、利用者の満足度も高いだろう。

（畔柳昭雄）

総合演習Ⅱ プロジェクト企画演習
川崎市のを活かした
まちづくり

—東扇島「メガヨット特区」を想定したクルーズ・エンターテインメント・シティの提案—

佐藤研究室1班／高橋 翔・千葉雄介・中西宏直・今村夏波
「伝統工芸品の国際拠点とするまちづくり」

■コンセプト

本計画地である東扇島に日本の伝統工芸品を活かしたまちづくりを提案する。メガヨットマリナからホテルのメインストリートを中心にまちづくりを行った。メインストリートでは国内

外問わず多くの観光客で賑わいをみせ、伝統工芸品を取り扱った出店や催し物、休息のためのカフェやレストランを配置。マリナからホテルまでの道中を飽きさせないために、曲線を使用した建物が並び、奥へと続くガレリアがある。メインストリートの両エリアには伝統工芸品に関する工芸館や体験施設、自然と寄り添いあいながら鑑賞できるスペースを設けた。人工地盤の上部では自然溢れる豊かな環境があり、下部では日本全国の展示スペースや体験施設が存在する。上部と下部の隔たりを調和するために、ポイドやガレリアを点在させる。

最後に、工芸士や市民、国内外の観光客が交わることで新たな伝統工芸品

の可能性を見出し、世界へ向けた伝統工芸品の国際拠点となる。

■講評

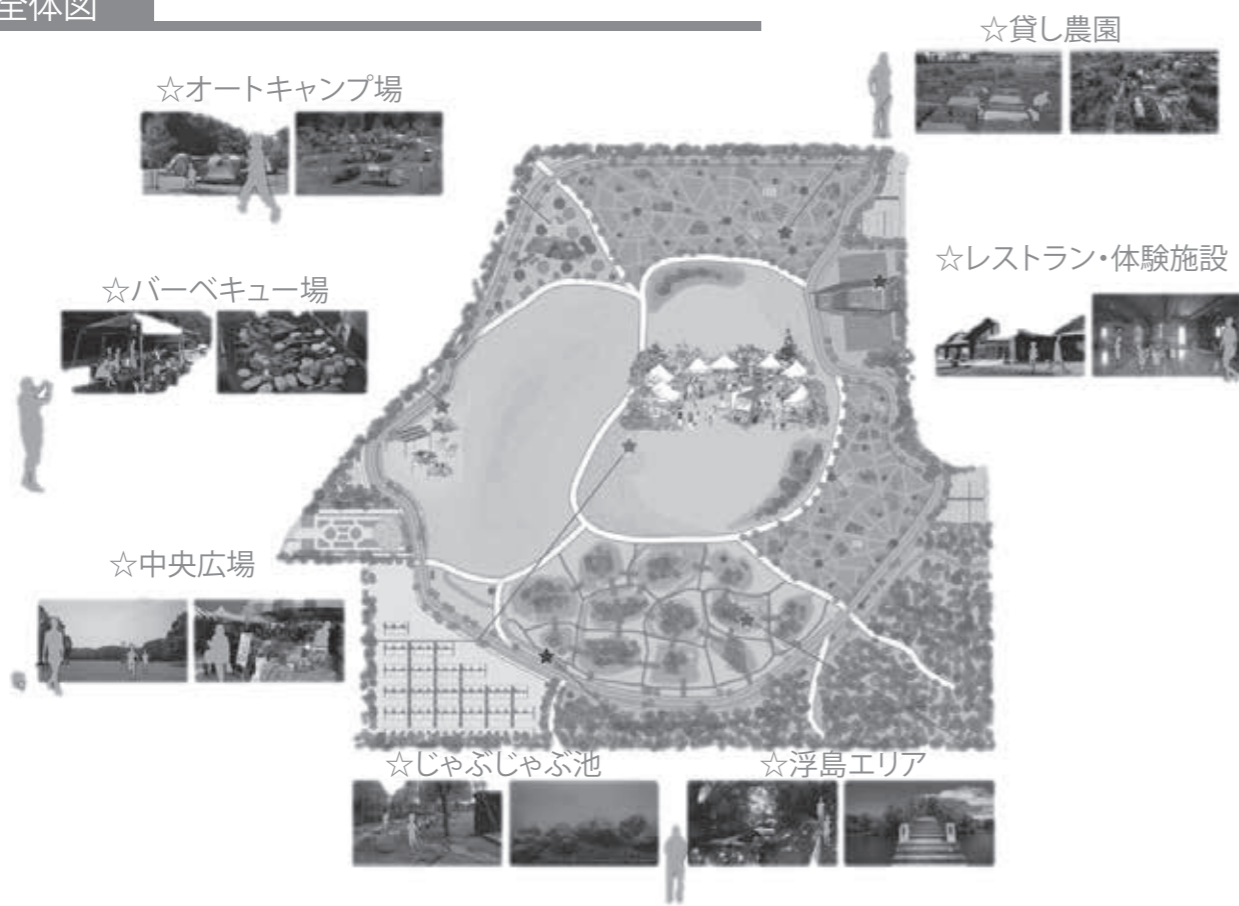
グローカリゼーションという言葉がある。「地球規模の視点で考え、地域で活動する」という意味の、グローバルとローカルを組み合わせた造語で、1980年代に日本企業の海外戦略理念として経済、環境問題、地域開発などで使われ始めた。精緻で、デザイン的にソフィスティケートされた日本の伝統工芸品、そのほとんどは地域の風土と長年に磨き上げられた技術の結晶であるが、地球上の思わぬところで愛好され活躍しており、グローカリゼーション

のひとつの形と見る事ができる。昨今観光産業は経済波及効果大きいとして力が注がれ、世界の最富裕層を日本に呼び込むメガヨット特区の構想もその視野にあると聞く。本課題はそれを先取りする形で川崎・東扇島をメガヨット特区とするまちづくりである。日本全国に散在する伝統工芸品を博物館はグローカリゼーションに資するアイデアだ。変形した東扇島の敷地にマリナから宿泊施設（ホテル）へ至る中心軸を設定し、そこから他施設へ展開するプランニングはいわば常套手法だが明解である。一方で各施設の建築デザインはやや凡庸に走ったかに見えるのが惜しまれる。

（井上武司）

よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ 最優秀賞

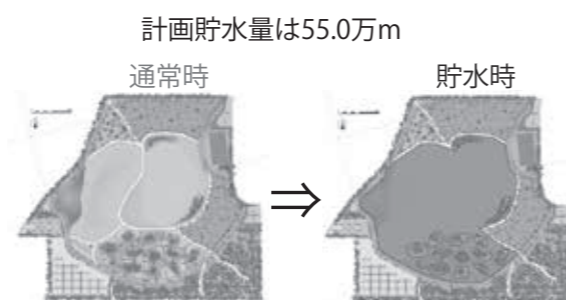
全体図



イベントの提案



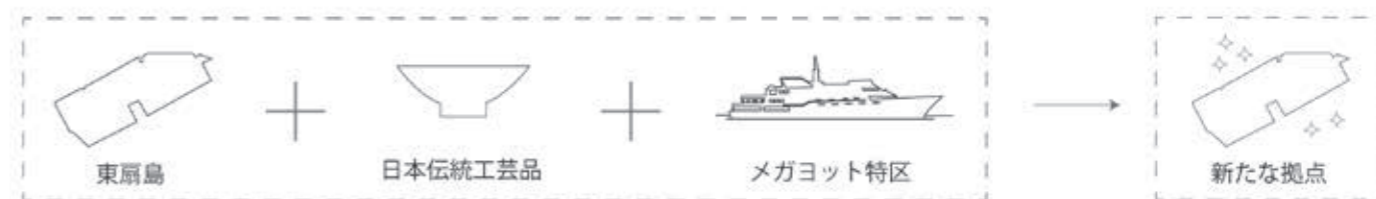
貯水機能



伝統工芸品の国際拠点とするまちづくり

01. コンセプト

伝統工芸品によるまちづくりを行うことで東扇島の新たな臨海部の工業地帯の活性化と伝統工芸品の息づくまの基盤を形成する。また、東扇島に外国人の富裕層をターゲットとした、メガヨット特区を整備することで人の流れを生み出し新たなまちをつくる。さらに、日本伝統工芸品の周知を目的としたまちづくりによる伝統工芸品の新たな拠点となるまちをつくる提案。



02. まちづくり

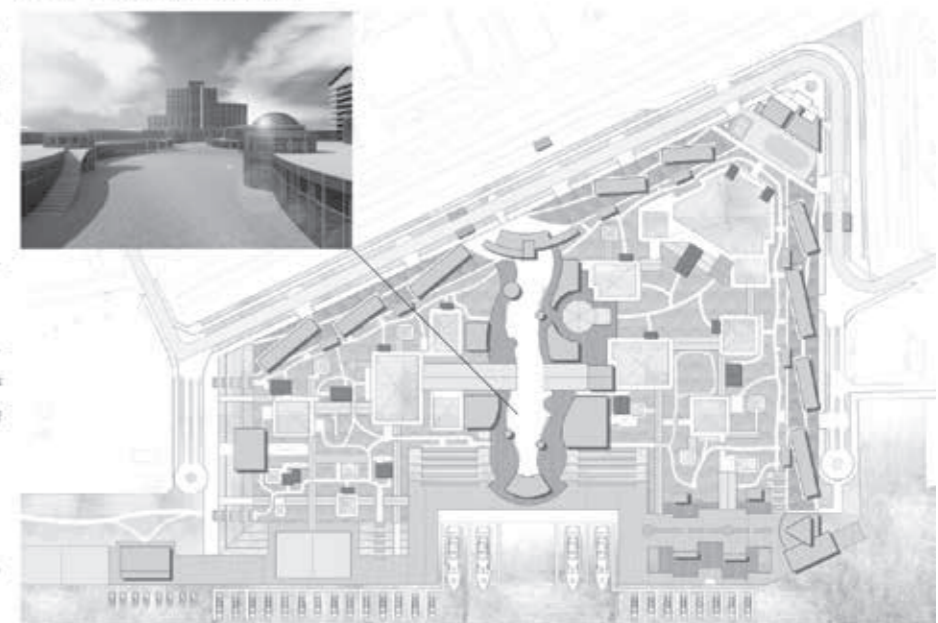
メガヨットが入港できる港・マリナを整備を行い、東扇島において世界から超富裕層を誘致することが可能なメガヨットクルージング拠点の創出。さらに、東扇島で直接消費してもらうことで経済を潤し、雇用を生み出し、多くの投資が行われ好循環が発生される。



近年、日本の伝統工芸品に海外からの注目が集まってきている。また、海外でのコンナストや国際展示会などが開かれ東扇島における活性化に伝統工芸品を活用する余地があるのではないか。



03. 全体屋根伏図



総合演習Ⅱ プロジェクト企画演習
川崎市の海を活かしたまちづくり
 東扇島「メガヨット特区」を想定したクルーズ・エンターテインメント・シティの提案

佐藤研究室2班/重田秀之・斉藤賢司・高橋政頼・浅見花
 「日本食文化の振興を目的とした国際コンベンションシティの提案」

■コンセプト
 世界の超富裕層は自前のメガヨットを所有しており、世界各地を訪れているが、日本にはメガヨットが入港できる港湾が整備されていない。そこで、

多くの超富裕層を日本に呼び込むため、現在世界中で注目されている「日本食」をテーマとした、食の「文化」「歴史」を外国人へ発信するコンベンションシティを提案する。

町の計画はまず、海側からマリナーエリア、観光・商業エリア、住居エリアの大きく3つに分割し、それぞれを緩やかに融合させる配置を行った。また、マリナーエリアの東側に各種公共交通機関のターミナルを集約し、観光街への玄関口とした。マリナーエリアにはクラブハウスやホテル、メガヨットの展示、観光・商業エリアにはミュージアムやコンベンションセンター、住居エリアにはハウジングや公共施設を配置し、それぞれのエリアどうしは

アベニューで結ばれ、その沿線には小規模なレストランや商店を配することによって賑わいあふれるまちづくりを行った。

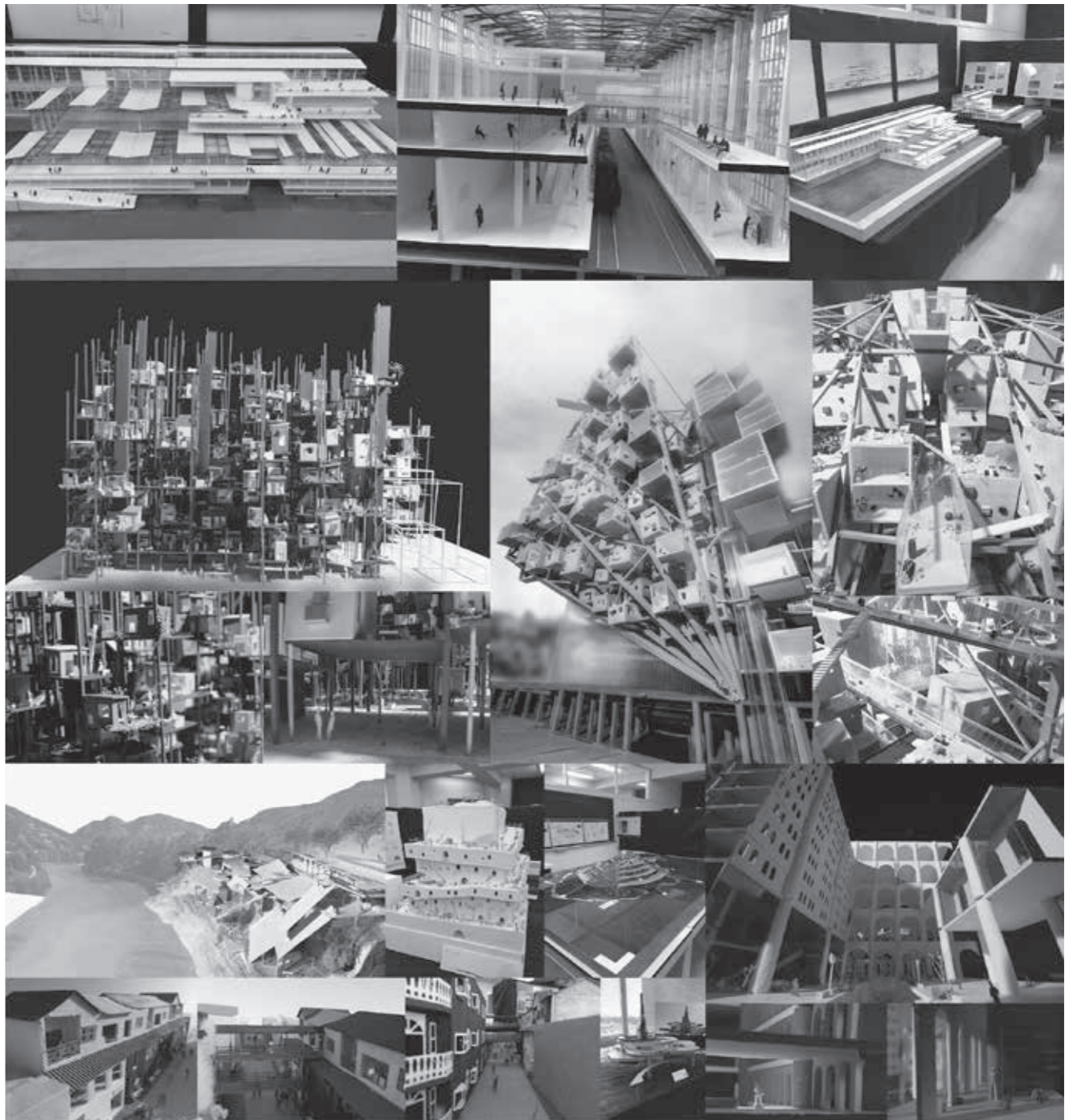
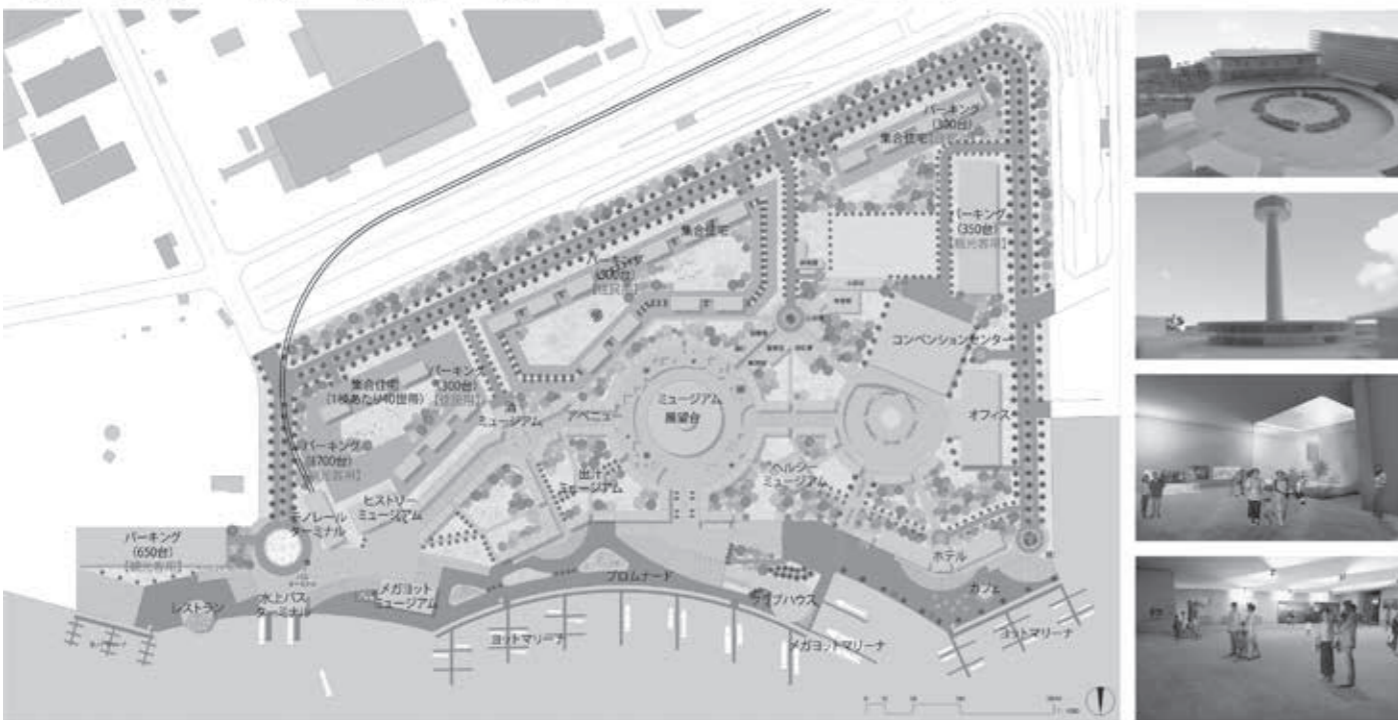
■講評
 計画対象地の東扇島は、東京港・横浜港・羽田空港に囲まれた川崎港の中心に位置し、その地理的優位性を活かし、物流拠点として発展してきたエリアである。また、基幹的広域防災拠点として首都圏のバックアップセンターの役割を担う重要な拠点でもある。2008年には、川崎臨港道路東扇島水江町線が開通予定であり、物流拠点を中心に更なる発展が期待されている。

本作品は、東扇島の交通アクセシビリティを活かし、「日本食文化振興」をテーマに国内外の観光客が和食の理解を深め、その魅力を世界に向けて広く発信していく国際コンベンションシティを計画している。計画地の中心に高層ミュージアムをランドマークとして形成し、住居・観光・親水エリアを段階的に配置することで、陸から海へ誘う魅力的な空間を提案した。当初、本グループは敷地に対するスケール感をつかめず、プロジェクトとして特色のない提案が終盤まで進行していたが、提出作品はそれまでの経緯を払拭するものとなった。「最後まであきらめない」という課題に対する姿勢も評価したい。(宮崎 渉)

卒業設計

- 【担当】 佐藤 信治
 坪山 幸王
 井上 武司
 榎本 弘之
 川久保智康
 木内 厚子
 鶴田 伸介
 長井 義紀
 廣部 剛司
 松井 正澄
 水野 吉樹
 水本 光
 光井 純

日本食に関する3つのテーマ



私の地元である秩父地域は、かつて秩父銘仙と呼ばれる織物産業と、武甲山から採掘される石灰石を加工するセメント産業を主要な産業として発展してきた。この2つの産業は秩父市の経済の中心として人々の生活を支え、地域の経済に貢献した。しかし秩父を支えてきた2つの産業は時代の流れとともに衰退し、現在の秩父の産業は活気を失った。

そこで本提案では、日本の近代化に貢献した産業遺産の保存・再利用が注目を浴びる現代の流れに着目し、廃止に向かうセメント工場の空き建築を利用する。藍染を行う絹織物工場を落とし込み、減衰しつつある2つの産業を掛け合わせる。その他にも秩父市の産

業や民芸を伝える資料館を併設した計画とする。

2. 秩父市の経済を支えた2つの産業

秩父では、明治から昭和にかけて「秩父銘仙」と呼ばれる伝統的で高品質な絹織物が盛んで、秩父市民の約7割が織物関係の仕事にかかわっていたほどで、当時の市民にとってはなくてはならないものだった。しかし、着物や絹の需要がなくなっていくにつれ徐々に生産量は減少し、現在ではわずか数軒でしか生産されなくなっている。

さらに秩父市といえばセメント産業の歴史が根強く浸透している。原料となる石灰石が秩父市を象徴する武甲山から採取され、大正12年（1923年）に秩父セメント株式会社が設立された。

秩父セメントは、石灰石の採掘・加工・セメントの生成を一貫して行う大規模な工場として秩父市の産業に活気をもたせてきた。秩父のセメント産業は昭和50年代が最も盛んで、絹織物産業と並んで何千人もの労働者の生活を支えてきた秩父の主要産業であった。

3. セメント工場と市民

秩父市にはセメント工場が2つあり、そのうち秩父セメント第一工場は秩父駅周辺の中心地に位置し、市民の目には日常的に煙突から煙が昇るセメント工場の姿が写し出されていた。その後、同工場は閉鎖・解体された。解体された工場の跡地は広大な更地と化した。かつて秩父市の経済の軸を支え、活気があったその場所には虚無感だけが残

った。そうして秩父市のセメント産業は段々と人々から姿を伏せ、現在は事業規模が縮小され、空き建築の目立つ秩父セメント第二工場のみが残る。

4. 基本計画

前項のとおり秩父セメント第二工場は事業縮小により製造機能として使われなくなった空き建築が目立っている。本計画はこの空き建築のコンバージョンを行い、工場内に新たに变化した機能を落とし込む。廃舎となった駅を観光用の停車駅として利用し、閉鎖的な工場の姿を引き込む。荒川から引き込まれる工業用水として使用された排水を浄化し、新たに絹織物工場や藍染に利用し、本工場に持続可能な機能を計画する。既存の建物はカーテンウォ

ールで覆われた広大な空間が広がった建物である。この大空間を利用した全体の建築を計画していく。さらなるセメント産業の衰退によって廃止・解体へ向かう本工場。日本の高度成長期に於いて秩父市の経済を支えた秩父セメント第二工場の保存・再利用をし、秩父市の作り出したセメント産業という遺産の歴史を世に伝えようとともこの地に活気を再興させる。

5. 建築計画

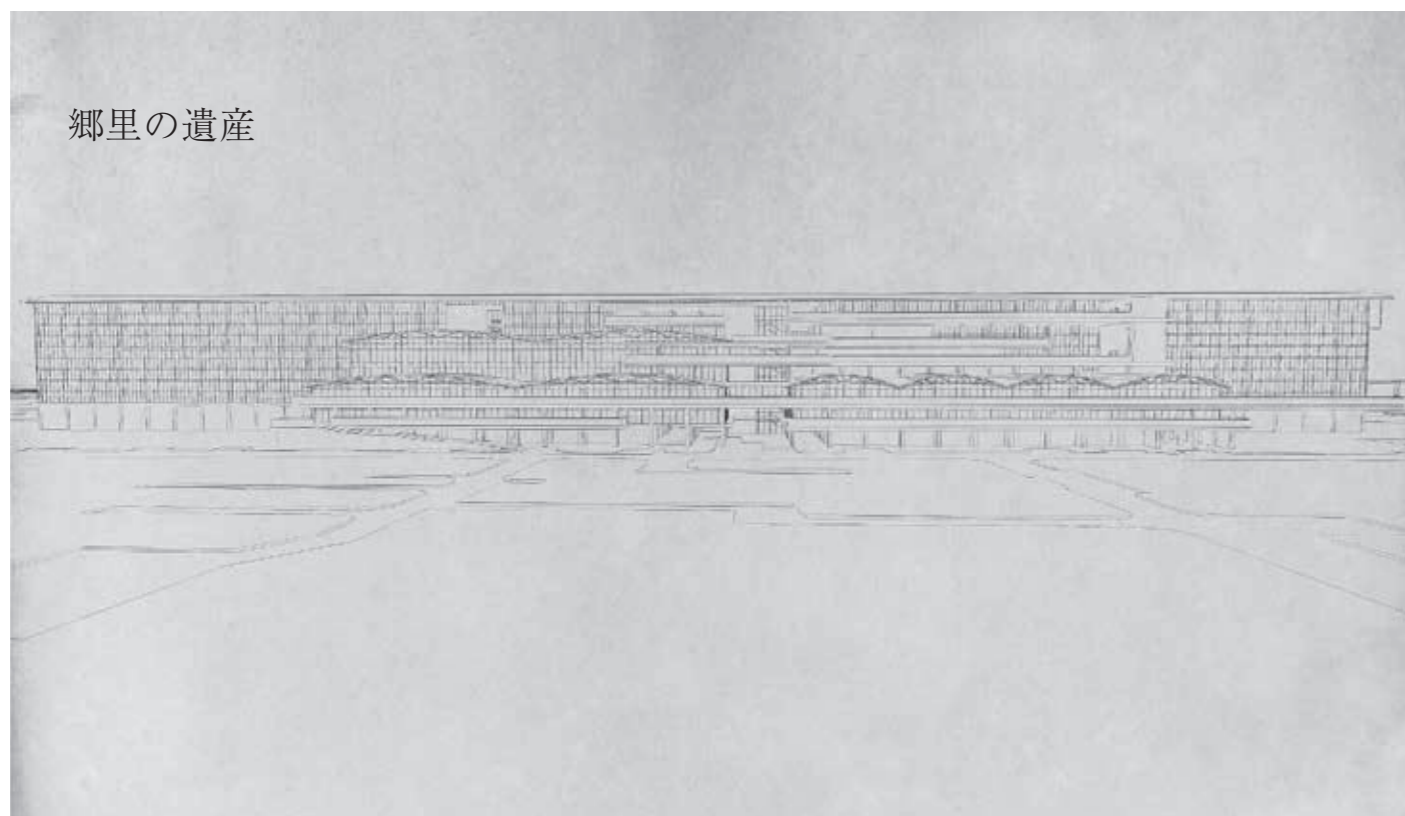
工場のような天井高が大きく広がる空間を生かすようにスラブの操作によって全体の構成をする。吹き抜けをつくり、下層部から上層部にまで伸びる空間が開放感を感じさせる。これによってさまざまな視点から展示空間を視

くことができる。スラブの天井高はランダムに設置し、空間の狭小・広大にリズムを持たせることによって見る人を魅了する展示施設ができる。

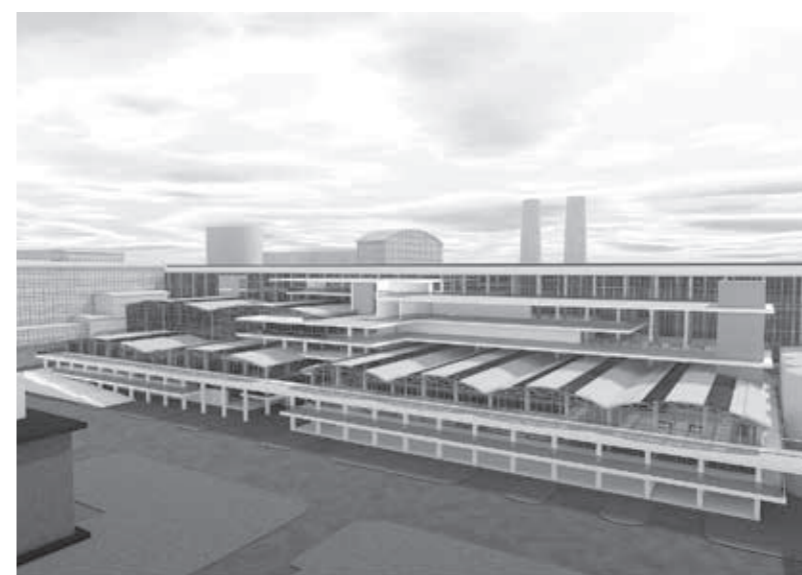
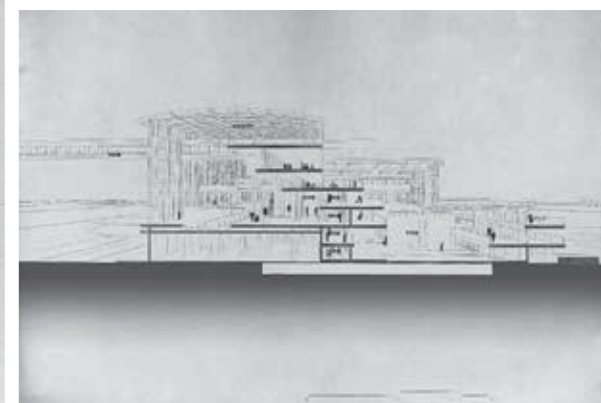
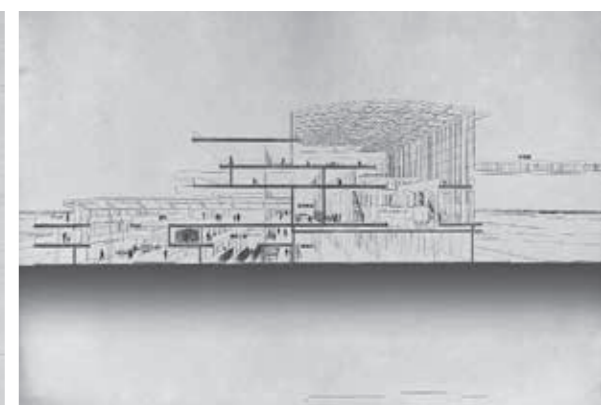
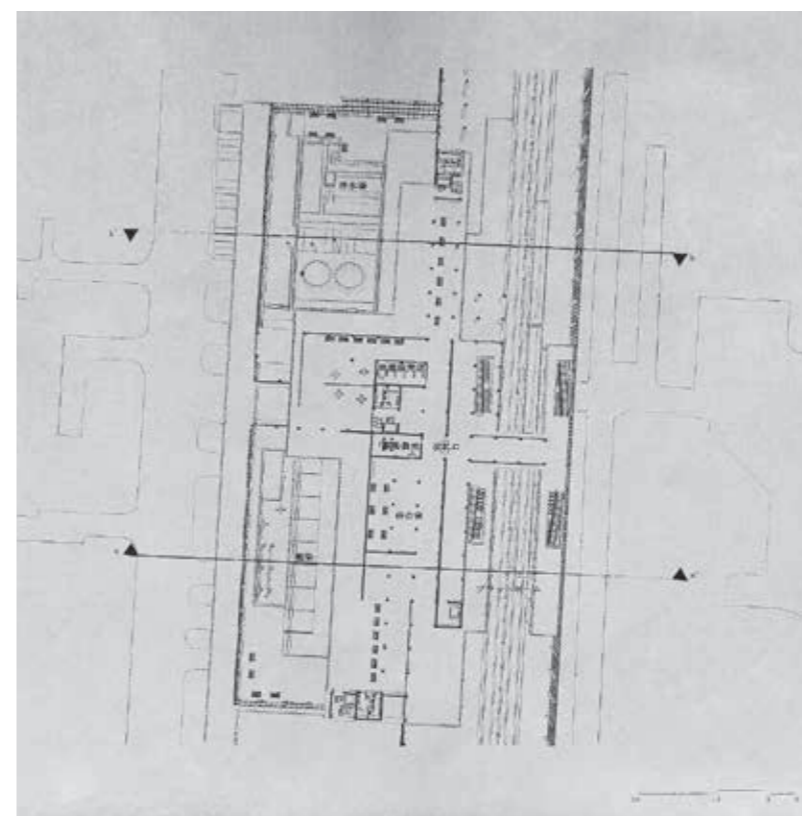
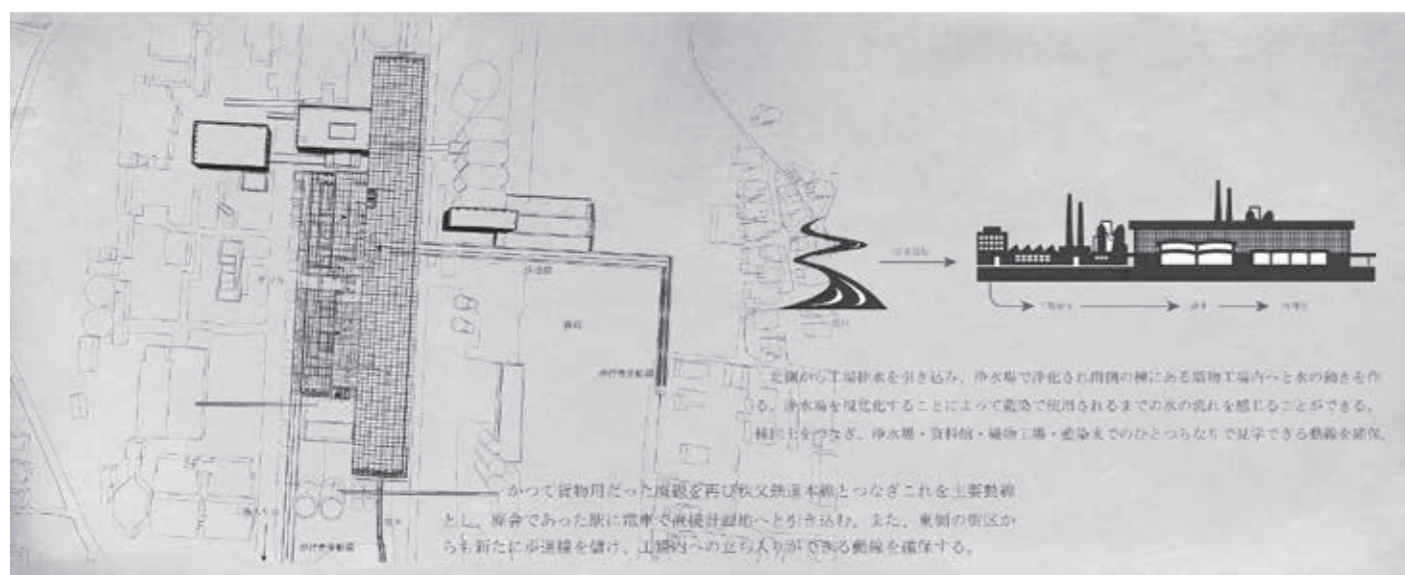
工場といえば閉鎖的で独特の雰囲気を感じ出す。本計画対象の建物は特徴的なカーテンウォールで覆われている。既存のカーテンウォールはグレーのタイルで覆われていて、中の様子が伺えない。工場の開放や動線の確保と同時に、建築に透過性を持たせる。それによって展示空間の外から見える巨大な建物や煙突が間近に見え、セメント工場内を見学できる。計画地を覆うように既存のセメント工場の建物が建ち、稼働する工場が展示空間のような一体感を生み出す。

中西宏直

1. はじめに



郷里の遺産



高橋 翔

1. はじめに
70年の時を生き続けてきた街、新宿ゴールデン街戦後、人々の生活を支え、闇市、青線地帯、飲食街と時代の遷いとともに更新をすることで生き続けてきた。そして、現在、さまざまな世代が集う街へ変わろうとしている。しかし、建物の老朽化や防災インフラの弱さが街の未来を危ぶませている。そして、2020東京五輪開催を機に再開発の波に飲み込まれようとしている。この唯一無二の街を残したい想いと未来へ更新され続けるために、本計画では今後の発展

と従来の地域性の継承からなる、新たな新宿ゴールデン街のあり方を提案する。

2. 計画背景
2.1 建物の老朽化
昭和20年頃に建造されたほとんどの建物は耐用年数を超過した建物であり、土台部分を含め、柱、壁の腐朽が進行、震災などによる建物の倒壊が懸念される。

2.2 木造密集地域
木造建築物が密集するこの街は度重なる火災を経験しているにもかかわらず、防災インフラが整備されていない現状がある。

2.3 店舗需要
店主の高齢化が進む一方、若い世代

の店主が徐々に増え始めている。しかし、空き店舗が少ないことから、出店を待たされている。

2.5 再開発事業
新宿ゴールデン街は新宿区役所の向かいという超一等地に位置しており、非常に商業・住宅需要の高い場所。密集する木造長屋を潰して大規模商業施設を建設する計画は何度も持ち上がってきた。そして、再び東京五輪の開催が決まり区画整備の対象となっている。

2.6 新宿ゴールデン街という個性
失いつつある街の個性「通り道」…幅員3mにも満たない通り道は立ち並ぶ建物や無数の看板、道に置かれた生活道具などにより独特の情景を醸し出してきた。また、都市と街

との関係を築いてきた。「独特な街並み」…増改築を繰り返された建物の連続が独特の街並みを形成し時間の変化とともに街並みを変えてきた。「狭小な内部空間」…3坪から4.5坪ほどの建物が密集する街。肩を寄せ合う狭小な空間が人と人との関係性をつくりだし、この街の文化をつなぎとめてきた。

3. 計画敷地
3.1 新宿ゴールデン街
闇市の名残が残る街並みと独特の空間は日本にとって非常に重要な財産だと考えられる。

3.2 蟹川
蟹川は高度経済成長期に暗渠化され

た川であり、かつて、本計画地の北側に本流、西側に支流が流れていた。

4. 基本計画
今後の発展と従来の地域性の継承
4.1.1 更新を可能にする街の骨格
暗渠化された蟹川の利水を利用した都市インフラを構築、防災的に強くしこの街を守り続ける。

4.1.2 離散による更新の余地
密集した建物を離散することで更新の余地を創出し、更新の余地を生み出していく。また、余白部で人々の営みが複雑に絡み合い、街は更新され続けていく。

4.2 新宿ゴールデン街らしさを継承
失いつつある街の個性「通り道」、「独特の街並み」、「狭小な内部空間」

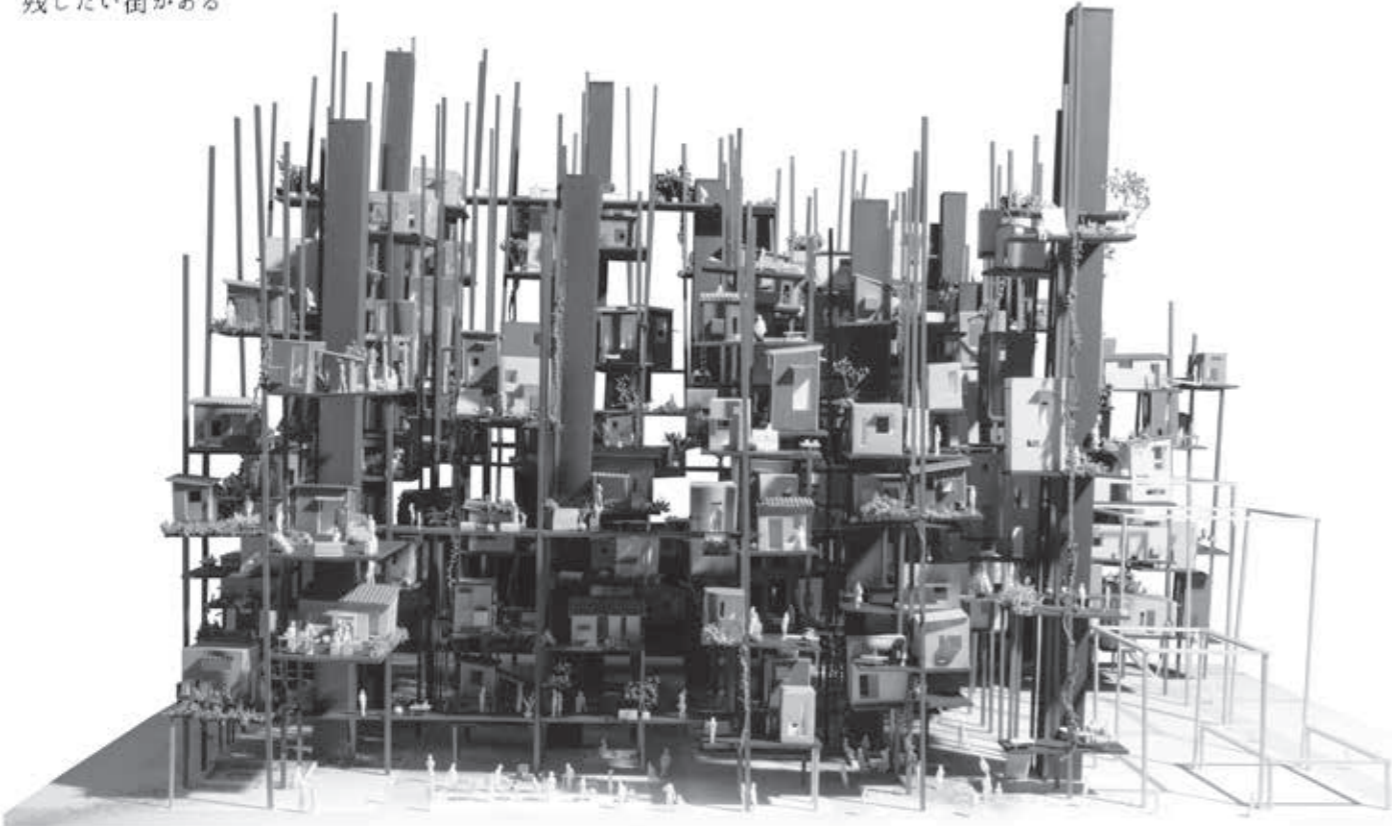
を継承し設計を行う。
5. 建築計画
離散した建物の距離感の中で、人々が互いに影響し合う建築

(1)独立した建物の連続が一つの複雑な街になり、人々の営みや暮らしが場所ごとに異なった空間を生み出していく。
(2)過去と未来とが混在する路地は過去の路地の痕跡を残し、新たな人々の活動が集積した路地となる。
(3)住居や店舗がさまざまな距離感の中で独立した空間を持ちながらも、同時に他と混在しながら存在。
(4)すべての空間は4表層を手に入れたことで、採光・通風を確保する。
(5)住空間に変化の可能性を与える余白

と繰り返される増改築による周辺環境が内部空間での営みを豊かにする。一新たな街の個性をつくりだしながら、この街は時を生き続けるー

6. おわりに
もっと面白い街にしたい。
これまで密集してきた人々や建物を離すことでもっと複雑になったり、複雑な路地が増えたり、溜まり場ができたたり、都市の人々が来るようになったり、さまざまな人々が絡み合うことでこの街は生き続ける。
店に入る勇気。知らない人と飲み交わしたり、英語が飛び交ったり、本当に不思議な街である。
ずっと、新宿ゴールデン街があり続けてほしいと願う。

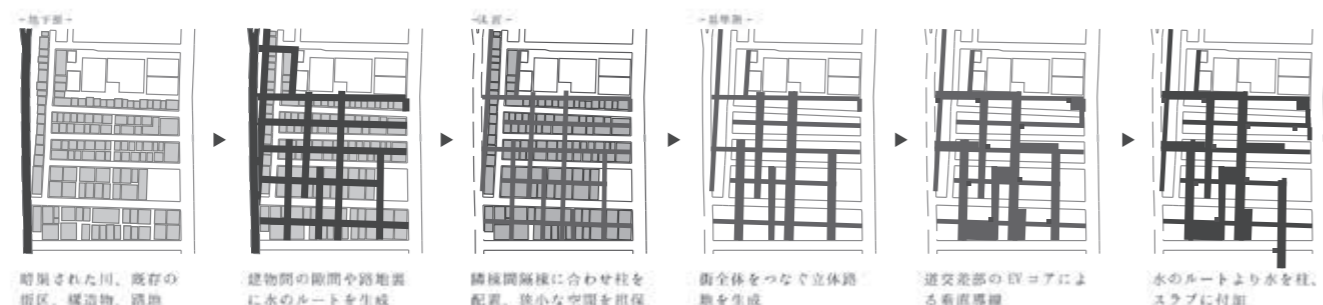
残したい街がある



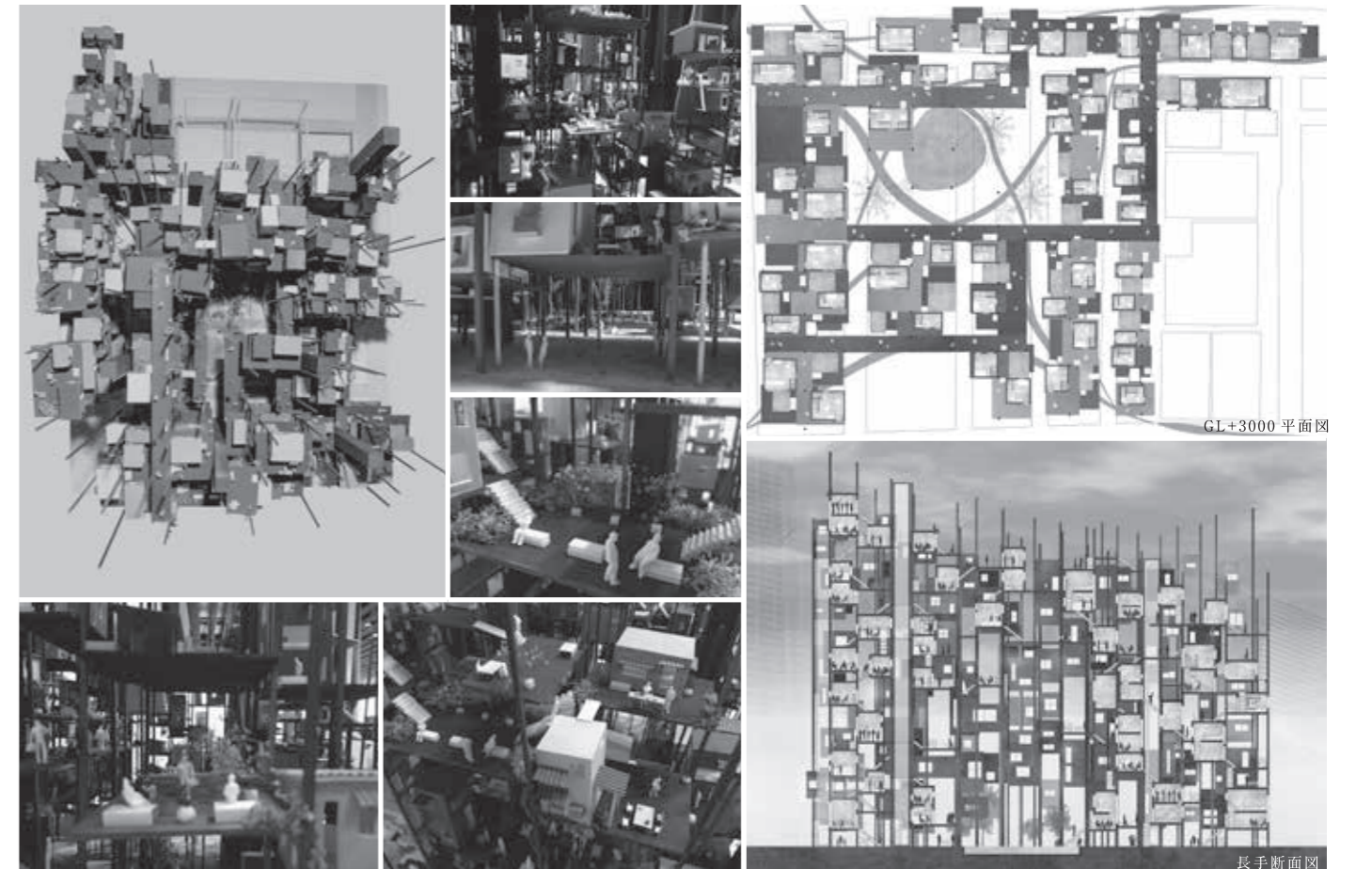
新宿群中街

更新を可能にする街の骨格

防災的に街を強くし、この街を守り続ける
高度経済成長期に暗渠化された蟹川の治水を利用した防災インフラを構築

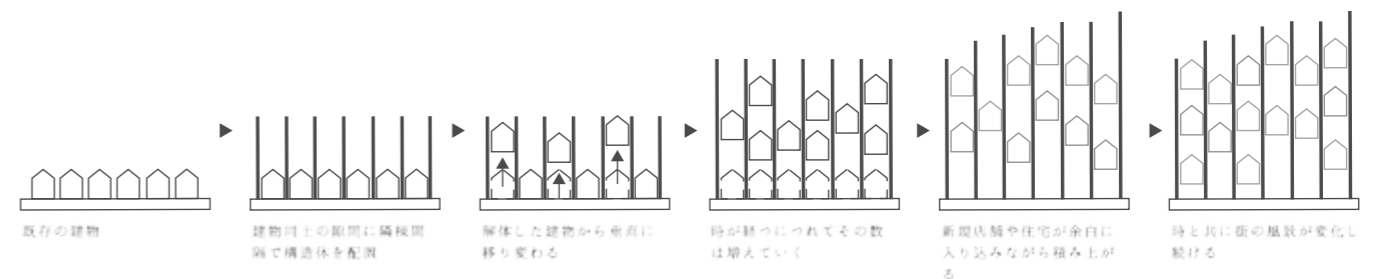


第28回千葉県建築学生賞 奨励賞 / 第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 建築部門賞 / 第38回レモン展 出展



離散による更新の余地

人々の営みや生活が複雑に絡み合い、街は増改築を繰り返して更新する
密集する建物を離散させることで更新の余地を創出し、更新の余地を生み出す



重田秀之

1. はじめに

戦後の東京は急速な経済成長による労働力不足解消を目的として、地方から大量の労働者を受け入れた。その結果人口は爆発的に増加し、都市の郊外化が急速に進行した。急速な開発は都市のスプロール化を引き起こし、その中には多様な文化が生まれた一方で、防災や福祉の観点から多くの問題が発生し、経済が成熟した今日においても抜本的な対策がなされていない。

また、70年代以降のモータリゼーシ

ョンが急速に進行したが、今日では高齢世代の増加により自動車事故が多発し問題となっている。交通安全の観点からもこれらの世代に公共交通機関の利用の促進を図る必要がある。そこで、私は都市的機能を鉄道インフラ上に凝縮する提案を行う。

2. 計画背景

2.1 都市部における人口減少社会の到来

日本は人口減少時代に突入した。今日までは地方において人口減少が進んでおり、都市部においては地方からの人口流入によって人口の増加が進んでいた。しかし首都東京においても人口減少の兆候が表れ始めている地域が出現している。また人口減少と同時に高齢化も進行しており、自動車を運転で

きない高齢者は移動の不自由を余儀なくされている。

2.2 鉄道インフラの衰退

モータリゼーションの進行によって鉄道の利用者が減少傾向にある。しかし鉄道は自動車と異なり、誰でも自由に平等に利用できる公共交通機関であり、高齢社会にとっては必要不可欠な交通インフラである。

2.3 市街地空洞化による買い物難民の増加

市街地の空洞化によって、中心市街地が衰退し、市民が徒歩で買い物できる環境が破壊されたことによって、クルマを持たない人々の購買の自由が失われつつある。

3. 計画敷地

今提案では駅上都市のケーススタ

ディとして東京都足立区の京成関屋駅(京成本線)を対象とした。

3.1 東京で最も早く人口問題に直面した街

京成関屋駅周辺は都区部で最も高齢化が進んでいる地域であり、かつ人口減少がいち早く始まると予測されている地域である。

3.2 東京発の鉄道利用者数の減少

京成本線は他の東京の主要鉄道路線の利用者が増加傾向であるのと異なり、直近20年間の利用者数が減少傾向である。それと並行して、沿線の商店街は活気が失われつつあり、中心部の空洞化が進行している。

3.3 東京一の防災脆弱地区

この地区は荒川と隅田川に囲まれている中洲地帯であり、木密による防火

の危険、液状化の危険、海拔ゼロメートル地帯による水害の危険と災害に対して非常に脆弱な地区である。

4. 基本計画

明治以来に都市の交通の要を担ってきた駅の上に都市を建設し機能を入れていく。まず、駅直上に商業施設を導入することによって、駅周辺に住民の生活の拠点を作り出し、生活と鉄道の関係を密接なものとする。

上層部には公共施設を導入することで、都市内の回遊性を図り、上下とも均一な賑わいを保つ。

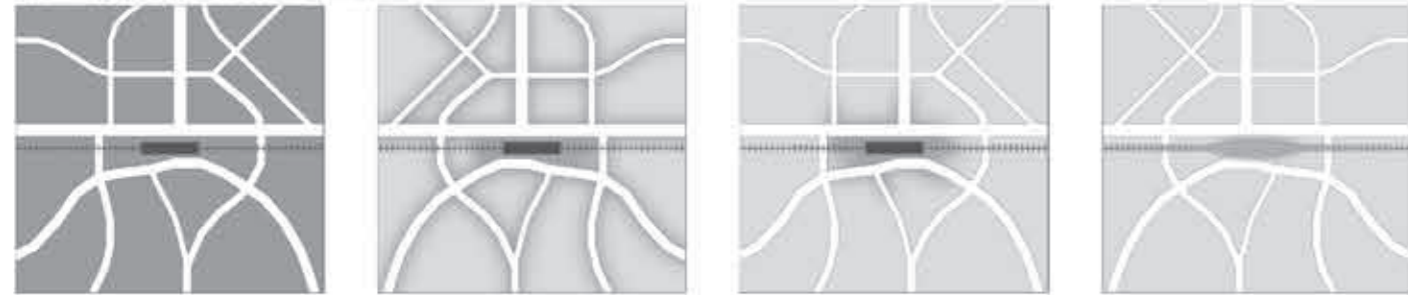
これらの周辺に、住居機能、事務所機能、工場機能を配置することによって、中心部と周辺部の流れを強化し、中心部の求心力を高める。

周辺部は居住人口が増加するに連れて徐々に広がるようになっており、最大時にはドーム型に広がる。一方、人口減少時にはイチョウ型の形にしほみ、人口増減に柔軟に対応する都市を形成する。

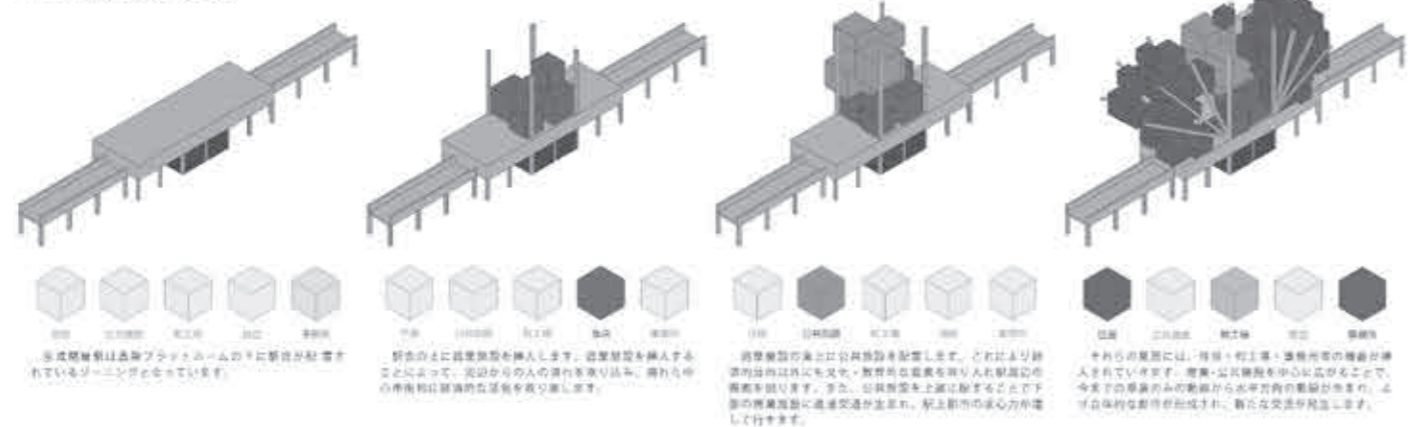
5. 建築計画

現在、高架下に配されている駅舎を囲む4端点から核となる柱を伸ばして、上空の都市を建設し始める。それ以降は、住民の増加とともに、その4点から段階的に柱を展開していき、駅を中心としたドーム状の建築となっていく。上下移動の核となるエレベーターコアはそれぞれ駅ホームに直結しており、クルマの運転ができない世代の人々の移動の自由をダイレクトに確保する。

郊外の鉄道駅を中心とした市街地縮小のモデル



ユニットの構成プログラム



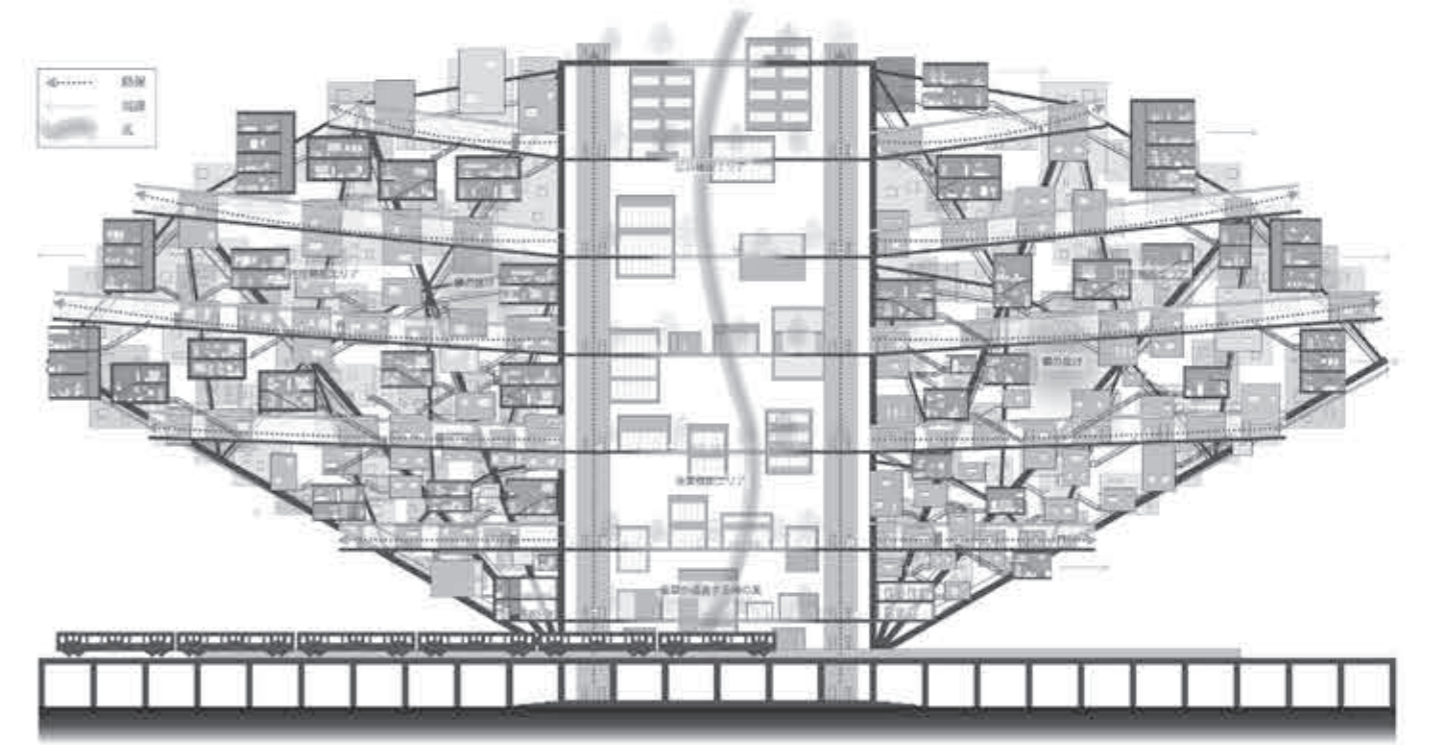
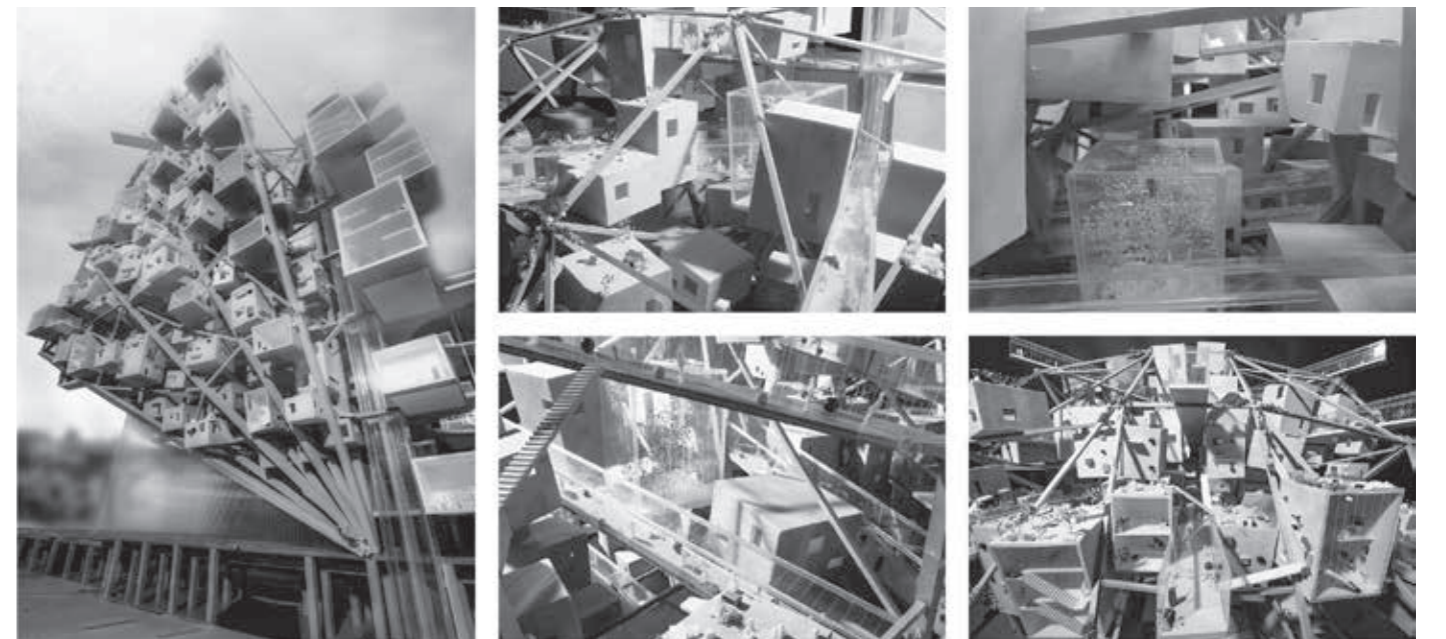
断面計画(線路に対して垂直)



断面計画(線路に対して並行)



第28回千葉県建築学生賞 奨励賞



卒業設計
溪谷ヘトポフィリア
 温泉街再生を目的とした宿泊施設の提案

森 浩平

- はじめに 栃木県日光市鬼怒川温泉
 栃木県日光市鬼怒川温泉ではバブル崩壊による旅行スタイルの変動によって、倒産し管理されなくなり廃墟となっているものが乱立、地形のリスク（大雨、土砂崩れ）ゆえ、建物群は倒壊の危険性がある。本計画では地形が持つリスクとポテンシャルを一体的に捉えることで地域特有の小さいインフラのあり方を計画する。
- 基本計画
 - 駅空間の移設
 計画地北東300mの場所に存在して

いる鬼怒川公園駅を移設をすることによって、温泉街として広くなりすぎたエリアを縮小することで街全体の輪郭を再編集する。

2.2 既存基礎の転用
 目先の利益目的によって増改築を繰り返す既存の建築の崖を深く削り取り、過去にこの場所で激しく行われてきた増改築を記憶として保存する。

2.3 雨を落とし溜める環境装置としての建築
 敷地は山間部と平地に挟まれた土地であるがゆえに、山にぶつかった雨雲が停滞する地形をしている。この特徴と先日の豪雨によるマイナスイメージを払拭するため、建築内に雨水を貯水する機能を顕在化する。

卒業設計
まちなかホスピスのあり方
 地域の特性を活かしたホスピスの提案

浅見 花

- 今の日本ではここ60年の間で亡くなる場所に変化が起きている
 これも時代による変化なのであろうか。今は大半の人が病院で亡くなっている。このことから、家で亡くなるのが多かった昔は、今よりも人々にとって死が身近なものであったのではないかと私は考える。しかし現在は、少子高齢化が進む中、老老介護により家で看られないという家庭も増え、孤独

死も問題となっている。この背景には、見てくれる人がいないという家庭も存在する。今や、孤独死を身近に感じている単身高齢者の割合が45.4%もいる。

2. 全体で4割、20代では7割の人がホスピスを知らない
 ホスピスはまだまだ認知度も低く、ホスピスの理解度やイメージもよくない。しかし、高齢化が進み、老老介護や孤独死を背景に、家で看ることも難しくなる時代になってくる。そこで、必要となるのが『ホスピス』の存在なのではないかと考える。現在ある独立型ホスピスは、郊外に多く、自然豊かな場所にあるものが多い。そこで本設計では、ホスピスを人々にとってより身近で日常的な場所につくり、街中に

ある高齢者なら誰でも来てよい場所として、賑わいのある『まちなかホスピス』を提案する。

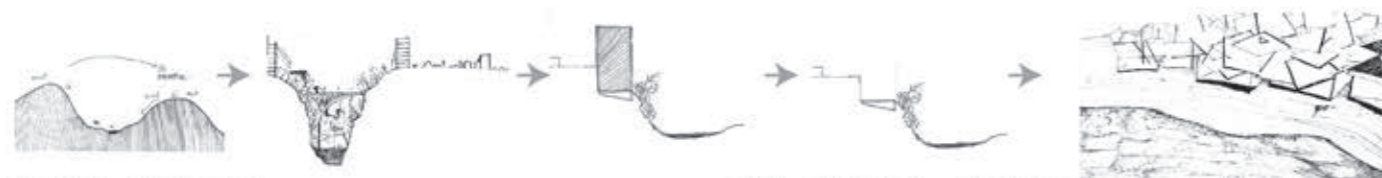
3. 全国で8.4%。高知県で23.6%。埼玉県、福島県で2.1%。
 この数字は、日本のがん患者がホスピスで亡くなった割合（2011年度）である。都道府県別にみると、地域差があることもわかる。日本でホスピスケアを提供する機関は、全国で339施設である。この内、一般病院と併設でない独立型ホスピスは7施設ある。日本にはホスピスの数が少ないため、ケアが受けたくても受けられない人がたくさんいるのが現状である。この結果に基づき、本計画では、関東圏でとくに割合の低い、私の故郷である埼玉県に

的を絞り、地域の特性を活かしたホスピスを提案する。
 『計画敷地（埼玉県川越市）』
 敷地の選定条件を、地域問題を抱えていて、その手助けの操作としてホスピスを活かして地域を活性化できる地域とした。蔵造りの街並みや菓子屋横町、大正ロマン通りなど、主に大正建築のつくりだすレトロな情景が川越市の色をなしている。一方で、観光地化が進む中、地域住民のための施設が少ないことが懸念されている。そして、さまざまなレトロな通りがある中で、衰退の兆しが感じられる通りも存在している。さらに、川越市は、待機児童数が埼玉県内第2位という問題も抱えている。

溪谷ヘトポフィリア



ダイアグラム：駅の移設、既存基礎の転用、それまで作り上げたものを再編集し街に還元する。



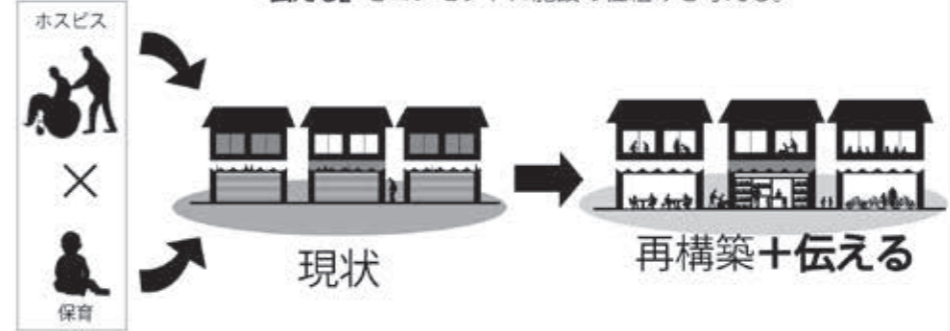
断面計画：48個の屋根
 雨を集め新たな街のエネルギー源として使われていく

溪谷、高低差によって生み出されるシーンの連続が街を印象づけていく。

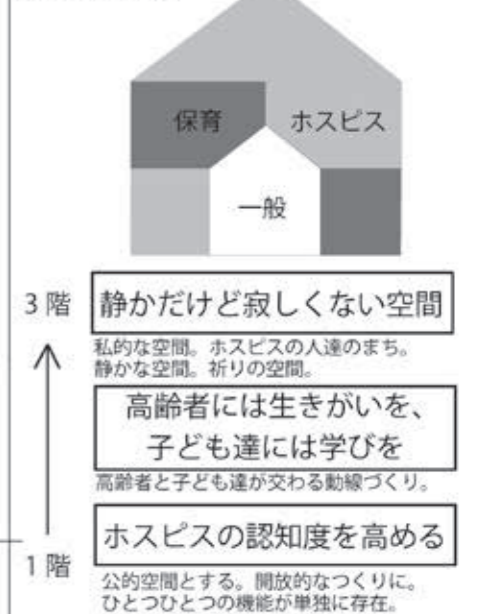


『基本計画』

川越市の衰退している通りを、“地域の特性”と“ホスピス”という機能を利用し、再構築する計画である。さらにここに、“保育”を加え、“ホスピス×保育（昭和×平成）”を混在させ、『伝える』をコンセプトに施設の仕組みを考える。

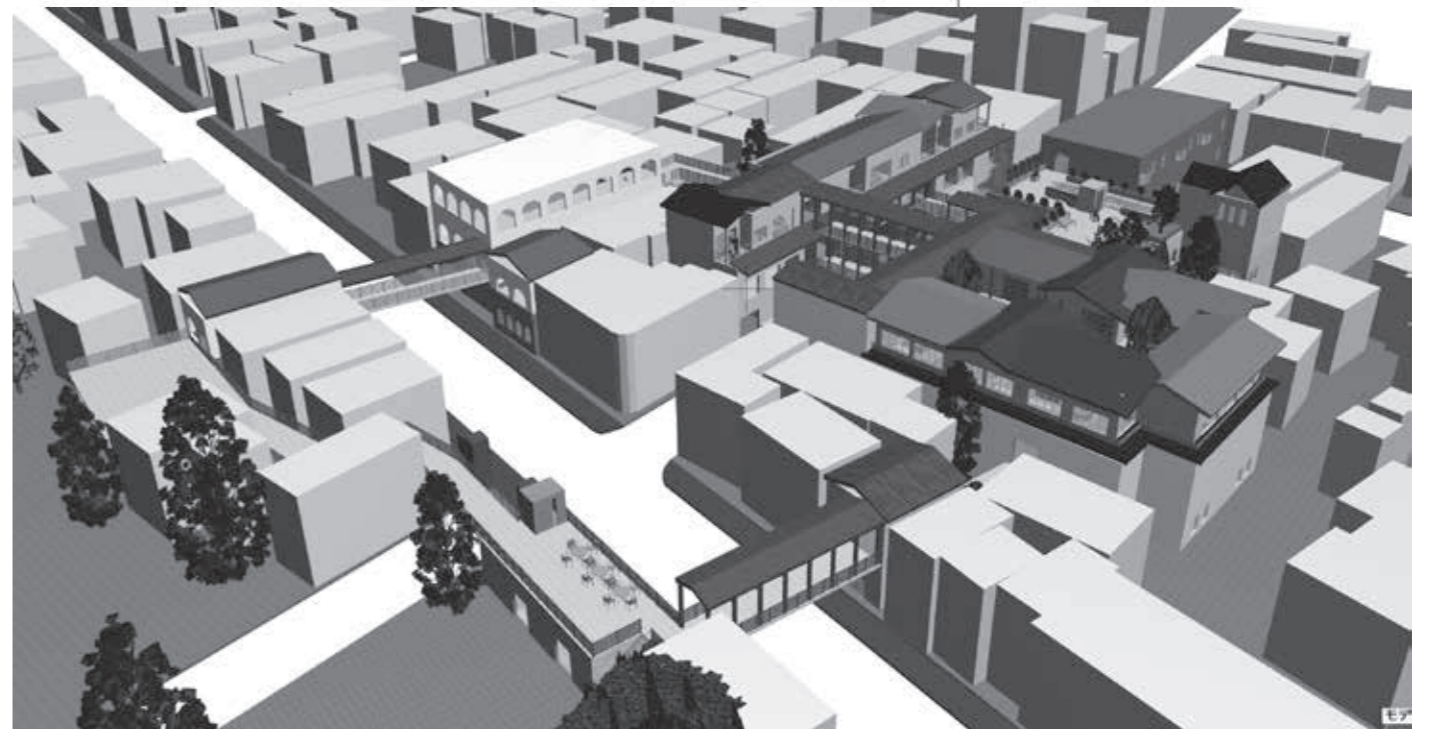


『施設構図』



『建築イメージ』

街に溶け込むよう、規模は大きな施設だが、屋根の色を変えて、たくさんの家が連なるように計画



修士設計
訪日外国人を対象とした
複合医療リゾートの提案
— 浜名湖の水辺環境と先進医療を
組み合わせた施設的设计 —

としている。世界に目を向けると、医療観光先進国といわれるアジア諸国では、低価格・高サービスを売りに医療観光が展開されている。

一方、日本では、平成20年5月23日に内閣府によって創設された先端医療開発特区の設置によって促進されてきた。

しかし、医療観光の世界的な市場が激戦化する中、日本が周辺アジア諸国との医療費の価格競争で優位に立つことは難しいのが現状である。そのため、日本が誇る先進医療を用いた入院治療をその核にすることが目指すべき方向であると考えられる。

つまり、医療観光客を誘致するためには、治療の他に精神的・身体的リフ

レッシュまでをトータルして行えるような一種の保養（リゾート）形態をもつ医療施設が必要である。同時に単なるリゾート化ではなく、他国との差別化を図り日本独自の医療観光リゾートを形成する必要がある。

そこで本提案では、今後も増加の見込まれる訪日外国人の中でも医療観光客をメインターゲットに、「治療」と「保養：リゾート」を統合し、日本独自の空間性を付加させた長期滞在型の新たな医療リゾート施設を提案する。

2. 計画方針

2-1 患者の精神的・身体的ストレス軽減

従来の医療施設から脱却し、リゾート機能を有する施設によって、海外から訪れた患者ができるだけ良好な環境

下で治療に励むことができる。手術日までの待ち時間や、治療後の回復期の過ごし方等は、療法を元にリゾートとして展開することで患者を飽きさせないような病院空間形成を行いながらも、同時に治療を行うことができる。

2-2 先端医療機関関連産業の成長促進

先端医療を主体として患者を呼び込むことで、その関連産業である先端医療機器や薬品関連産業などの国際競争力の強化と需要拡大も期待できる。

2-3 旅の目的地としての施設：日本建築的空間構成と水辺

日本独自の空間構成を持つ医療リゾートを目指すために、日本庭園のような水を基調とした借景を用いることで日本独自の医療観光施設の空間形成を

目指す。

3. 基本計画

施設は計画地の山並みに合わせて全4層、(1)療養部門フロア (2)先端治療部門フロア (3)初期診察・緊急時外来受け入れフロア (4)病棟フロアで構成される。訪れる患者は第3層からアプローチし、医療通訳者とともに診察を受けたのち、各宿泊病棟へ入院する。

4. 建築計画

4-1 療養部門計画

本施設には海洋療法をはじめ、芸術療法やアロマテラピー療法等、数種類の療養方法を取り扱う部門が存在する。それらは保養以外にも精神治療やリハビリテーションの一環として使用される。

4-2 配置計画

配置計画に際し、中央アルプスへの軸線と宇津山と富士山を結ぶ2つの眺望軸線を設定する。2つの軸線と宇津山の傾斜面に合わせコアとなる医療施設のボリュームと宿泊室のボリュームを配置する。さらに2つの軸線によって分けられる4つのエリアを

①水辺や山側との距離感による環境要因。
②敷地の持つレベル差による要因。
③医療部門との距離感による要因。

以上3つの敷地特性を重ね合わせることで具体的な療養空間の配置関係を形成していく。

4-3 平面計画

前述の規模算定と配置計画より、敷

地南側をメインのアクセスとし水辺に近づくにつれ、医療部門から療養部門、そしてリゾート部門へと患者が段階的に治療を行えるような計画とする。病棟空間は施設最上部に設け眺望を確保し、診察スペースなど一定のプライバシー確保が必要な諸室に関しては水盤を用いることで緩やかに内外を繋ぐ計画とした。

4-4 断面計画

快適な病床空間を計画するために大きな吹き抜け空間を用い、水辺までの視線の抜けを確保する。また療養空間は平面的に広がりがながらも、敷地の傾斜に合わせたレベル差を与えることで治療フェーズを段階的に患者に示すことができるよう計画した。

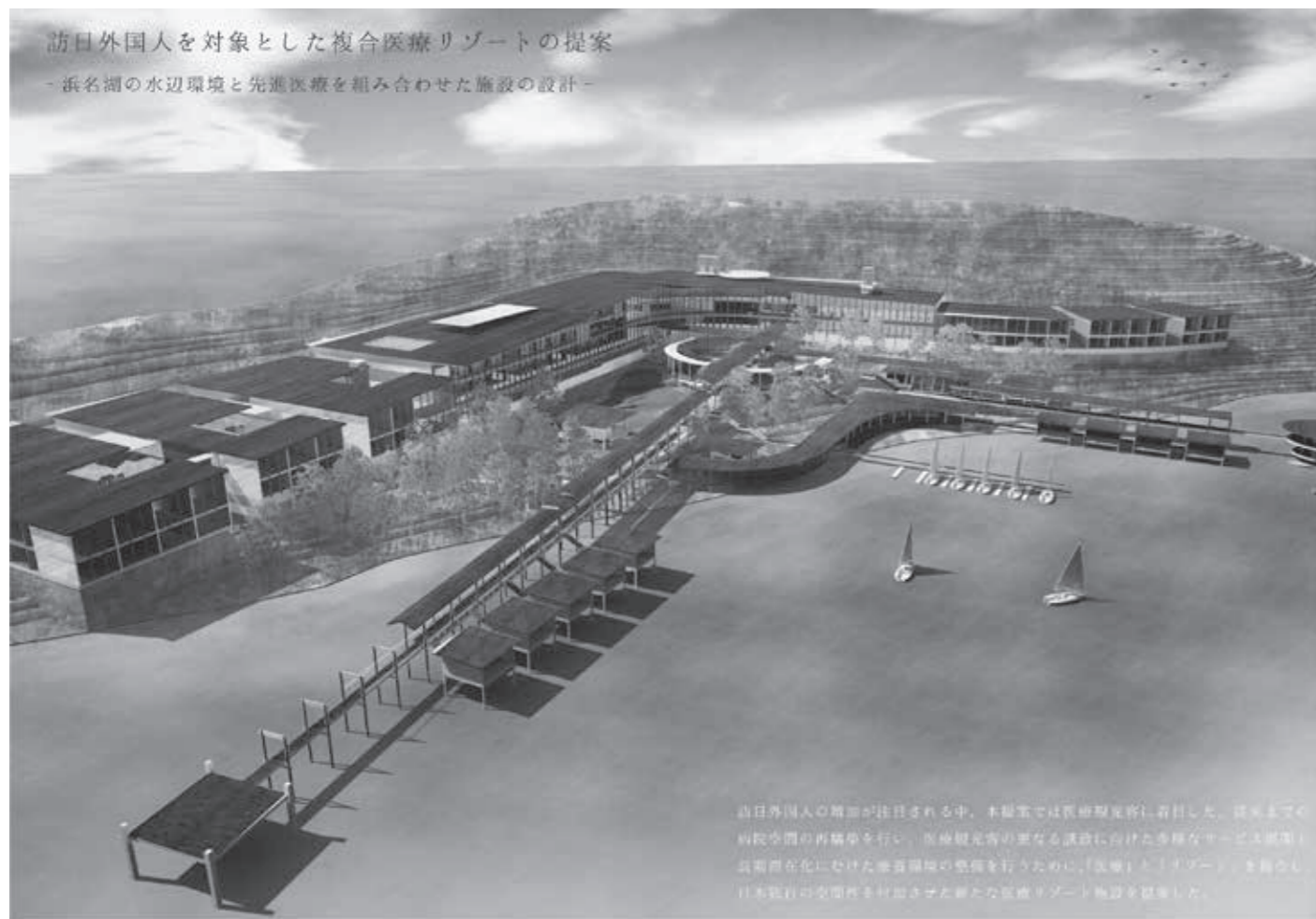
川崎 将

1. はじめに

今、訪日外国人が増えている。政府はさまざまな施策を巡らせているが、中でも医療観光客の誘致に力を注ごう

修士論文審査会 最優秀論文賞(加藤賞)受賞

2016年(第27回)優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞 出品/第14回 JIA 関東甲信越支部 大学院修士設計展 2016 出展



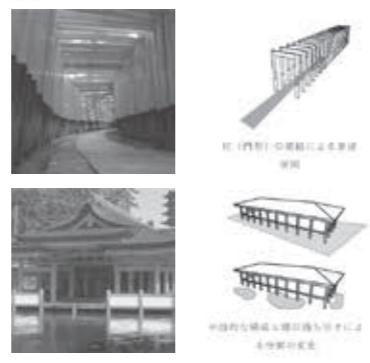
訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案
— 浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設的设计 —

訪日外国人の増加が目覚める中、本提案では医療観光客に目を付けた。従来の病院空間の再構築を行い、医療観光客の更なる誘致に向けた多様なサービス展開(長期滞在に合わせた療養環境の整備を行うために「治療」と「リゾート」を統合し日本独自の空間性を付加させた新たな医療リゾート施設を提案した。

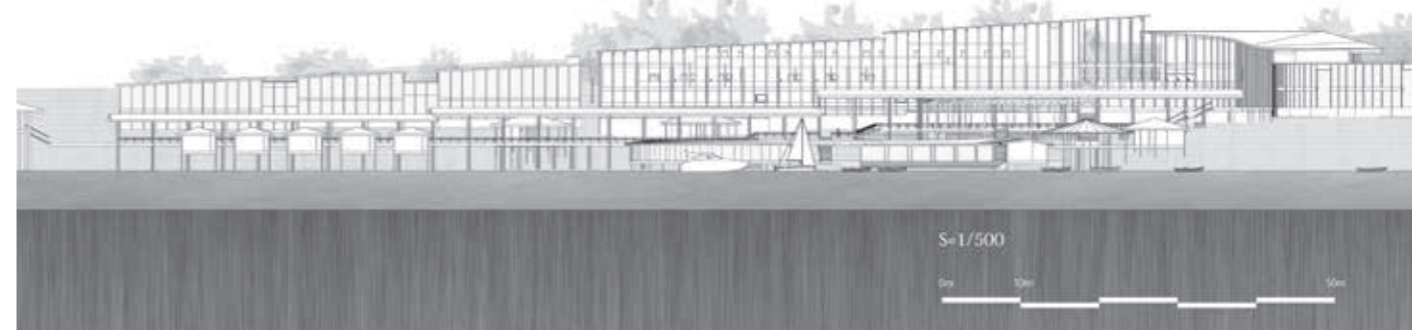
- 先端医療による入院期間の長期化と待ち時間解消のための治療のための病院施設ではなく、長期滞在が可能なリゾートとして複合化する。
- 外国人が求める日本医療観光としての役割 先進医療提供を中心とした医療機能の展開を行う。
- 他の医療観光同との差別化と異なる誘致 医療観光の目的地としての日本独自の空間性を付加させる。



02 訪日外国人を魅了する日本建築や独自の空間



03 周辺環境と調和する療養エリア



修士設計
首都圏における橋の
防災拠点化計画の提案
—東京都品川区京浜運河に架かる
勝島橋をケーススタディとして—

山川大喜

日本は大正12年9月1日に起きた関東大震災や平成7年1月17日に起きた阪神淡路大震災など、昔から幾度となく大地震による被害を受けてきた。そのつど国は防災対策に力を入れ、防災

拠点を増加させたり、基幹的広域防災拠点を設置してきた。その結果、基幹的広域防災拠点、広域防災拠点、防災拠点の各拠点が連携する防災システムが構築された。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、被災区域が東日本全域に及び、これまでの拠点間同士を結ぶような連携では多面的な対応が難しいということがわかった。

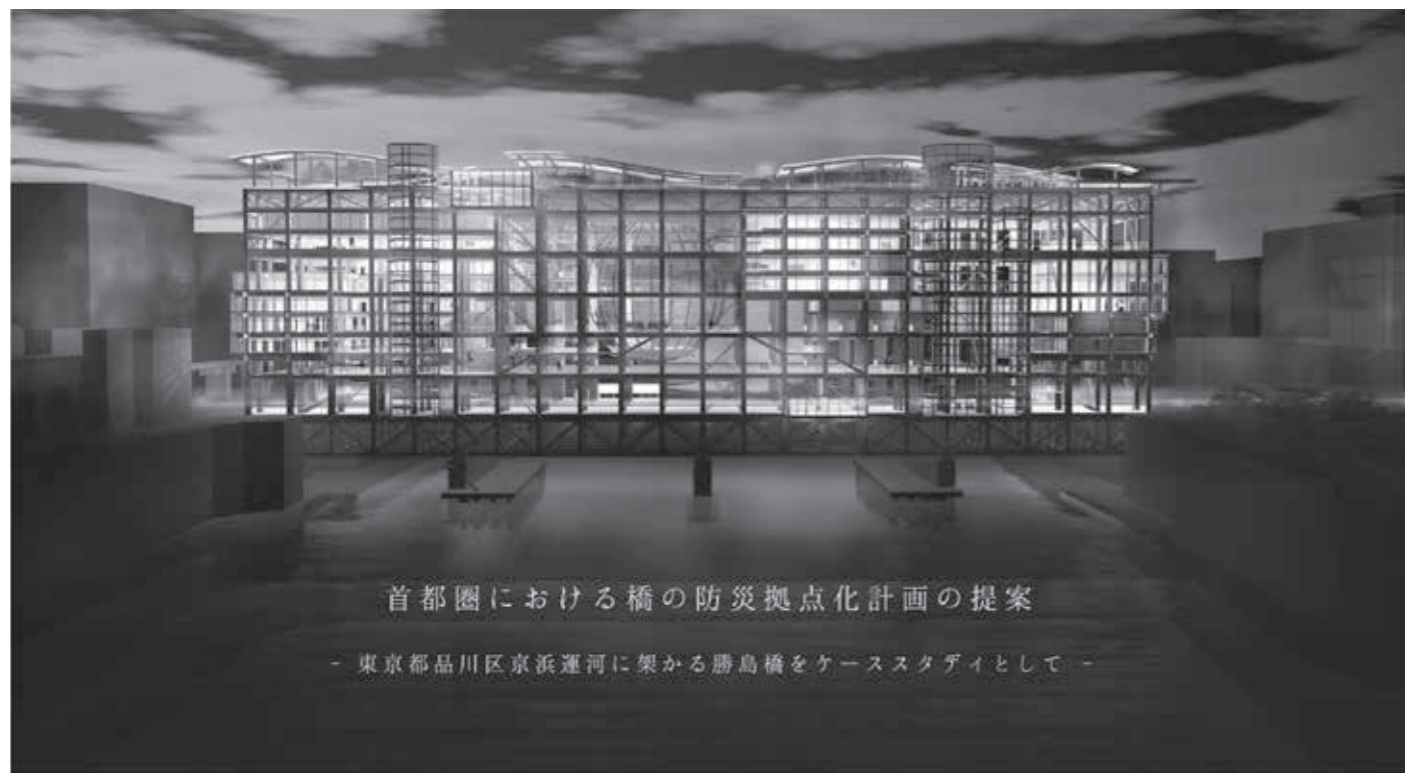
これをうけて、平成26年度版防災白書では、自助・共助・公助のうち公助の限界と共助の必要性がうたわれている。つまり、守ってもらうのではなく、互いに助け合うことのできる防災システムが求められている。今後、東海・東南海・南海による大地震、そして首都圏直下型地震の発生が懸念されているわが国では、各拠点が網のようにつながった防災システムのあり方を検討する必要があると考えられる。

さらに、基幹的広域防災拠点が臨海部に位置するため、各地域をつなぐ「橋」は拠点間の連携を保つ上で重要である。しかし、多くの橋は東京オリンピックと高度経済成長期に合わせて1960～70年代に一斉に架けられた。そのため、架設から50年が経過し、老朽化が懸念されている。関東大震災以降では、地震の揺れで老朽化した15橋の橋が落橋し、東日本大震災では緊急輸送道路である茨城県東部「鹿行大橋」が落橋するなど、橋の老朽化は昔も今も問題視されている。わが国の経済を

支える三大都市圏のうち、臨海部に基幹的広域防災拠点が位置する首都圏では、橋の落橋により拠点間の連携が崩壊する可能性を抱えているのが現状である。

そこで本論では、首都圏の橋に着目し、連携網を守る要として防災拠点化を行う。これからの防災システムのあり方として各拠点をつなぐ施設の増加と各拠点間の連携網の強化が重要であると考えられるためである。計画地は、首都高速湾岸線と国道357（通称：湾岸道路）から大井地区へとつながる道であり、京浜運河に架かる橋である勝島橋をケーススタディとして選定し、互いに助け合うための防災拠点の設計を行う。

修士論文審査会 最優秀論文賞（加藤賞）受賞
2016年（第27回）優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞 出品 / 第39回レモン展 出展

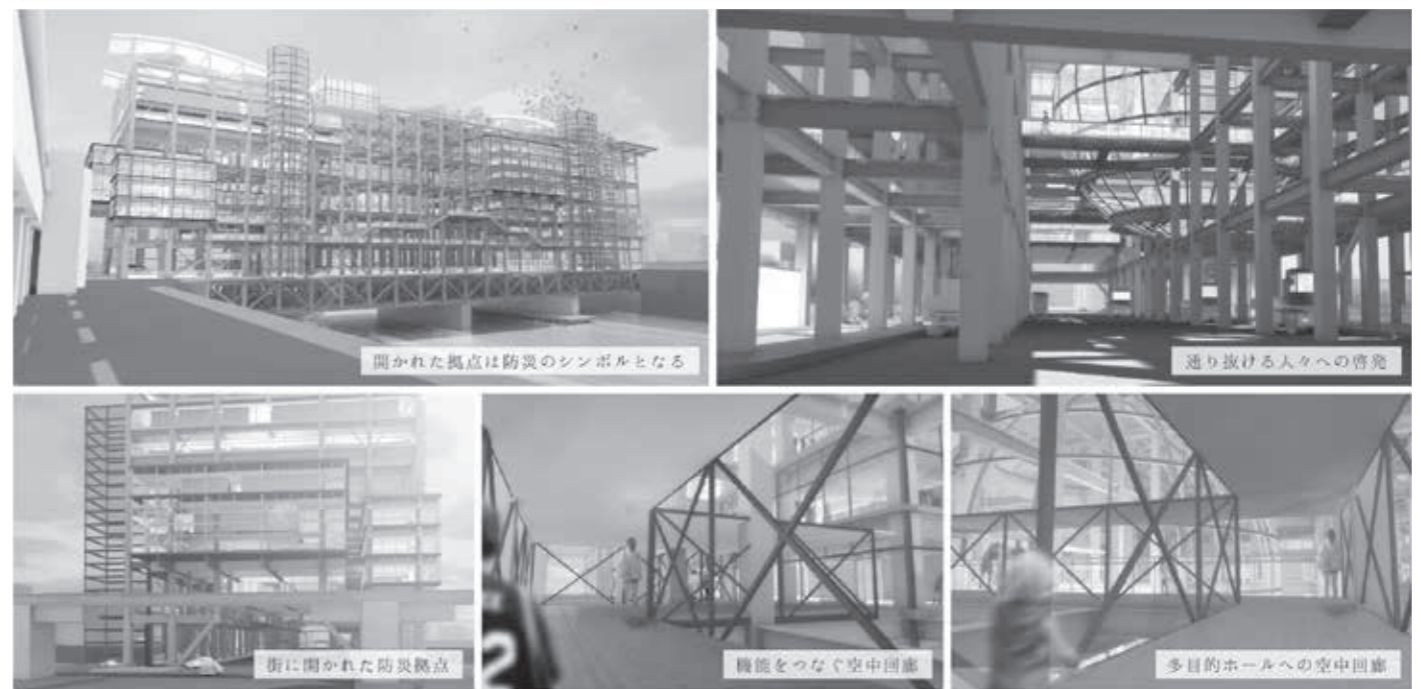
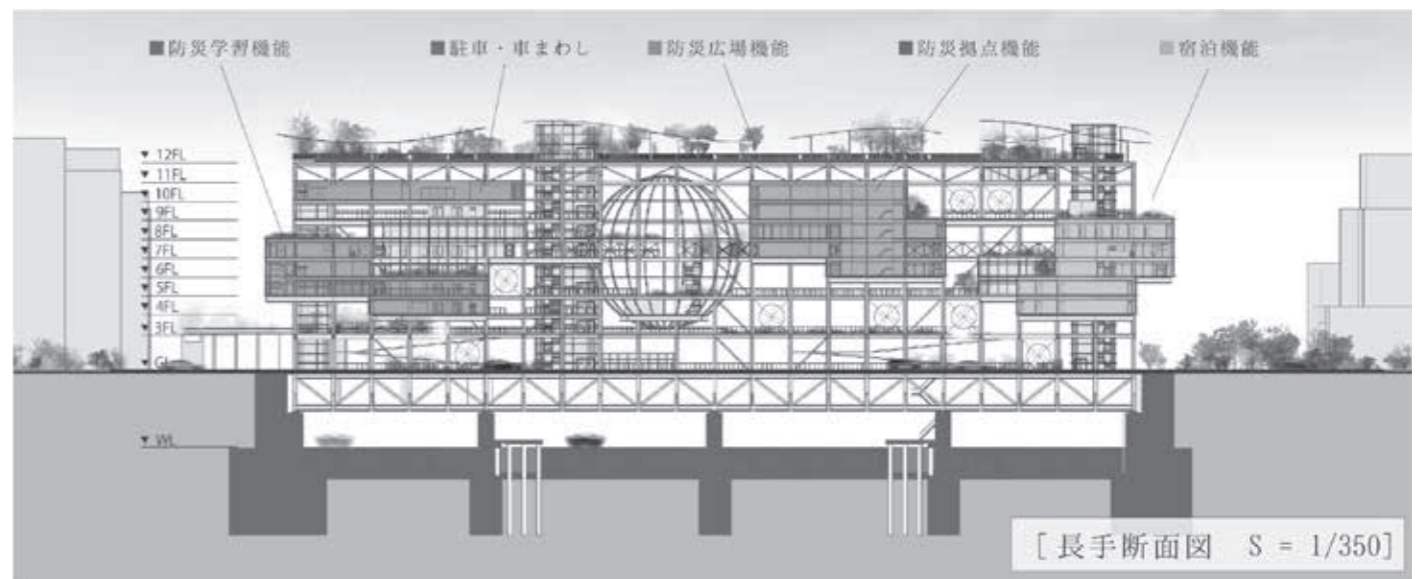
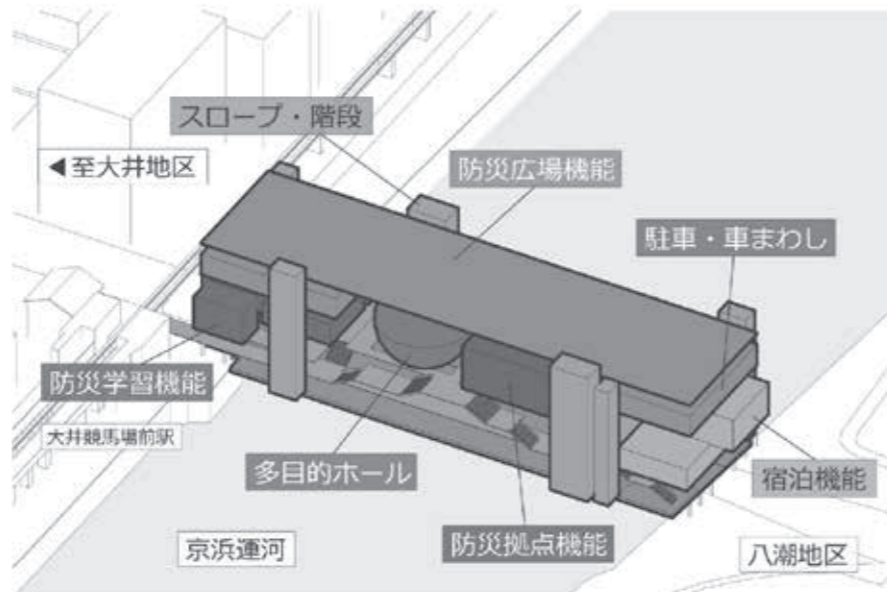


建築計画

配置計画

全長約150mの橋全体を防災拠点として計画を行う。

- 【防災拠点機能】震災時に本施設の核となる防災拠点機能は、西地区との接続を考慮、橋の中心に配置する。
- 【防災学習機能】平常時に市民利用の中心となり、防災意識啓発の要となる防災学習機能は、大井競馬場前駅、大井地区との接続を考慮、西側に配置する。
- 【多目的ホール】防災拠点機能、防災学習機能との接続を考慮、両機能の間に配置する。
- 【宿泊機能】災害対策本部が宿泊を行う宿泊機能は、震災時に広域避難場所としてのスペースを多く確保できる八潮地区側（東側）に配置する。
- 【スロープ・階段】浸水レベルまでの駆け上がり対策と、各機能へのアクセスとしてスロープと階段でつなぐ。
- 【防災広場機能】平常時は訓練やイベント利用の場となり、震災時は救援・救護・避難を行う防災広場は、インフラとしての利用を考慮、橋の全体に配置する。
- 【駐車・車まわし】緊急時は18層に車寄せを配置し、平常時の駐車機能は広場と各機能の間に配置する。



市民が少しでも防災の意識を持つこと。

そこから互いに助け合う事の出来る防災システムへとつながるのではないのでしょうか？

■コンペ受賞歴一覧

日本一 29作品 (卒業設計 19作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 9作品)

日本二 21作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 4作品、その他のコンペ 15作品)

日本三 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 309作品

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／石渡孝夫(建築学科海洋コース) 日本一		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／富田善弘(建築学科海洋コース) 日本一		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／小林直明(建築学科海洋コース) 日本一		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／吉本宏 日本一 ・同入選／松木康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／稲村健一 日本一	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選／鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／遠藤卓郎 日本一 ○財日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞／川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作／稲村健一 ・支部入選／大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等／遠藤卓郎、岩崎博一 日本三 ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞／中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作／秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作／川口利之、菅沼徹、筒井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作／稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等／藤沢伸佳、柳泰彦、林和樹 日本三	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等／秋江康弘 日本二
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等／小林達也、佐藤信治、小川克巳 日本三 ・支部入選／渋谷文幸 ・支部入選／林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜母校友クラブ」 ・1等／山崎淳一、松尾茂 ・佳作／小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作／小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選／松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選／小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選／小林達也
63	●千葉県建築三学生会賞 ・銅賞／近藤陽次 地域三 ・奨励賞／毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等／新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 日本一 ・全国入選佳作／園部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選／松尾茂、山本和清 ・支部入選／岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作／山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作／川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等／山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等／加藤麻生 ・3等／飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作／小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作／長谷川晃三郎、佐久間明
平成1年	●第22回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／長谷川晃三郎 日本一 ・入選／佐久間明 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／佐久間明 地域三 ・奨励賞／長谷川晃三郎	●「ふるさとの芸能空間」 ・全国入選2等／新岡英一、長谷川晃三郎、佐久間明、岡里潤 日本二 ・全国入選3等／丹羽雄一(建築)、益田勝郎 日本三	●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」 ・1等／矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏祐 日本一 ●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ ・選外入選／長谷川晃三郎 ●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」 ・入選／山本和清

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成2年	●第23回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／山口哲也 ●千葉県建築四学生会賞 ・金賞／矢野一志 地域三 ・銅賞／山口哲也 地域三	●「交流の場としてのわが駅わが駅前」 ・全国入選2等／植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) 日本二 ・全国入選3等／飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 日本三	●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」 ・3等／川久保智康、野沢良太 日本三 ●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」 ・佳作／矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光 ●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技) ・優秀賞／佐久間明 日本二 ・佳作／益田勝郎 ●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」 ・2等／岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光 ・佳作／植竹和弘、白石充、根岸延行(建築) ・佳作／山口哲也、佐藤教明 ・佳作／広部剛司、佐藤岳志、菅浩康 ●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」 ・佳作／武田和之、岡里潤
3	●第24回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／高橋武志 日本一 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／高橋武志 地域三 ・奨励賞／廣川雅樹	●「都市の森」 ・1部全国入選2等／山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 日本二 ・2部全国入選最優秀／片桐岳志 ・2部支部入選／布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹	●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」 ・1等／佐藤教明、山口哲也、木口英俊 日本一 ・佳作／川久保智康、野沢良太 ●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」 ・最優秀賞／河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 日本一 ●第2回長谷エイメージデザインコンペ「現代の夢殿」 ・入選／川添隆史、渡辺千香子 ●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」 ・入選／川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築) ●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をはらむ都市装置」 ・3等／降旗恭子、黒田佳代 日本三 ・入選／木口英俊 ●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」 ・奨励賞／川添隆史 ●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／木口英俊、渡辺昇 ●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」 ・佳作／佐藤教明
4	●第25回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／片桐岳志 日本一 ・入選／寶田陵 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／片桐岳志 地域三 ・銅賞／寶田陵 地域三 ●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」第10回記念『1993卒業設計制作大賞』 ・金賞／寶田陵 日本一 ・銅賞／片桐岳志 日本三	●「わが町のタウンカレッジをつくる」 ・1部全国入選3等／佐藤教明、木口英俊 日本三 ・1部全国入選佳作／廣川雅樹、寶田陵 ・1部支部入選／山口哲也、河本憲一 ・1部支部入選／木口英俊、高橋武志 ・2部支部入選／関谷和則、石渡義隆 ・2部支部入選／平崎彰、望月喜之	●盛岡・水辺のデザイン大賞 ・専門部門佳作／佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢 ●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ ・佳作／川久保智康、野沢良太、永島元秀 ●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」 ・2等／片桐岳志 日本二 ・佳作／高橋武志、関戸浩二 ●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」 ・2等／片桐岳志、岡田和紀 ●アーキテクチャ・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」 ・佳作／吉田幸正 ●川鉄デザインコンペ'92 ・佳作／三輪政幸 ●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／佐藤教明 ●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」 ・佳作／野沢良太 ●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」 ・佳作／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」 ・奨励賞／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ・奨励賞／石井昭博、寶田陵、西上順久 ●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」 ・3等／山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 日本三 ・3等／高橋武志、石井昭博 日本三 ●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」 ・佳作／川久保智康、高山一頼 ●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」 ・佳作／山口哲也、木口英俊
5	●第26回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・洋々賞／吉田幸正 日本二 ・入選／関谷和則 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／関谷和則 地域三 ・銀賞／吉田幸正 地域三	●「川のある風景」 ・1部全国入選佳作／片桐岳志、小野和幸 ・1部支部入選／石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永 ・2部全国入選佳作／橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道 ・2部全国入選佳作／関谷和則、三輪政幸	●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」 ・佳作／片桐岳志 ●第4回長谷エイメージデザインコンペ「現代のさや堂」 ・入選／片桐岳志 ●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」 ・銀賞／田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 日本二 ・佳作／岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀 ●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」 ・優秀賞／小野和幸 日本二 ●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ●第27回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/清水信友 ・入選/戸國義直 ●千葉県建築三会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金賞/清水信友 【地域2】 	<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀の集住体」 <ul style="list-style-type: none"> ・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築) 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 【日本1】 ・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行 ・特別賞/井上真樹、馬淵晃 ●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄 ●川鉄デザインコンペ'94 <ul style="list-style-type: none"> ・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 【日本1】 ●小山市城東地区街角広場デザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友 ●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/小野和幸 ●第1回ARCASIA学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) 【日本2】
7	<ul style="list-style-type: none"> ●第28回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/田村裕彦 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・銅賞/浦野雄一 【地域3】 ・奨励賞/田中厚三 	<ul style="list-style-type: none"> ●「テンポラリー・ハウジング」 <ul style="list-style-type: none"> ・1部支部入選/清水信友 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞/井上真樹、馬淵晃 【日本2】 ●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/田中厚三 ●第5回BUFF国際建築デザインコンペ「東京水空間」 <ul style="list-style-type: none"> ・選外優秀作品賞/広瀬倫恒 ●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/梶原崇宏、村松保洋 ●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/馬淵晃 ●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示/下平将也 ・作品展示/川崎拓二
8	<ul style="list-style-type: none"> ●第29回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/富永恒太 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞/中村武晃 【地域2】 ・奨励賞/小川太士 		<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 <ul style="list-style-type: none"> ・選外優秀作品賞/小山貴雄 ●第10回千葉県街並み景観賞 <ul style="list-style-type: none"> ・準特選/鳥居延行 【地域2】 ●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵 ●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/田中厚三 ●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/小山貴雄 ●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> ・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築) ●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/馬淵晃 ●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 <ul style="list-style-type: none"> ・1等/田中厚三 【日本1】 ●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/馬淵晃
9	<ul style="list-style-type: none"> ●第30回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/市原裕之 ・入選/針生康 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/市原裕之 ・奨励賞/針生康 	<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀の学校」 <ul style="list-style-type: none"> ・1部全国入選2等/村松保洋、渡辺泰夫 【日本2】 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/富永恒太 【日本2】 ●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示/宮下新 ・作品展示/佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子 ●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム <ul style="list-style-type: none"> ・審査員特別賞/長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦 ●運輸省「みんなでつくりよう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 <ul style="list-style-type: none"> ・学校部門 フロンティア賞/鳥居延行、若山喜信、金田岩光 ●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/石川阿弥子、大野貴司、楠川嘉子、山田博栄 ●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/富永恒太 ●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚
10	<ul style="list-style-type: none"> ●第31回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/大野貴司 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金賞/大野貴司 【地域2】 		<ul style="list-style-type: none"> ●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/田中克典 【日本1】 ・優秀賞/長井厚 【日本2】 ●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/市原裕之 ●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 <ul style="list-style-type: none"> ・会員企業賞/伊藤昌明
11	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞/寺田健 【地域2】 ・特別賞/江橋亜希子 		<ul style="list-style-type: none"> ●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/塙貴宏 【日本2】

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> ●第33回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/渡邊昌也 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/原香菜子 ・奨励賞/渡邊昌也 	<ul style="list-style-type: none"> ●「新世紀の田園居住」 <ul style="list-style-type: none"> ・タジマ奨励賞/青山純、岡田俊博、岡部敬明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司 	
13	<ul style="list-style-type: none"> ●第34回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・建築部門賞/秦野浩司 【日本1】 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/秦野浩司 ・奨励賞/木村輝之 	<ul style="list-style-type: none"> ●「子どもの居場所」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/齋藤洋平、木村輝之 	<ul style="list-style-type: none"> ●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/山端俊也 【日本2】 ・佳作/大工原洋充、舟岡徳朗 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/羽根田治
14	<ul style="list-style-type: none"> ●第35回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/丸山貴広 ・入選/山下忠相 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/栗田耕史 ・奨励賞/長坂悠司 		<ul style="list-style-type: none"> ●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正 <ul style="list-style-type: none"> ・審査員長特別賞/鷺洲正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介 ●福山大学建築会デザインコンペティション2002 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/清水大地 ●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/丸山貴広
15	<ul style="list-style-type: none"> ●第36回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/川崎未来生 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/川崎未来生 ・奨励賞/白砂孝洋 		<ul style="list-style-type: none"> ●新建築住宅設計競技2003 <ul style="list-style-type: none"> ・2等/川崎未来生 【日本2】 ●福山大学建築会デザインコンペティション2003 <ul style="list-style-type: none"> ・金賞/片桐雄歩 【日本1】 ・入選/白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/中村智裕
16	<ul style="list-style-type: none"> ●第37回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/永嶋順一 ・入選/佐藤俊介 ●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/稲垣直秀 ・奨励賞/勝又洋 	<ul style="list-style-type: none"> ●「建築の転生・都市の転生」 <ul style="list-style-type: none"> ・全国入選佳作/丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎 ・東海支部入選/土井涼恵、内田真紀子 	<ul style="list-style-type: none"> ●福山大学建築会デザインコンペティション2004 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/土井涼恵 ・入賞/勝又洋 ・入賞/奥田祥吾 ・佳作/三村舞、勝岡田洋子、望月菜生 ・佳作/渡辺秀哉 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/賀山雄一
17	<ul style="list-style-type: none"> ●第38回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/鈴木啓史 ・入選/渡辺秀哉 ●第18回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/渡辺秀哉 【地域2】 ・奨励賞/鈴木啓史 ○第4回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/京野宏亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 	<ul style="list-style-type: none"> ●9坪ハウスコンペ2005 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/金子太亮 ●TEPCOインターカレッジデザイン選手権 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 【日本2】 ●福山大学建築会デザインコンペティション2005 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/桔川卓也 ・佳作/河原一也、信戸佑里 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/五十嵐大輔
18	<ul style="list-style-type: none"> ●第39回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/桔川卓也 ●卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・日本三/桔川卓也 【日本3】 ●卒業設計裏日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・裏日本一/桔川卓也 【日本1】 ●第19回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/河原一也 ●奨励賞/丹沢裕太 ●第30回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・レモン賞/桔川卓也 ○第5回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/勝又洋 ・出展/金子太亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 ・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 ●「美しいまちをつくる むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/渡辺秀哉 ・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 	<ul style="list-style-type: none"> ●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/勝又洋 ●TEPCOインターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀作/勝又洋 【日本1】 ●栃ナムラコンチネンタルホーム事業本部・栃日本住研 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/勝又洋、金子太亮 【日本2】 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/島田がおり
19	<ul style="list-style-type: none"> ●第40回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/赤澤知也 ・入選/丸山大史 ●第20回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/小松崎博敏 【地域2】 ・奨励賞/西村秀勇 ○第6回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/三村舞 		
20	<ul style="list-style-type: none"> ●第41回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・建築部門賞/椎橋亮 【日本1】 ●第21回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞/上條経伍 ・奨励賞/高季仁 ●第32回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/椎橋亮 		<ul style="list-style-type: none"> ●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/大西慧

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成20年	●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 ・ 出展/椎川恵太 ○第7回 JIA 大学院修士設計展 ・ 出展/五十嵐大輔		
21	●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/細矢祥太 日本一 ・ 出展/下泉宏記 ●卒業設計日本一決定戦 ・ 100選/鴨志田航 ●第22回千葉県建築学生賞 ・ 市民賞/永田陽子 地域二 ・ 奨励賞/永田陽子 ・ 奨励賞/鴨志田航 ●第33回学生設計優秀作品展 ・ 出展/鴨志田航 ●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 ・ 出展/細矢祥太 ●全国合同卒業設計展「卒、10」 ・ 7 選入選/大西慧 ○第8回 JIA 大学院修士設計展 ・ 出展/小松崎博敏	●「アーバンフィジックスの構想」 ・ 関東支部入選/鴨志田航、本多美月 ●「美しくまちをつくる むらをつくる」 ・ 最優秀賞/朽木健二 地域二	●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 ・ 東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹 ・ 佳作/細矢祥太、益山未樹 ・ 佳作/椎橋亮 ●第7回「真の日本のすまい」 ・ 日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 日本一 ●(社)東京建築士会「住宅課題賞」 ・ 入選/増田佳菜子
22	●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 日本一 ・ 入賞/松井創斗 ●第23回千葉県建築学生賞 ●優秀賞/杉田陽平 地域二 ●特別賞/松井創斗 ●JIA 東海学生卒業設計コンクール2011 ・ 佳作/杉田陽平 ●赤レンガ卒業設計展2011 ・ 一般賞 8 位/杉山洋太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2011 ・ 出展/松井創斗 ●第34回学生設計優秀作品展 ・ 出展/古明地雲母 ●全国大学・高専卒業設計展示会 ・ 出展/杉山洋太	●大きな自然に呼応する建築 ・ 関東支部入選/大西慧、菅原遼	●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 ・ アーキテキタ賞/小川雅人 ●第6回「新・木造の家」設計コンペ ・ 優秀賞/嶋真史 ●第2回文化遺産防災アイデアコンペ ・ 佳作/爲季仁、平山雄基 ●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/増田佳菜子、小山勇氣 ●建築新人戦 ・ 100選/小山勇氣 ●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 ・ 入選/永田陽子、椎橋亮 ●ハンスグローエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 ・ 佳作/椎橋亮、永田陽子
23	●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/石原幹太 日本一 ・ 入賞/渡部亘 ●第24回千葉県建築学生賞 ・ 優秀賞/石原幹太 地域二 ・ 市民賞/石原幹太 地域二 ・ 奨励賞/渡部亘 ●赤レンガ卒業設計展2012 ・ 特別賞/石原幹太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2012 ・ 出展/渡部亘 ●第35回学生設計優秀作品展 ・ 出展/井上彩花 ●卒業設計日本一決定戦2012 ・ 20選/菅原雅之 ・ 100選/渡部亘 ●全国合同卒業設計展「卒、12」 ・ 7 選/菅原雅之 ●DIPLOMA 2012 ・ 学科代表掲載作品/菅原雅之 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・ 部門優秀賞/菅原雅之 ・ 部門優秀賞/石原幹太 ●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS ・ 優秀研究賞/菅原雅之 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 ・ 都築馨一賞/菅原雅之 日本一 ●全国大学・高専卒業設計展示会 ・ 出展/渡部亘		●第17回北陸の家づくり設計コンペ ・ 北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘 ●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/渡部亘 ・ 佳作/浦井匠、海藤航、斉藤亮介 ●キルコス国際コンペティション ・ 満田衛賞佳作/浦井匠、福田雄太
24	●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 入賞/浦井匠 ●第25回千葉県建築学生賞 ・ 特別賞/浦井匠 ・ 奨励賞/海藤航		●第10回 R&R 設計アイデアコンテスト ・ 入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将 ●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト ・ 審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之 ●建築新人戦 ・ 100選/山川大喜

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年	●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 ・ 佳作/浦井匠 日本二		●第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション ・ 妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗 ●ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2 ・ 優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普 ●第4回文化遺産防災アイデアコンペティション ・ 佳作/榎本翔太、浦井匠、杉田陽平 ●歴史的空間再編コンペティション2012 ・ 入選/杉田陽平、浦井匠、川崎将、徳永尚亮 ●平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、浦井匠 地域二 ・ 企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二 ●キルコス国際設計コンペティション2012 ・ 永山祐子賞佳作/浦井匠
25	●第26回千葉県建築学生賞 ・ 奨励賞/山川大喜 ・ 奨励賞/川崎将		●歴史的空間再編コンペティション2013 ・ 入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴 ●建築新人戦 ・ 100選/出山亮 ●平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃泉、阿部紘樹 地域二 ・ 企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼 ●キルコス国際設計コンペティション2013 ・ 遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真 ・ 古谷誠章賞佳作/菅原雅之
26	●第47回毎日・DAS デザイン賞 ・ 入賞/滝村菜香 ・ 入賞/出山亮 ・ 入賞/藤本幸汰 ●第27回千葉県建築学生賞 ・ 特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時 ・ 奨励賞・市民賞 2 位/志萱侑太 ●全国合同卒業設計展「卒、15」 ・ 審査委員賞(藤村麗至賞)/山影悠時 ●卒業設計日本一決定戦2015 ・ 100選/山影悠時 ・ 100選/志萱侑太 ●福岡デザインレビュー2015 ・ 最優秀賞/堤昭文 日本一 ●赤レンガ卒業設計展2015 ・ 審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香 ●第38回学生設計優秀作品展 ・ レモン賞/堤昭文 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・ 審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 ・ 入選/志萱侑太 ・ 入選/山影悠時		●建築新人戦 ・ 101選/高橋翔 ●第8回 JACS 住宅設計コンペ2014 ・ 佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔 ●キルコス国際コンペティション2014 ・ 五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花 ●第6回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司 ・ 佳作/浦井匠、遠洞躍斗、山影悠時 ●歴史的空間再編コンペティション2014 ・ 20選/浦井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼 ●平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・ デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹 ・ 佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村菜香、福島弘明、増田顕弘
27	●第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/高橋翔 日本一 ●第28回千葉県建築学生賞 ・ 市民賞 2 位・奨励賞/高橋翔 ・ 奨励賞/重田秀之	●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015 ・ 入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人	●日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション ・ 佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗 ●Floating City Project Architectural Design Contest ・ 佳作/佐藤信治研究室 ●シェルターインターナショナル学生設計競技2015 ・ 一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●第9回 JACS 住宅設計コンペ2015 ・ 特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人 ・ 佳作/志萱侑太 ●平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 地域二 ●公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション ・ 実施採択/川崎将 ●第7回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●歴史的空間再編コンペティション2015 ・ 10選/出山亮 ・ 20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美衣 ・ 50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口稚奈、蒲生良輔、濱嶋杜人 ●第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ ・ 審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎 ●第1回学生アイデアコンペティション「共のレシピ」 ・ 特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2015 ・ 近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太

平成27年度 設計製図担当教員一覧

1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科
内海智行（ベーシックデザイン演習）／ミリグラムスタジオ
佐藤浩平（ベーシックデザイン演習）／佐藤浩平建築設計事務所
神野郁也（ベーシックデザイン演習）／神野郁也アーキテクト
玉上貴人（ベーシックデザイン演習）／タカトタマガミデザイン
鶴田伸介（ベーシックデザイン演習）／熊工房
廣部剛司（ベーシックデザイン演習）／廣部剛司建築設計室
水野吉樹（ベーシックデザイン演習）／㈱竹中工務店

2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

畔柳昭雄（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科
石川雅英（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／Architects Office
井上武司（デザイン演習Ⅱ）／Tak 建築計画工房
榎本弘之（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／㈱榎本弘之建築研究所
川久保智康（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／川久保智康建築設計事務所
木内厚子（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／STUDIO 8
佐藤浩平（デザイン演習Ⅰ）／佐藤浩平建築設計事務所
鶴田伸介（デザイン演習Ⅰ）／熊工房
長井義紀（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／長井義紀アーキ・スタジオ
松井正澄（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／アトリエトド

3年生（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科
内海智行（デザイン演習Ⅲ）／ミリグラムスタジオ
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／大成建設㈱
神野郁也（デザイン演習Ⅲ）／神野郁也アーキテクト
玉上貴人（デザイン演習Ⅲ）／タカトタマガミデザイン
廣部剛司（デザイン演習Ⅲ）／廣部剛司建築設計室
水野吉樹（デザイン演習Ⅲ）／㈱竹中工務店
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所㈱

4年生（総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ）

畔柳昭雄（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科
坪井塑太郎（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科
桜井慎一（総合演習Ⅱ）／海洋建築工学科
高島秀訓（総合演習Ⅱ）／海洋建築工学科
近藤健雄（総合演習Ⅲ）／海洋建築工学科
佐藤信治（総合演習Ⅲ）／海洋建築工学科
山本和清（総合演習Ⅲ）／海洋建築工学科
井上武司（総合演習Ⅲ）／Tak 建築計画工房
宮崎 渉（総合演習Ⅲ）／㈱地域環境総合計画研究所